

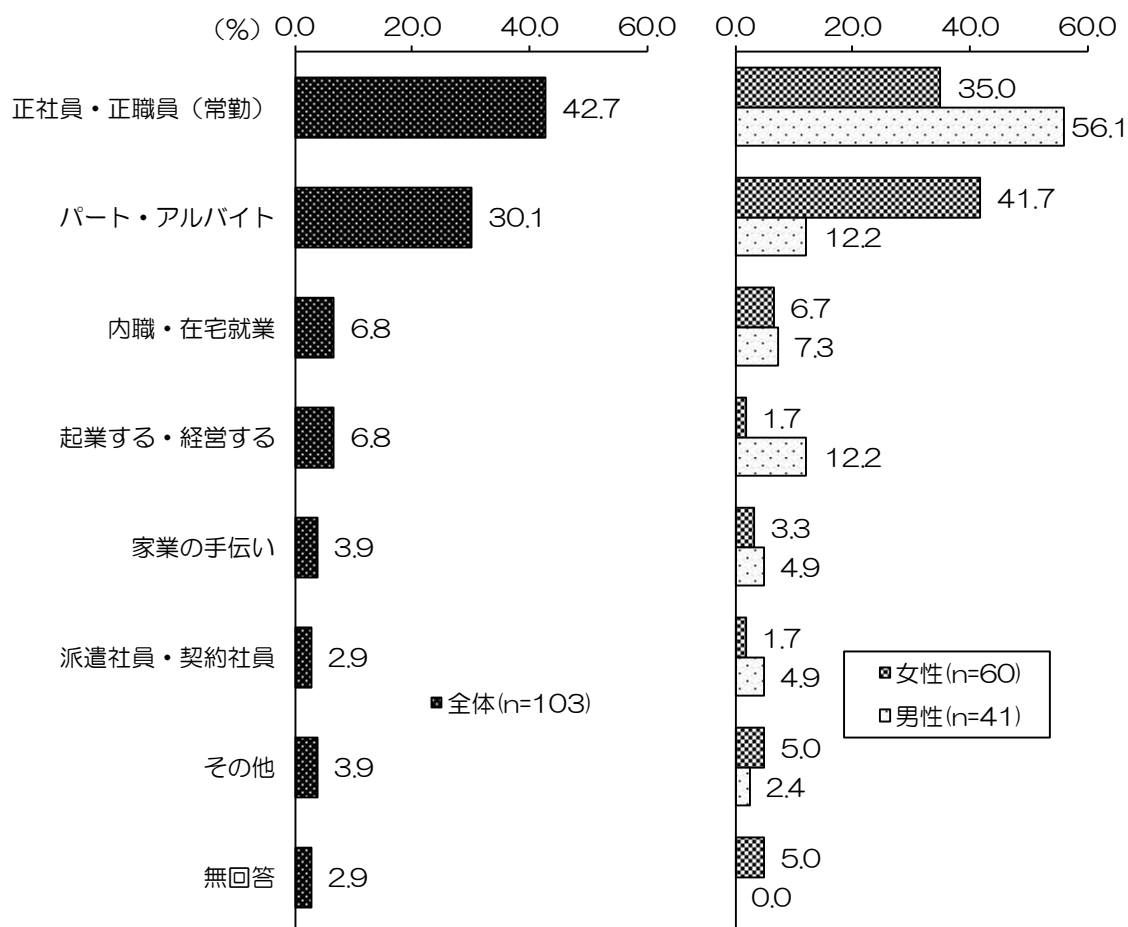
## (4) 就労形態の希望

問 17-3. あなたが職業をもって働くとしたら、どのように働きたいですか。

(○は1つ)

就労形態の希望については、「正社員・正職員（常勤）」が 42.7%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」（30.1%）の順となっています。

性別では、女性で「パート・アルバイト」、男性で「正社員・正職員（常勤）」がそれぞれ高くなっています。

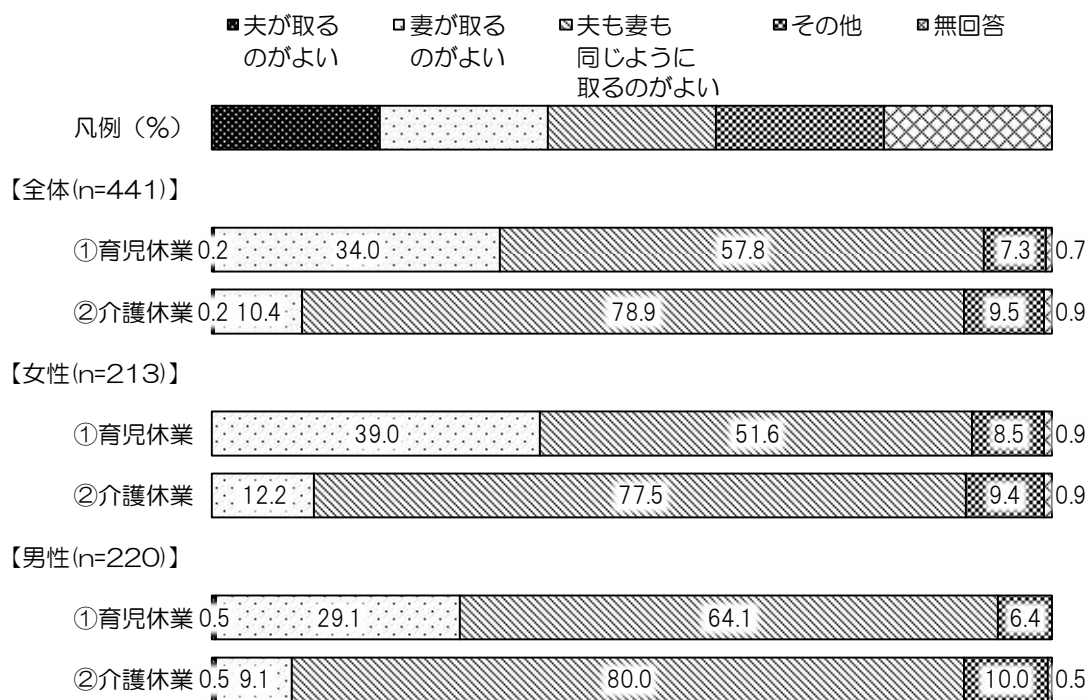


### (5) 共働き世帯による育児・介護休業の理想的な取得パターン

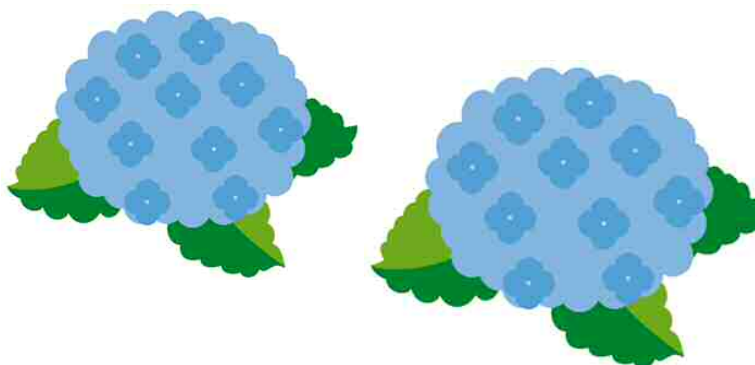
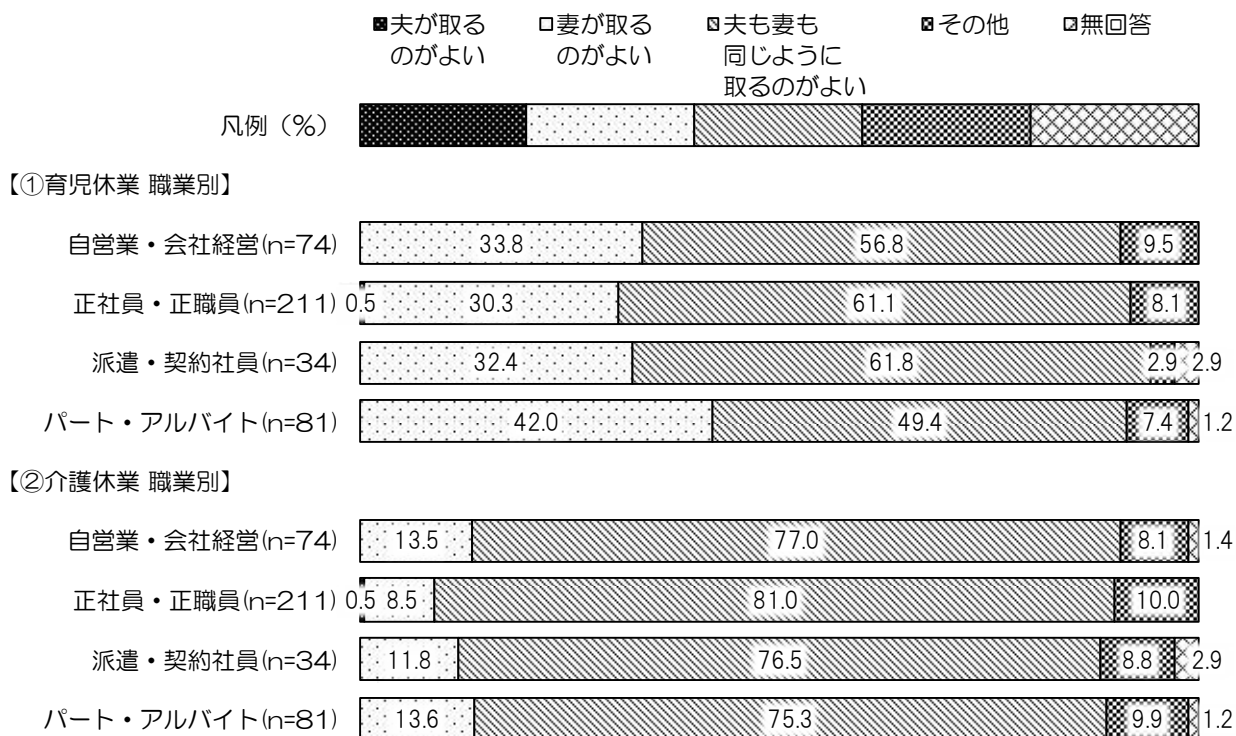
問 17-4. 家庭で育児や介護が必要なとき、共働きの夫婦が育児休業や介護休業を取るとしたら、どうするのがよいと思いますか。それぞれについてお答えください。  
(〇は各1つずつ)

共働き世帯による「①育児休業」「②介護休業」の理想的な取得パターンについては、いずれも「夫も妻も同じように取るのがよい」が最も高く、「②介護休業」では8割近く（78.9%）を占めます。また、「①育児休業」は3割以上（34.0%）が「妻が取るのがよい」と回答しています。

性別でみても全体傾向と同様の結果となっており、「①育児休業」について女性の4割近く（39.0%）が「妻が取るのがよい」と回答しており、男性の回答率（29.1%）を上回っています。



職業別では、「①育児休業」についてパート・アルバイトで「妻が取るのがよい」がやや高く、「②介護休業」については、職業別による差は目立ちません。

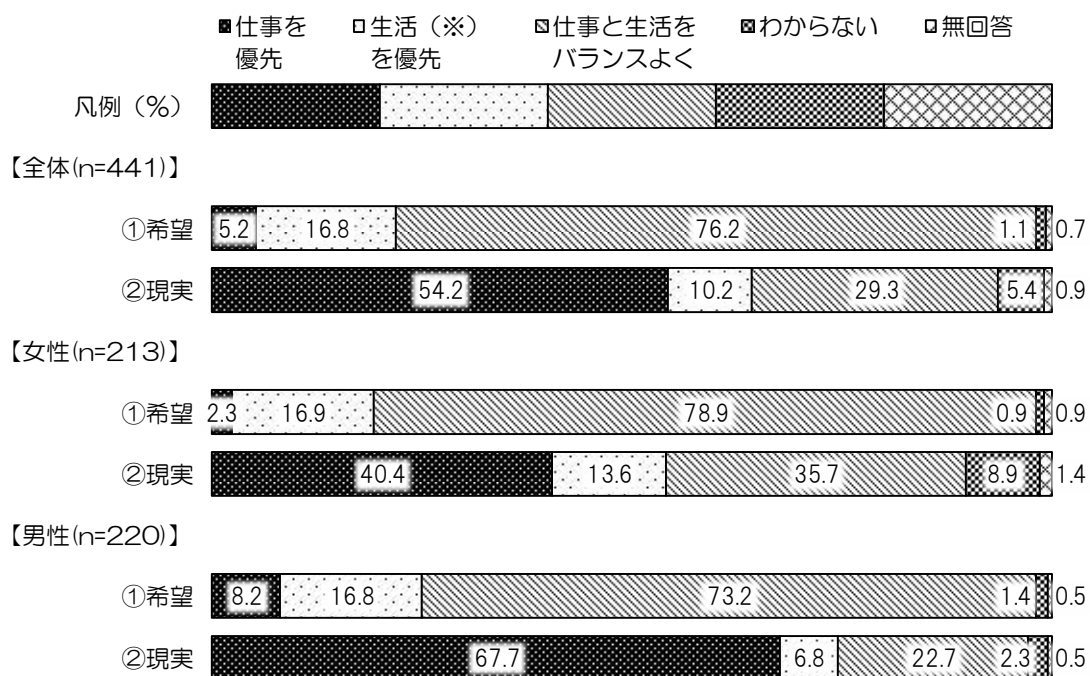


## (6) ワーク・ライフ・バランスの希望と現実

問 17-5. 充実感を感じて働き，仕事上の責任を果たしながら，家庭や地域活動などでも，人生の各段階に応じて多様な生き方を各個人が選択できる『ワーク・ライフ・バランス』という考え方がありますが，日々の暮らしの中での時間の使い方について，「希望」と「現実」をお答えください。（〇は各1つずつ）

ワーク・ライフ・バランスについて，希望は「仕事と生活をバランスよく」が76.2%と最も高い一方で，現実には「仕事を優先」が半数を占め，「仕事と生活をバランスよく」は3割となっています。

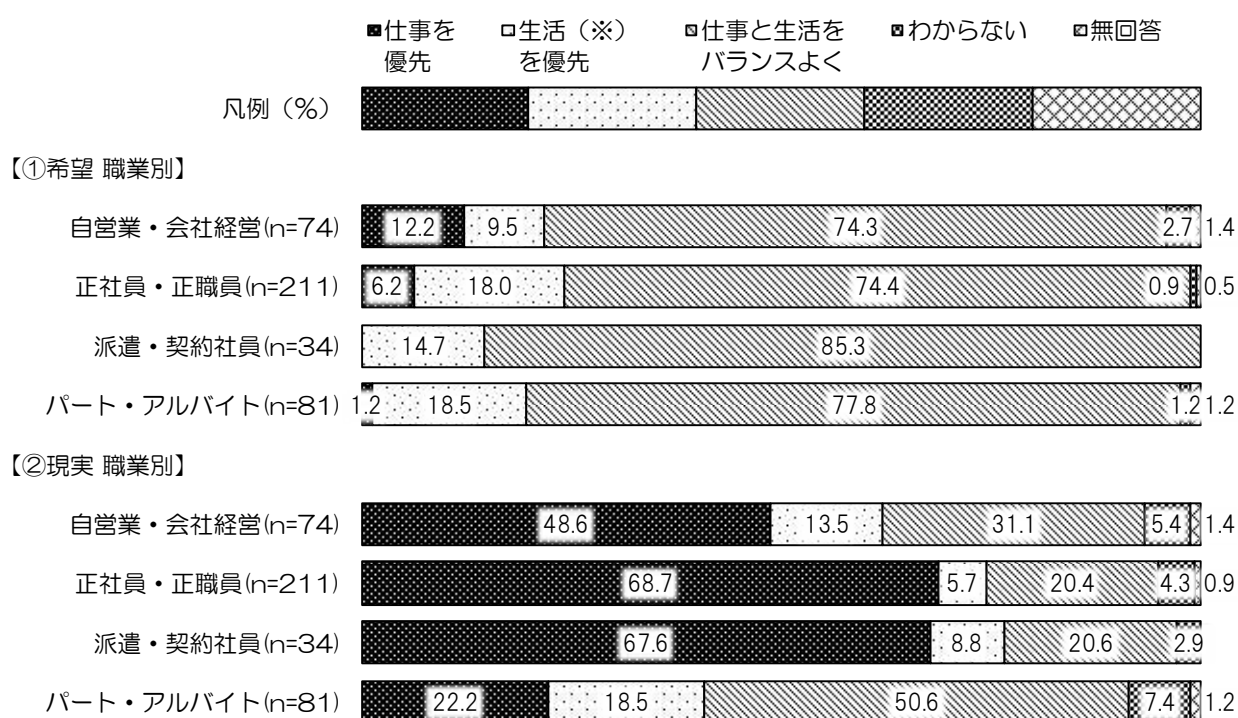
性別では，男女とも希望は「仕事と生活をバランスよく」が最も高くなっています。現実については，女性で「仕事を優先」が「仕事と生活をバランスよく」と拮抗し，男性では67.7%が「仕事を優先」と回答しています。



(※)趣味や家庭での時間など

職業別にみると、希望については、自営業・会社経営で「仕事を優先」が他の職業に比べてやや高いものの、全般的に「仕事と生活をバランスよく」が高くなっています。

現実については、正社員・正職員や派遣・契約社員で「仕事を優先」が7割近くを占めます。一方で、パート・アルバイトの半数が現実についても「仕事と生活をバランスよく」と回答しています。



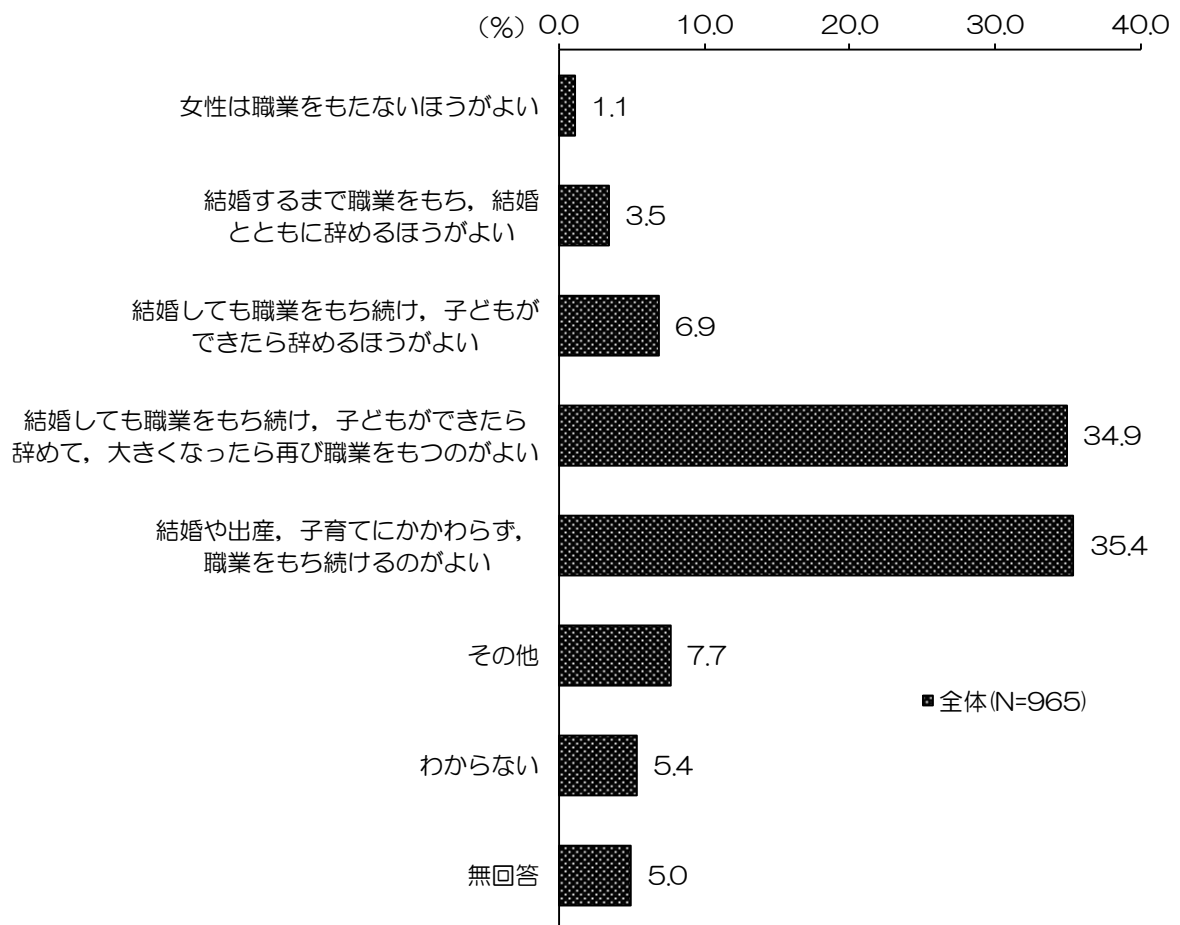
(※)趣味や家庭での時間など

## 2 女性が職業をもつことについて

問 18. 女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。

(○は1つ)

女性が職業をもつことについては、「結婚や出産、子育てにかかわらず、職業をもち続けるのがよい」の割合が 35.4%と最も高く、ほぼ並んで「結婚しても職業をもち続け、子どもができたなら辞めて、大きくなったら再び職業をもつのがよい」(34.9%)が続いており、性別による差は目立ちません。



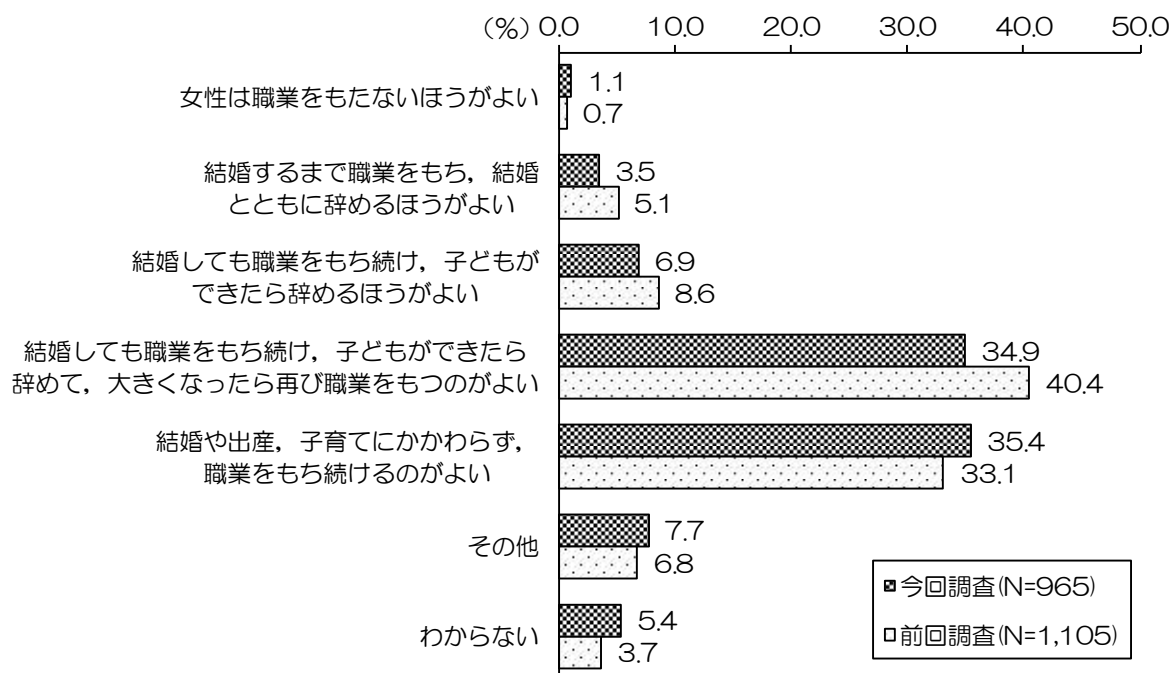
性・年齢別では、女性 30 歳代と男性 40～50 歳代で「結婚や出産、子育てにかかわらず、職業をもち続けるのがよい」が高く、女性 80 歳以上で「結婚しても職業をもち続け、子どもができたなら辞めるほうがよい」、男性 80 歳以上で「結婚しても職業をもち続け、子どもができたなら辞めて、大きくなったら再び職業をもつのがよい」が他の年齢層に比べてそれぞれ高くなっています。

仕事の有無別では、仕事をしている層で「結婚や出産、子育てにかかわらず、職業をもち続けるのがよい」が高くなっています。

単位 (%)	サンプル数 (件数)	女性は職業をもちたいほうがよい	結婚するまで職業をもち、結婚とともに辞めるほうがよい	結婚してからも職業をもち続け、子どもができたなら辞めるほうがよい	結婚してからも職業をもち続け、子どもができたなら職業をもつのがよい	結婚、職業をもち子育てにかかわらず	その他	わからない	
全体	965	1.1	3.5	6.9	34.9	35.4	7.7	5.4	
【性別】									
女性	535	0.9	3.7	5.8	34.2	35.7	8.2	6.7	
男性	415	1.4	3.1	8.4	36.6	34.9	6.7	3.9	
【性・年齢別】									
女性	29歳以下	59	0.0	6.8	10.2	25.4	28.8	15.3	10.2
	30歳代	65	1.5	1.5	3.1	32.3	47.7	4.6	9.2
	40歳代	76	0.0	1.3	3.9	35.5	39.5	13.2	6.6
	50歳代	78	0.0	3.8	2.6	37.2	35.9	12.8	5.1
	60歳代	105	1.9	1.0	3.8	39.0	38.1	5.7	7.6
	70歳代	109	0.9	6.4	5.5	37.6	31.2	4.6	3.7
	80歳以上	42	2.4	7.1	19.0	21.4	26.2	0.0	7.1
男性	29歳以下	37	2.7	0.0	10.8	35.1	24.3	16.2	5.4
	30歳代	43	0.0	2.3	7.0	32.6	34.9	14.0	7.0
	40歳代	59	0.0	1.7	8.5	22.0	50.8	10.2	6.8
	50歳代	48	0.0	0.0	2.1	31.3	50.0	8.3	8.3
	60歳代	73	0.0	1.4	8.2	42.5	39.7	4.1	0.0
	70歳代	94	3.2	8.5	11.7	38.3	27.7	2.1	2.1
	80歳以上	61	3.3	3.3	8.2	49.2	19.7	1.6	1.6
【仕事の有無別】									
仕事をしている	441	0.5	1.8	5.4	33.6	42.9	9.1	5.9	
仕事をしていない	477	1.9	5.2	8.6	36.3	28.5	7.1	5.5	

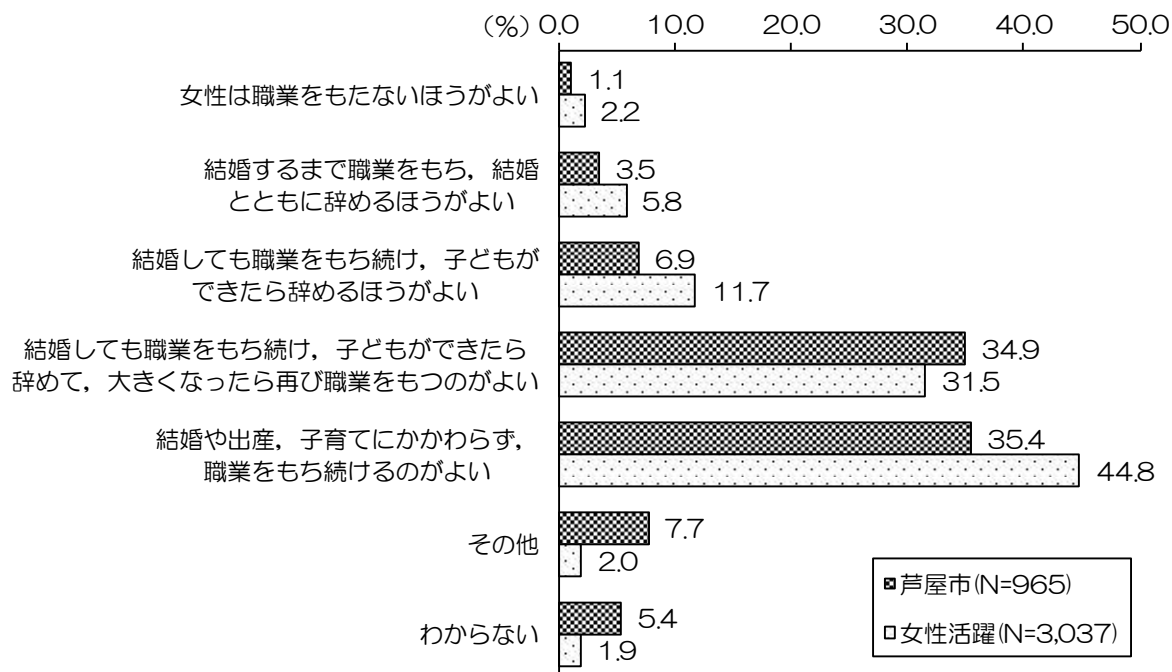
### 参考／前回調査との比較

「結婚しても職業をもち続け、子どもができたなら辞めて、大きくなったら再び職業をもつのがよい」については前回調査よりも5.5ポイントと低くなっていますが、その他の項目については大きな変化はみられません。



### 参考／女性活躍との比較

「結婚や出産、子育てにかかわらず、職業をもち続けるのがよい」については女性活躍よりも9.4ポイントと下回っていますが、その他の項目については大きな変化はみられません。



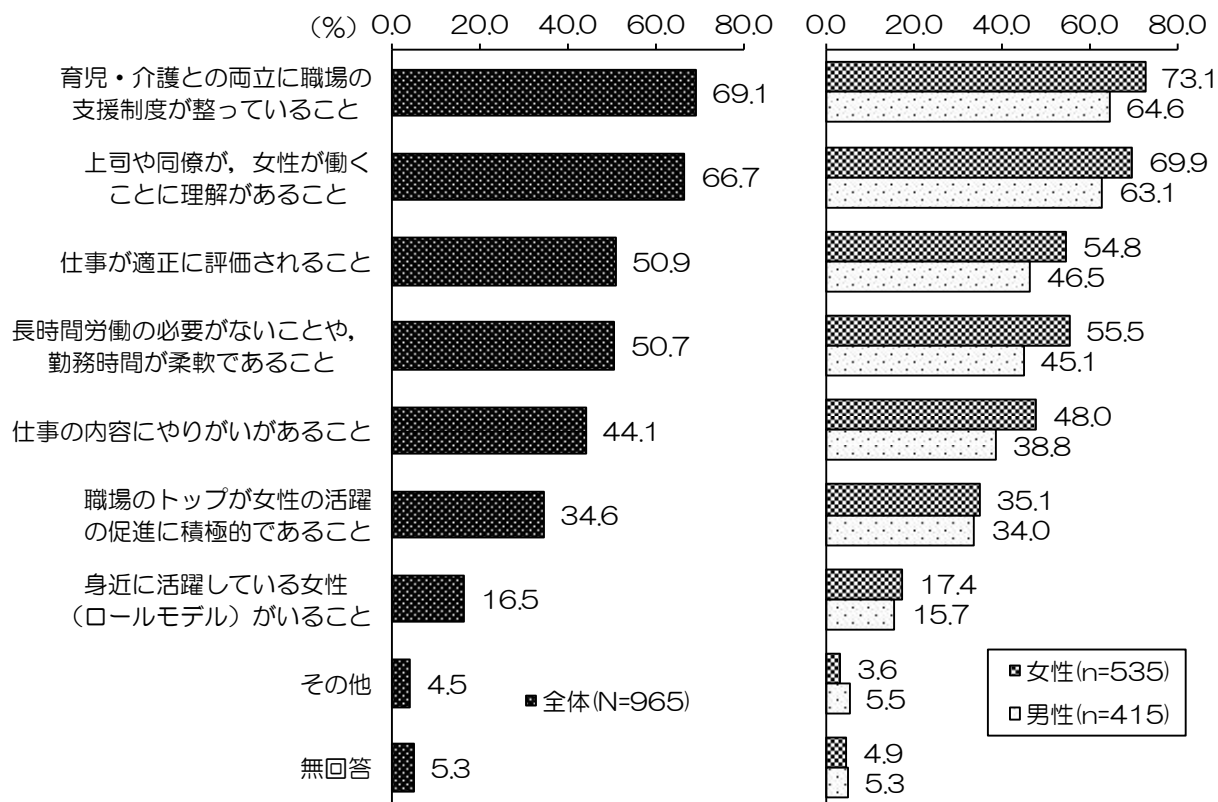


### 3 女性が活躍できる仕事・職場環境に必要なこと

問 19. 女性が活躍できる仕事・職場環境にするために、必要なことは何だと思えますか。（〇はいくつでも）

女性が活躍できる仕事・職場環境に必要なことについては、「育児・介護との両立に職場の支援制度が整っていること」が 69.1%と最も高く、次いで「上司や同僚が、女性が働くことに理解があること」（66.7%）、「仕事が適正に評価されること」（50.9%）、「長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること」（50.7%）の順となっています。

性別では、男性に比べて女性で「育児・介護との両立に職場の支援制度が整っていること」「上司や同僚が、女性が働くことに理解があること」「仕事が適正に評価されること」「長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること」「仕事の内容にやりがいがあること」が高くなっています。



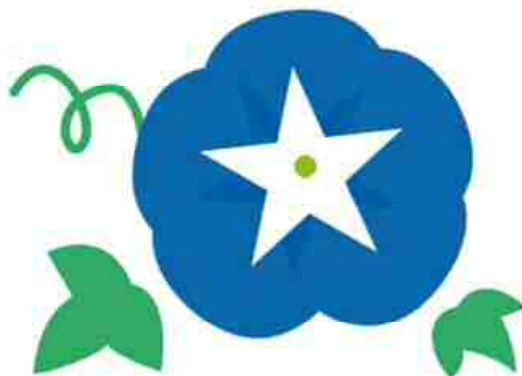
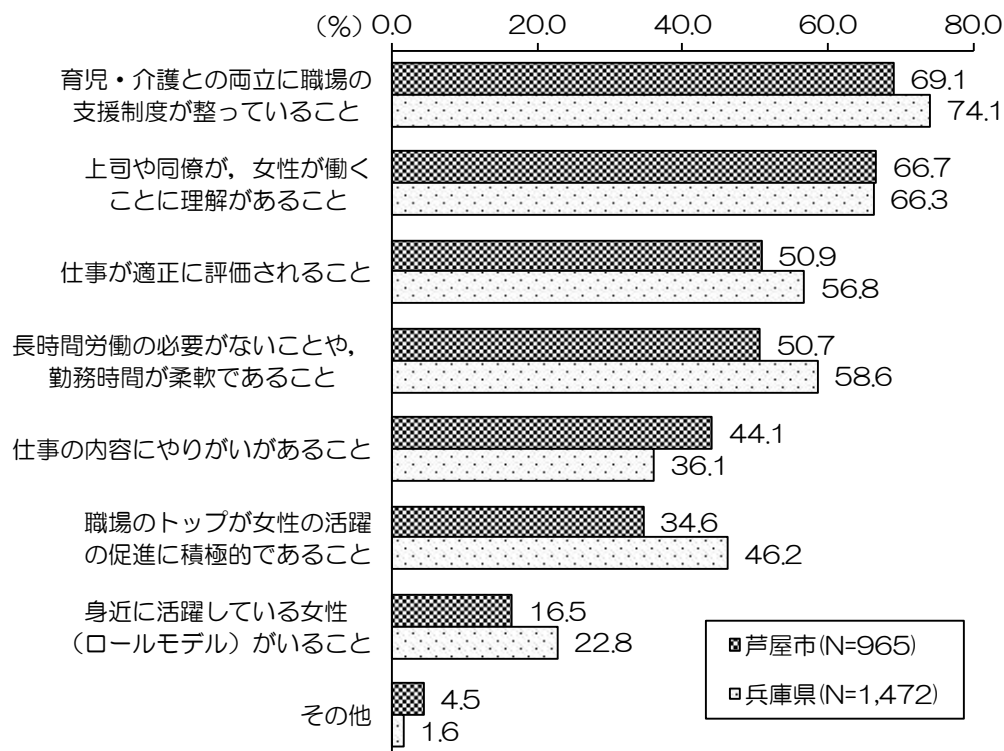
性・年齢別では、女性の30歳代で「長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること」「身近に活躍している女性（ロールモデル）がいること」、50歳代で「仕事の内容にやりがいがあること」が他の年齢層に比べて高くなっています。

職業別では、派遣・契約社員、パート・アルバイト、学生で「仕事が適正に評価されること」が高く、それに加えてパート・アルバイトで「長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること」も高くなっています。

単位 (%)	サンプル数 (件数)	整った職場にいること	育児・介護の支度	あがること	上司や同僚が理	仕事が適正に評価さ	間が柔軟である、勤務要	ながいこと、必要	い仕事の内容にやりが	的であること	の活躍の促進に積極	職場のトツプに女性	ル）がいること	女性への活躍を促	その他
全体	965	69.1	66.7	50.9	50.7	44.1	34.6	16.5	4.5						
【性・年齢別】															
女性	29歳以下	59	76.3	66.1	57.6	55.9	40.7	40.7	20.3	3.4					
	30歳代	65	78.5	70.8	50.8	70.8	43.1	36.9	29.2	3.1					
	40歳代	76	75.0	71.1	60.5	59.2	43.4	32.9	19.7	3.9					
	50歳代	78	79.5	69.2	56.4	59.0	56.4	35.9	20.5	9.0					
	60歳代	105	79.0	74.3	57.1	60.0	52.4	34.3	16.2	2.9					
	70歳代	109	63.3	67.9	50.5	42.2	50.5	33.0	9.2	1.8					
	80歳以上	42	57.1	66.7	50.0	40.5	42.9	35.7	9.5	0.0					
男性	29歳以下	37	51.4	59.5	48.6	56.8	24.3	27.0	13.5	2.7					
	30歳代	43	81.4	72.1	51.2	55.8	25.6	23.3	23.3	4.7					
	40歳代	59	69.5	61.0	44.1	45.8	33.9	37.3	23.7	10.2					
	50歳代	48	47.9	47.9	41.7	54.2	43.8	37.5	22.9	12.5					
	60歳代	73	74.0	74.0	50.7	45.2	46.6	38.4	19.2	6.8					
	70歳代	94	69.1	58.5	45.7	37.2	42.6	34.0	5.3	3.2					
	80歳以上	61	50.8	67.2	44.3	34.4	42.6	34.4	9.8	0.0					
【職業別】															
自営業・会社経営	78	62.8	66.7	44.9	41.0	47.4	29.5	20.5	9.0						
正社員・正職員	214	72.0	64.5	47.7	55.1	43.9	38.3	23.8	7.0						
派遣・契約社員	35	71.4	71.4	62.9	45.7	34.3	25.7	11.4	11.4						
パート・アルバイト	90	77.8	63.3	65.6	66.7	42.2	37.8	18.9	2.2						
主婦・主夫	239	72.8	70.3	49.0	54.0	48.1	28.9	13.0	2.1						
学生	41	68.3	65.9	68.3	56.1	41.5	41.5	26.8	2.4						
無職	226	61.1	65.9	48.2	40.3	42.9	37.6	11.5	3.1						

## 参考／兵庫県との比較

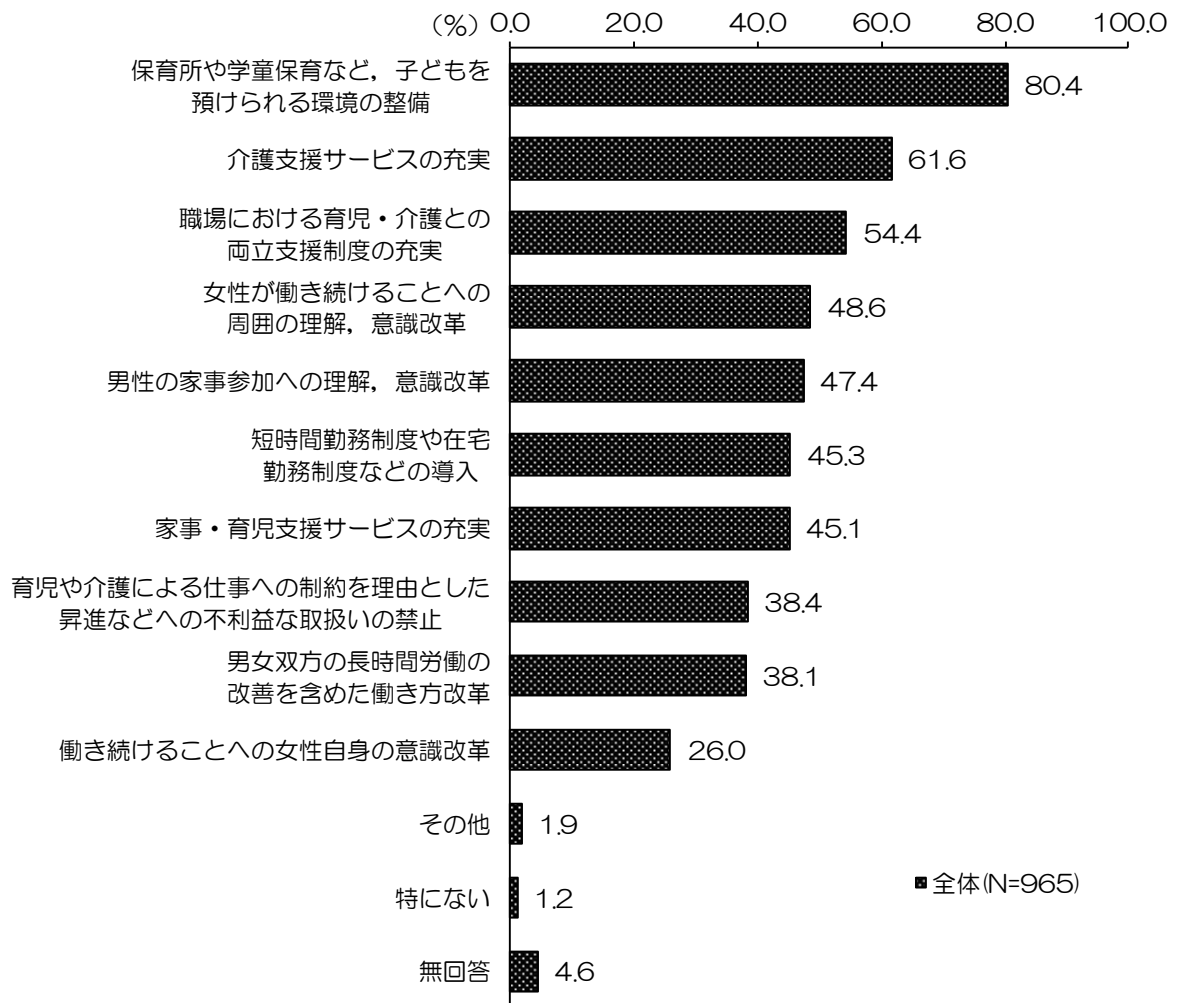
「仕事の内容にやりがいがあること」については兵庫県よりも高くなっていますが、「職場のトップが女性の活躍の促進に積極的であること」については11.6ポイント低くなっています。



#### 4 女性が働き続けるために必要なこと

問 20. あなたは、女性が出産や介護による離職をしないで同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。（〇はいくつでも）

女性が働き続けるために必要なことについては、「保育所や学童保育など、子どもを預けられる環境の整備」の割合が 80.4%と最も高く、次いで「介護支援サービスの充実」（61.6%）、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」（54.4%）の順となっています。



性別では、男性に比べて女性で「男性の家事参加への理解，意識改革」が特に高くなっています。

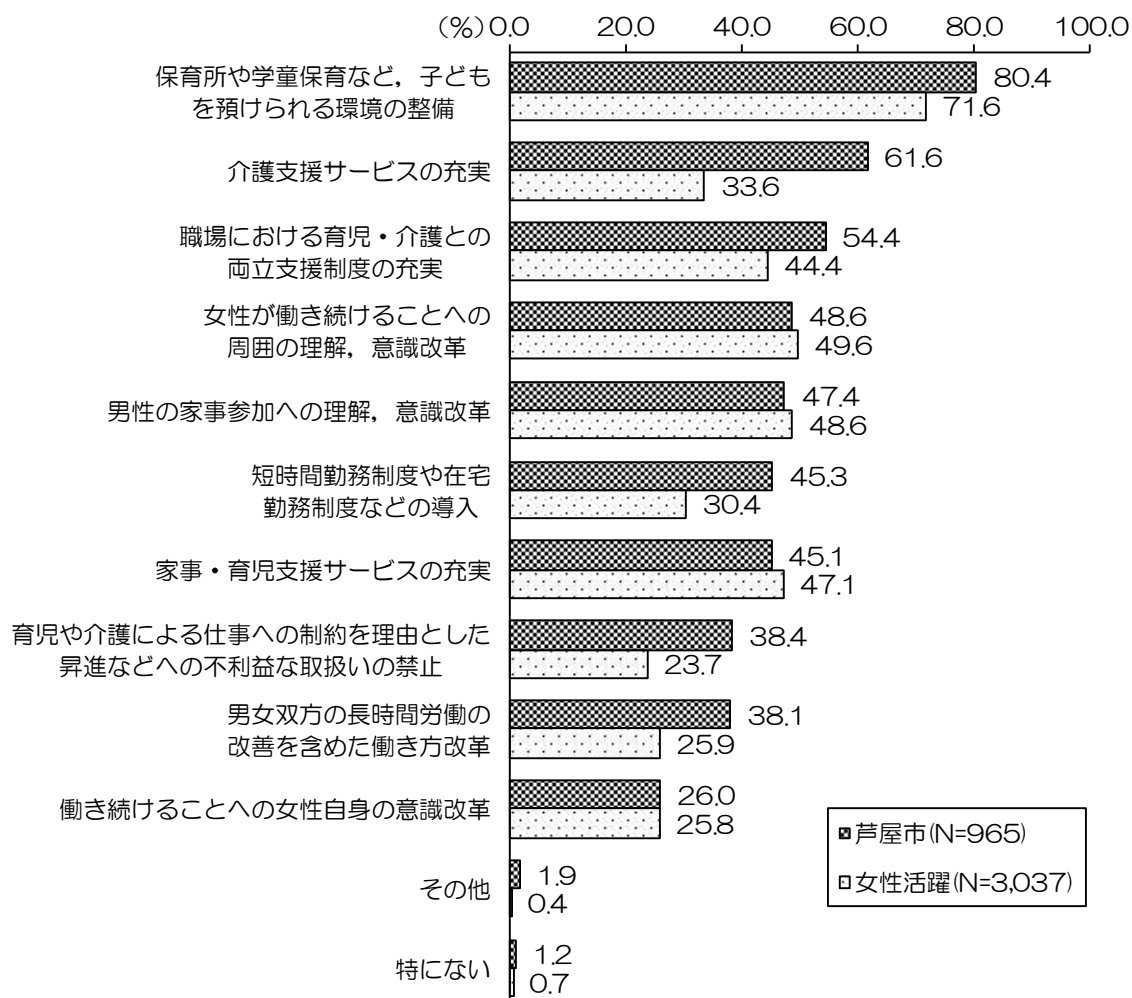
性・年齢別では、男女 50 歳代で「介護支援サービスの充実」，女性 29 歳以下で「女性が働き続けることへの周囲の理解，意識改革」，男性 30 歳代で「男性の家事参加への理解，意識改革」「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」が他の層に比べてそれぞれ高くなっています。また、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」は女性 40 歳代と男女の 60 歳代、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」は男女 30 歳代と女性 50 歳代がそれぞれ高く，男女とも若い年齢層ほど「育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止」がおおむね高くなっています。

職業別では、自営業・会社経営で「家事・育児支援サービスの充実」，正社員・正職員で「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」が高くなっています。また，派遣・契約社員とパート・アルバイトで「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」が共通して高くなっています。さらに派遣・契約社員で「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」「男性の家事参加への理解，意識改革」「育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止」「働き続けることへの女性自身の意識改革」，パート・アルバイトで「介護支援サービスの充実」がそれぞれ高くなっています。

単位 (%)	サンプル数 (件数)	保育所や学童保育など整備もを預けられる環境の整備	介護支援サービスの充実	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	女性が働き続けることへの周知の理解、意識改革	男性の家事参加への理解、意識改革	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	家事・育児支援サービスの充実	不利益な取扱いの禁止	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの制約	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	働き続けることへの女性自身の意識改革	その他	特になし
全体	965	80.4	61.6	54.4	48.6	47.4	45.3	45.1	38.4	38.1	26.0	1.9	1.2	
【性別】														
女性	535	80.2	63.7	55.7	51.0	51.8	48.6	45.0	39.3	38.9	25.0	1.7	1.1	
男性	415	81.4	59.0	53.3	45.3	41.9	41.2	45.1	37.3	37.1	27.2	2.2	1.4	
【性・年齢別】														
女性	29歳以下	59	78.0	59.3	52.5	59.3	54.2	52.5	45.8	45.8	42.4	18.6	0.0	3.4
	30歳代	65	83.1	58.5	58.5	49.2	46.2	58.5	47.7	46.2	41.5	20.0	1.5	1.5
	40歳代	76	85.5	65.8	64.5	50.0	51.3	48.7	38.2	40.8	38.2	19.7	1.3	0.0
	50歳代	78	80.8	75.6	57.7	52.6	50.0	57.7	48.7	41.0	43.6	25.6	2.6	0.0
	60歳代	105	86.7	71.4	64.8	52.4	56.2	55.2	57.1	40.0	44.8	32.4	1.9	1.0
	70歳代	109	74.3	55.0	50.5	51.4	51.4	40.4	38.5	31.2	32.1	27.5	1.8	1.8
	80歳以上	42	69.0	57.1	28.6	38.1	50.0	16.7	33.3	33.3	23.8	26.2	2.4	0.0
男性	29歳以下	37	64.9	51.4	40.5	35.1	37.8	37.8	37.8	48.6	45.9	13.5	0.0	2.7
	30歳代	43	83.7	53.5	62.8	55.8	60.5	62.8	46.5	46.5	48.8	25.6	2.3	0.0
	40歳代	59	86.4	64.4	50.8	49.2	44.1	45.8	49.2	40.7	39.0	27.1	6.8	3.4
	50歳代	48	87.5	79.2	52.1	33.3	45.8	39.6	50.0	39.6	41.7	27.1	4.2	0.0
	60歳代	73	84.9	63.0	67.1	57.5	43.8	41.1	46.6	37.0	42.5	31.5	0.0	0.0
	70歳代	94	83.0	53.2	52.1	43.6	29.8	31.9	46.8	30.9	25.5	28.7	1.1	2.1
	80歳以上	61	73.8	50.8	42.6	37.7	42.6	39.3	36.1	29.5	29.5	29.5	1.6	1.6
【職業別】														
自営業・会社経営	78	79.5	60.3	44.9	48.7	43.6	35.9	55.1	30.8	30.8	26.9	2.6	3.8	
正社員・正職員	214	86.9	66.8	59.8	49.5	47.7	51.4	46.3	45.8	49.5	26.6	2.8	0.5	
派遣・契約社員	35	82.9	65.7	71.4	57.1	68.6	60.0	42.9	57.1	28.6	37.1	5.7	0.0	
パート・アルバイト	90	82.2	77.8	58.9	50.0	46.7	60.0	50.0	36.7	42.2	24.4	0.0	2.2	
主婦・主夫	239	78.7	58.6	54.0	50.2	52.3	47.3	40.2	32.2	36.4	22.6	1.3	0.4	
学生	41	78.0	63.4	51.2	46.3	58.5	36.6	46.3	53.7	46.3	17.1	0.0	2.4	
無職	226	76.5	52.2	49.6	43.8	38.5	34.5	44.2	34.5	30.5	28.8	1.3	1.3	

参考／女性活躍との比較

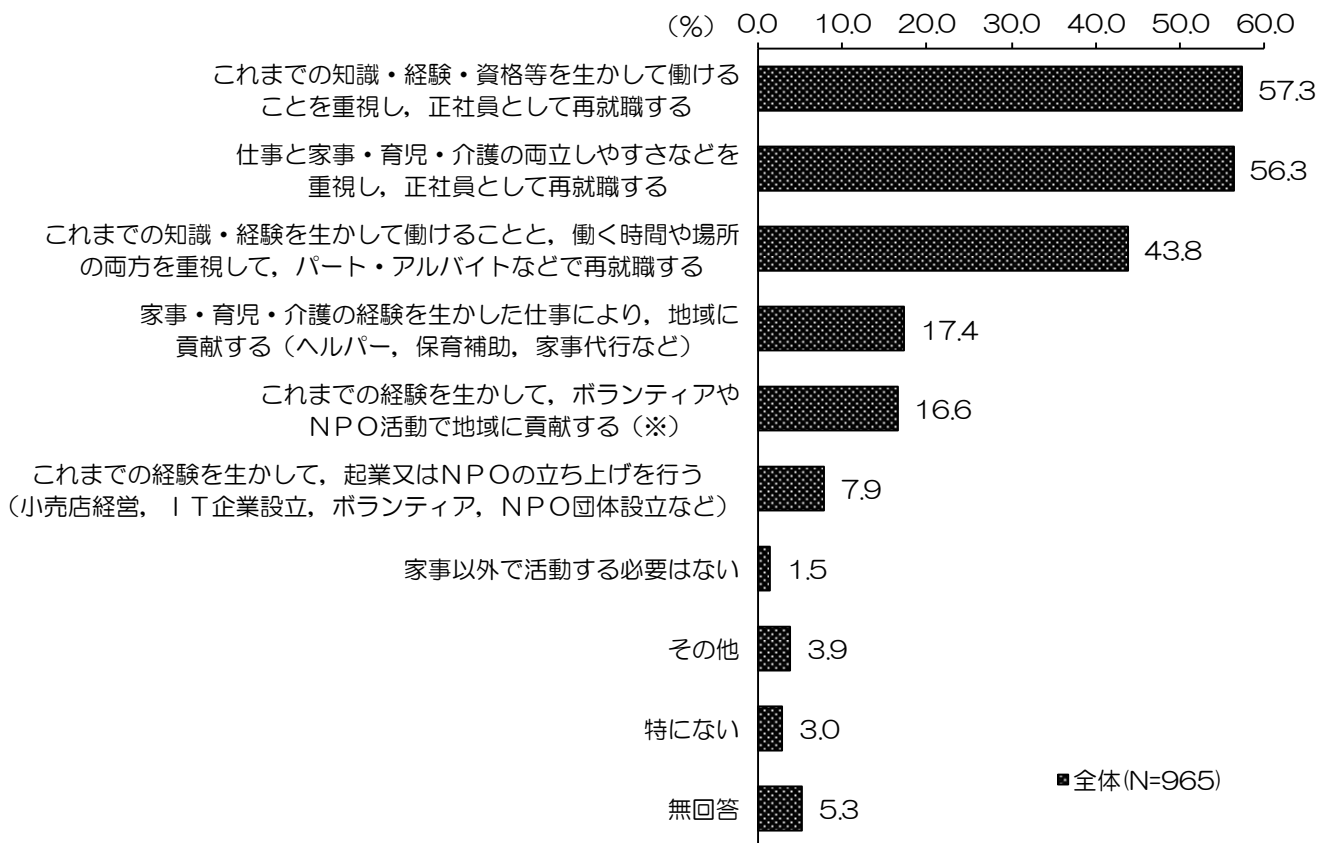
「介護支援サービスの充実」については女性活躍よりも 28.0 ポイントと大幅に高くなっているほか、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」「育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止」「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」については 10 ポイントを超えて高くなっています。



## 5 離職した女性の社会復帰について

問 21. 出産などでいったん離職した女性が、再び社会で活動する仕方として、あなたが望ましいと思うものは何ですか。（〇はいくつでも）

離職した女性の社会復帰については、「これまでの知識・経験・資格等を生かして働けることを重視し、正社員として再就職する」が57.3%と最も高く、次いで「仕事と家事・育児・介護の両立しやすさを重視し、正社員として再就職する」(56.3%)、「これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」(43.8%)の順となっています。



（※）育児・介護ボランティア、PTA、防災・治安パトロール、環境を守る活動など



性別では、女性で「これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」「これまでの経験を生かして、ボランティアやNPO活動で地域に貢献する（育児・介護ボランティア、PTA、防災・治安パトロール、環境を守る活動など）」、男性で「これまでの知識・経験・資格等を生かして働けることを重視し、正社員として再就職する」が高くなっています。

職業別では、正社員・正職員と派遣・契約社員で「これまでの知識・経験・資格等を生かして働けることを重視し、正社員として再就職する」「仕事と家事・育児・介護の両立しやすさなどを重視し、正社員として再就職する」が共通して高くなっています。また、パート・アルバイトで「これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」が他の職業に比べて高くなっています。

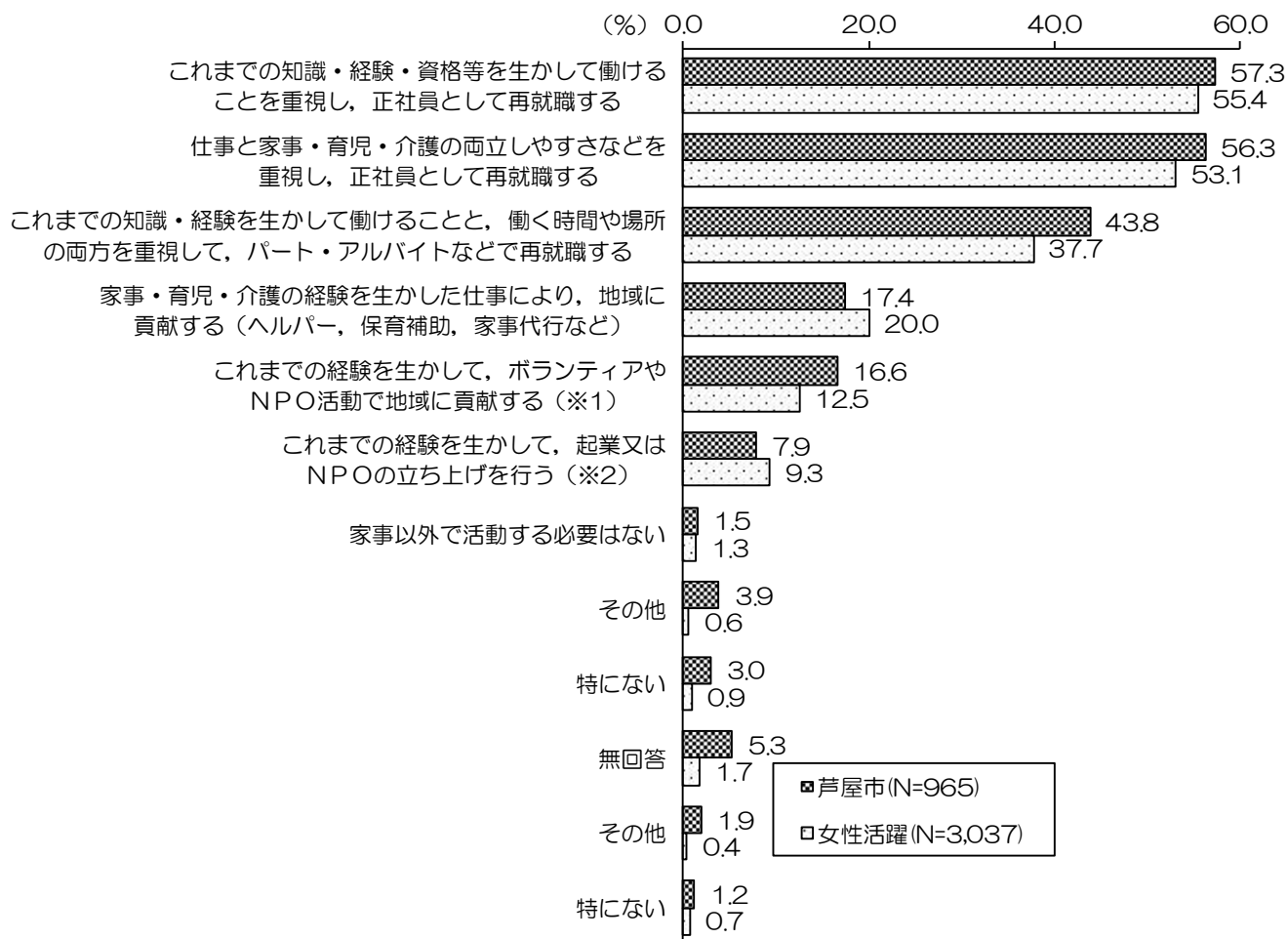
単位 (%)	サンプル数 (件数)	これまでの知識・経験を生かして働けることと、再就職を重視する	仕事と家事・育児・介護の両立しやすさなどを重視する	これまでの知識・経験を生かして働けることと、再就職を重視する	パート・アルバイトなどで再就職する	ボランティアやNPO活動で地域に貢献する	これまでの知識・経験・資格等を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する	家事以外で活動する必要はない	その他	特になし
全体	965	57.3	56.3	43.8	17.4	16.6	7.9	1.5	3.9	3.0
【性別】										
女性	535	54.0	58.3	48.4	19.6	20.7	9.2	1.3	3.7	2.4
男性	415	62.2	54.5	38.3	14.7	11.3	6.0	1.7	3.9	3.6
【職業別】										
自営業・会社経営	78	57.7	51.3	39.7	17.9	11.5	12.8	1.3	10.3	2.6
正社員・正職員	214	67.3	70.6	36.4	14.0	15.4	9.3	1.9	3.7	2.8
派遣・契約社員	35	71.4	71.4	28.6	17.1	11.4	0.0	2.9	5.7	5.7
パート・アルバイト	90	52.2	53.3	60.0	18.9	16.7	5.6	1.1	4.4	2.2
主婦・主夫	239	47.7	55.2	51.9	19.2	22.2	7.1	1.3	2.1	2.1
学生	41	48.8	56.1	36.6	2.4	9.8	2.4	4.9	4.9	4.9
無職	226	58.8	45.6	42.5	19.5	15.9	8.8	0.9	1.8	3.5

(※1) 育児・介護ボランティア、PTA、防災・治安パトロール、環境を守る活動など

(※2) 小売店経営、IT企業設立、ボランティア、NPO団体設立など

### 参考／女性活躍との比較

「これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」については、女性活躍よりも6.1ポイント高くなっていますが、その他の項目については大きな変化はみられません。



※1 育児・介護ボランティア, PTA, 防災・治安パトロール, 環境を守る活動など

※2 小売店経営, IT企業設立, ボランティア, NPO団体設立など

## 【5】市民活動（地域活動）について

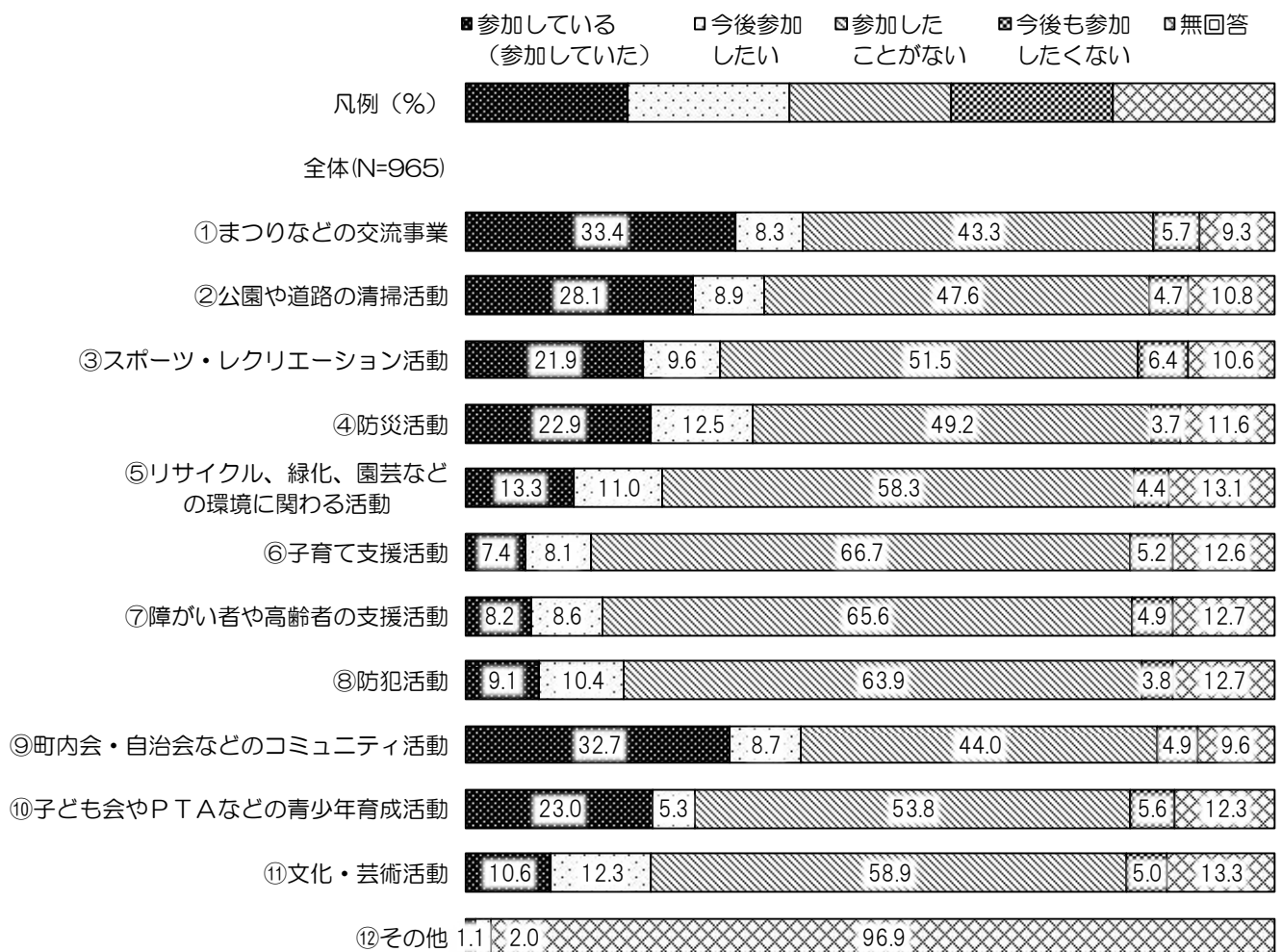
### 1 市民活動への参加状況について

#### (1) 各市民活動への参加状況・参加意向

問 22. あなたは、次のような市民活動に参加したことがありますか。また、今後参加したい市民活動はありますか。（〇はそれぞれ1つずつ）

市民活動の参加経験が高い順に、「①まつりなどの交流事業」(33.4%)、「⑨町内会・自治会などのコミュニティ活動」(32.7%)、「②公園や道路の清掃活動」(28.1%)となっています。一方、「⑥子育て支援活動」「⑦障がい者や高齢者の支援活動」「⑧防犯活動」は他の市民活動に比べて参加経験率が低くなっています。

参加意向については、「④防災活動」「⑪文化・芸術活動」「⑤リサイクル、緑化、園芸などの環境に関わる活動」の順に割合がやや高くなっています。



性別では、男性に比べて女性で、特に「①まつりなどの交流事業」「⑩子ども会やPTAなどの青少年育成活動」の参加経験が高く、男性は市民活動全般において「参加したことがない」が高くなっています。

性・年齢別で参加経験が高いのは、「①まつりなどの交流事業」は女性 40～60 歳代、「②公園や道路の清掃活動」は女性 60 歳代、「⑨町内会・自治会などのコミュニティ活動」は女性 60～70 歳代、「⑩子ども会やPTAなどの青少年育成活動」は女性 40～60 歳代となっています。また、女性の 40 歳代と 60 歳代で「③スポーツ・レクリエーション活動」「④防災活動」などの参加経験が高く、「④防災活動」については男性 50 歳代の参加経験も高くなっています。

参加意向に関して、「①まつりなどの交流事業」は女性 30 歳代、「⑪文化・芸術活動」は女性 40 歳代で高くなっています。

単位 (%)	サンプル数 (件)	①まつりなどの交流事業				②公園や道路の清掃活動				③スポーツ・レクリエーション活動				
		(参加している)	今後参加したい	い参加したことがない	な今後も参加したくない	(参加している)	今後参加したい	い参加したことがない	な今後も参加したくない	(参加している)	今後参加したい	い参加したことがない	な今後も参加したくない	
全体	965	33.4	8.3	43.3	5.7	28.1	8.9	47.6	4.7	21.9	9.6	51.5	6.4	
【性別】														
女性	535	38.3	8.4	37.0	5.4	29.7	9.7	44.9	4.1	23.7	8.6	49.2	7.1	
男性	415	27.5	7.7	51.3	6.3	25.8	8.0	51.3	5.5	20.0	10.8	54.2	5.8	
【性・年齢別】														
女性	29歳以下	59	40.7	6.8	45.8	5.1	20.3	11.9	62.7	3.4	11.9	11.9	64.4	8.5
	30歳代	65	27.7	20.0	43.1	6.2	9.2	15.4	67.7	4.6	10.8	15.4	64.6	6.2
	40歳代	76	48.7	9.2	34.2	3.9	27.6	11.8	50.0	5.3	34.2	9.2	44.7	7.9
	50歳代	78	42.3	5.1	35.9	9.0	33.3	7.7	43.6	7.7	16.7	9.0	52.6	12.8
	60歳代	105	44.8	7.6	38.1	4.8	41.0	9.5	37.1	2.9	35.2	8.6	42.9	5.7
	70歳代	109	34.9	5.5	33.9	4.6	36.7	8.3	33.0	1.8	24.8	3.7	45.9	5.5
	80歳以上	42	16.7	7.1	28.6	4.8	26.2	2.4	26.2	4.8	23.8	4.8	28.6	2.4
男性	29歳以下	37	32.4	16.2	37.8	10.8	32.4	13.5	43.2	8.1	21.6	13.5	45.9	16.2
	30歳代	43	25.6	11.6	53.5	7.0	14.0	11.6	62.8	9.3	16.3	20.9	55.8	4.7
	40歳代	59	28.8	8.5	55.9	3.4	22.0	6.8	64.4	3.4	16.9	11.9	64.4	3.4
	50歳代	48	35.4	8.3	43.8	6.3	31.3	6.3	45.8	6.3	22.9	6.3	58.3	4.2
	60歳代	73	20.5	6.8	64.4	5.5	24.7	5.5	60.3	5.5	15.1	6.8	71.2	2.7
	70歳代	94	26.6	6.4	50.0	6.4	30.9	10.6	42.6	4.3	20.2	13.8	46.8	5.3
	80歳以上	61	27.9	1.6	45.9	6.6	23.0	3.3	42.6	4.9	27.9	4.9	36.1	8.2

単位 (%)	サンプル数 (件)	④防災活動				⑤リサイクル、緑化、園芸などの環境に関わる活動				⑥子育て支援活動				
		(参加している)	今後参加したい	い参加したことがな	ない今後も参加したく	(参加している)	今後参加したい	い参加したことがな	ない今後も参加したく	(参加している)	今後参加したい	い参加したことがな	ない今後も参加したく	
全体	965	22.9	12.5	49.2	3.7	13.3	11.0	58.3	4.4	7.4	8.1	66.7	5.2	
【性別】														
女性	535	23.7	12.1	47.5	3.0	15.1	11.8	54.2	4.1	10.5	9.3	61.3	5.4	
男性	415	22.2	12.8	51.3	4.8	10.6	10.1	63.9	4.8	3.6	6.3	74.0	5.1	
【性・年齢別】														
女性	29歳以下	59	22.0	10.2	61.0	5.1	11.9	79.7	1.7	1.7	16.9	78.0	1.7	
	30歳代	65	12.3	21.5	58.5	4.6	7.7	15.4	69.2	4.6	13.8	16.9	61.5	4.6
	40歳代	76	34.2	11.8	46.1	2.6	21.1	11.8	56.6	3.9	17.1	10.5	59.2	6.6
	50歳代	78	17.9	9.0	56.4	5.1	14.1	7.7	62.8	6.4	9.0	7.7	67.9	6.4
	60歳代	105	35.2	13.3	37.1	1.9	21.0	18.1	40.0	4.8	14.3	7.6	61.0	6.7
	70歳代	109	21.1	11.0	43.1	0.9	15.6	8.3	46.8	2.8	8.3	3.7	58.7	3.7
	80歳以上	42	11.9	7.1	35.7	2.4	16.7	7.1	28.6	4.8	4.8	7.1	35.7	9.5
男性	29歳以下	37	16.2	21.6	48.6	10.8	10.8	18.9	59.5	8.1	0.0	16.2	73.0	8.1
	30歳代	43	11.6	14.0	62.8	7.0	2.3	14.0	72.1	9.3	4.7	14.0	72.1	7.0
	40歳代	59	16.9	15.3	59.3	3.4	8.5	10.2	72.9	5.1	6.8	8.5	78.0	3.4
	50歳代	48	35.4	8.3	47.9	2.1	14.6	4.2	72.9	2.1	6.3	4.2	75.0	2.1
	60歳代	73	26.0	9.6	58.9	1.4	12.3	12.3	68.5	1.4	4.1	6.8	83.6	1.4
	70歳代	94	25.5	13.8	44.7	5.3	13.8	10.6	55.3	5.3	1.1	2.1	75.5	6.4
	80歳以上	61	18.0	9.8	41.0	6.6	8.2	3.3	52.5	4.9	3.3	0.0	57.4	8.2

単位 (%)	サンプル数 (件)	⑦障がい者や高齢者の支援活動				⑧防犯活動				⑨町内会・自治会などのコミュニティ活動				
		(参加している)	今後参加したい	い参加したことがな	ない今後も参加したく	(参加している)	今後参加したい	い参加したことがな	ない今後も参加したく	(参加している)	今後参加したい	い参加したことがな	ない今後も参加したく	
全体	965	8.2	8.6	65.6	4.9	9.1	10.4	63.9	3.8	32.7	8.7	44.0	4.9	
【性別】														
女性	535	10.7	10.1	61.7	4.3	7.9	10.7	63.4	3.6	36.6	9.0	39.3	4.7	
男性	415	5.3	6.5	70.8	5.8	11.1	9.9	64.8	4.3	28.2	8.2	50.4	5.3	
【性・年齢別】														
女性	29歳以下	59	8.5	20.3	66.1	3.4	1.7	10.2	84.7	1.7	11.9	10.2	71.2	5.1
	30歳代	65	1.5	6.2	83.1	6.2	4.6	10.8	76.9	4.6	24.6	13.8	52.3	6.2
	40歳代	76	6.6	13.2	72.4	2.6	13.2	15.8	60.5	3.9	36.8	7.9	43.4	6.6
	50歳代	78	9.0	14.1	61.5	7.7	3.8	10.3	67.9	9.0	34.6	7.7	39.7	7.7
	60歳代	105	21.0	9.5	52.4	4.8	15.2	9.5	60.0	1.9	57.1	8.6	26.7	2.9
	70歳代	109	11.9	2.8	56.9	1.8	6.4	9.2	56.0	1.8	45.0	4.6	28.4	2.8
	80歳以上	42	9.5	9.5	38.1	4.8	4.8	9.5	35.7	2.4	19.0	16.7	26.2	2.4
男性	29歳以下	37	2.7	13.5	67.6	13.5	5.4	13.5	67.6	10.8	13.5	13.5	54.1	13.5
	30歳代	43	4.7	9.3	74.4	9.3	4.7	7.0	79.1	7.0	16.3	18.6	53.5	9.3
	40歳代	59	3.4	3.4	86.4	3.4	8.5	10.2	74.6	3.4	20.3	8.5	62.7	5.1
	50歳代	48	12.5	4.2	66.7	2.1	18.8	4.2	64.6	2.1	37.5	6.3	45.8	4.2
	60歳代	73	5.5	6.8	82.2	1.4	11.0	12.3	72.6	0.0	37.0	4.1	53.4	1.4
	70歳代	94	3.2	7.4	64.9	7.4	10.6	9.6	57.4	5.3	28.7	9.6	46.8	4.3
	80歳以上	61	6.6	3.3	54.1	6.6	16.4	11.5	45.9	4.9	34.4	1.6	39.3	4.9

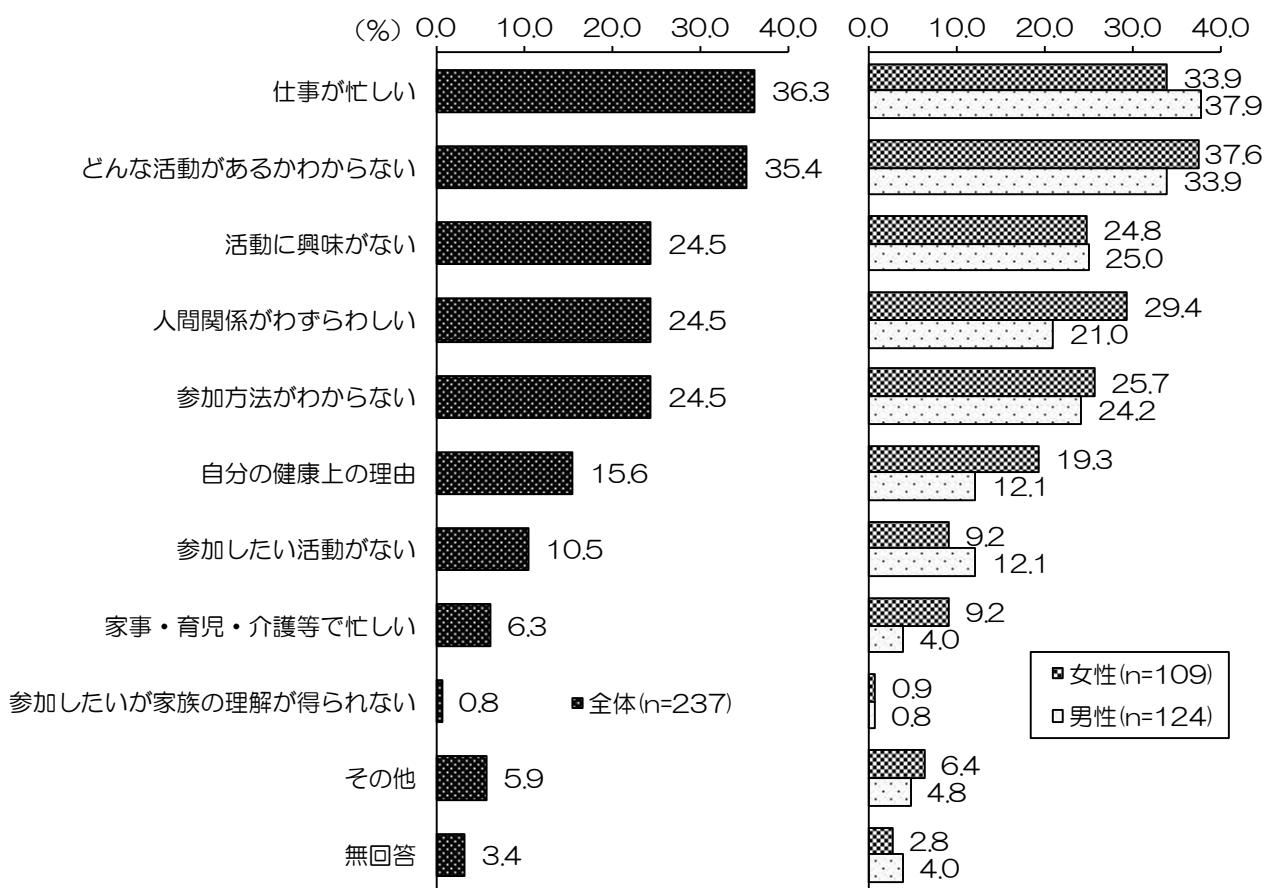
単位 (%)	サンプル数 (件)	⑩子ども会やPTAなどの 青少年育成活動				⑪文化・芸術活動				⑫その他		
		(参加している た)	今後参加したい	い参加したことがな い	な今後も参加したく ない	(参加している た)	今後参加したい	い参加したことがな い	な今後も参加したく ない	(参加している た)	今後参加したい	
全体	965	23.0	5.3	53.8	5.6	10.6	12.3	58.9	5.0	1.1	2.0	
【性別】												
女性	535	32.9	4.7	43.6	6.0	12.3	15.1	53.1	4.7	0.9	2.4	
男性	415	10.6	6.0	67.0	5.3	8.4	8.7	66.5	5.5	1.4	1.4	
【性・年齢別】												
女性	29歳以下	59	18.6	6.8	67.8	5.1	6.8	15.3	72.9	1.7	0.0	0.0
	30歳代	65	15.4	12.3	61.5	6.2	1.5	13.8	73.8	6.2	0.0	1.5
	40歳代	76	51.3	2.6	32.9	9.2	14.5	22.4	52.6	5.3	1.3	2.6
	50歳代	78	47.4	5.1	35.9	6.4	12.8	19.2	56.4	5.1	0.0	2.6
	60歳代	105	39.0	3.8	40.0	6.7	18.1	18.1	45.7	4.8	2.9	5.7
	70歳代	109	29.4	1.8	40.4	1.8	13.8	8.3	45.0	3.7	0.9	0.9
	80歳以上	42	14.3	2.4	31.0	9.5	11.9	7.1	28.6	7.1	0.0	2.4
男性	29歳以下	37	21.6	10.8	54.1	10.8	8.1	10.8	64.9	13.5	0.0	5.4
	30歳代	43	2.3	16.3	69.8	9.3	2.3	9.3	79.1	7.0	0.0	2.3
	40歳代	59	13.6	6.8	72.9	3.4	8.5	8.5	74.6	5.1	3.4	3.4
	50歳代	48	25.0	4.2	56.3	4.2	8.3	10.4	70.8	2.1	2.1	0.0
	60歳代	73	11.0	2.7	80.8	1.4	8.2	9.6	76.7	0.0	0.0	0.0
	70歳代	94	4.3	5.3	69.1	4.3	8.5	9.6	61.7	5.3	2.1	1.1
	80歳以上	61	4.9	1.6	55.7	8.2	13.1	3.3	42.6	9.8	1.6	0.0

## (2) 市民活動への不参加・参加したくない理由

問 22-1. あなたが、いずれの市民活動にも参加したことがない、参加したくない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

市民活動への不参加・参加したくない理由については、「仕事が忙しい」の割合が36.3%と最も高く、次いで「どんな活動があるかわからない」(35.4%)、「活動に興味がない」「人間関係がわずらわしい」「参加方法がわからない」(各24.5%)の順となっています。

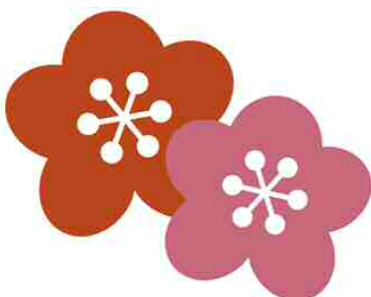
性別では、男性に比べて女性で「人間関係がわずらわしい」「自分の健康上の理由」が高くなっています。





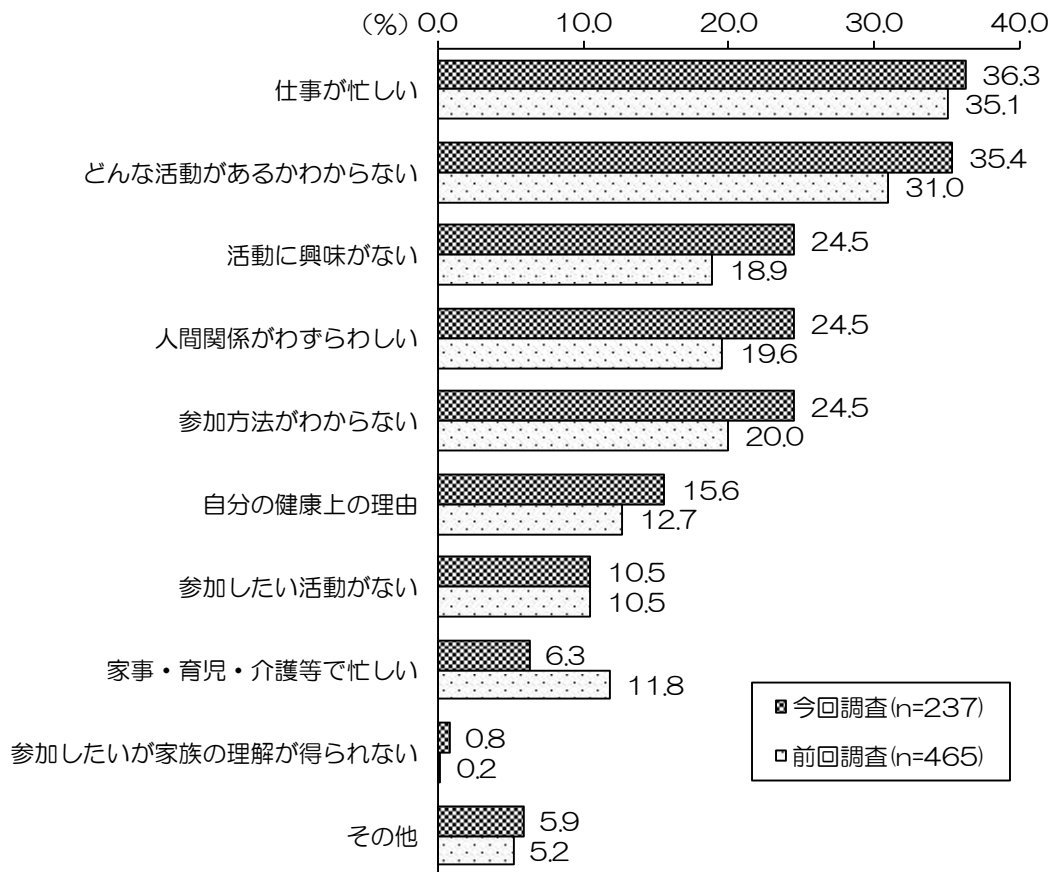
性・年齢別では、男性40歳代で「仕事が忙しい」の割合が特に高く、女性の30歳代と60歳代で「どんな活動があるかわからない」、女性29歳以下と男女50歳代で「活動に興味がない」、女性の29歳以下、50歳代および70歳代で「人間関係がわずらわしい」、女性60歳代と男性70歳代で「参加方法がわからない」が、他の層に比べてそれぞれ高くなっています。また、男女とも年齢が上がるほど「自分の健康上の理由」がおおむね高くなる傾向にあります。

単位 (%)	サンプル数 (件数)	仕事が忙しい	どんな活動があるかわからない	活動に興味がない	人間関係がわずらわしい	参加方法がわからない	自分の健康上の理由	参加したい活動がない	家事・育児・介護等で忙しい	参加したいが家族の理解が得られない	その他	
全体	237	36.3	35.4	24.5	24.5	24.5	15.6	10.5	6.3	0.8	5.9	
【性・年齢別】												
女性	29歳以下	20	40.0	25.0	35.0	35.0	25.0	5.0	15.0	5.0	0.0	5.0
	30歳代	21	42.9	61.9	28.6	19.0	33.3	9.5	4.8	14.3	4.8	4.8
	40歳代	17	47.1	41.2	23.5	29.4	29.4	23.5	11.8	11.8	0.0	0.0
	50歳代	17	41.2	29.4	35.3	35.3	23.5	0.0	11.8	5.9	0.0	5.9
	60歳代	14	28.6	50.0	0.0	14.3	35.7	35.7	7.1	7.1	0.0	14.3
	70歳代	11	9.1	27.3	9.1	36.4	18.2	36.4	9.1	9.1	0.0	9.1
	80歳以上	9	0.0	11.1	33.3	44.4	0.0	55.6	0.0	11.1	0.0	11.1
	男性	29歳以下	13	30.8	38.5	23.1	7.7	23.1	0.0	15.4	0.0	0.0
30歳代		20	40.0	40.0	25.0	20.0	30.0	5.0	20.0	10.0	0.0	0.0
40歳代		21	76.2	42.9	28.6	19.0	23.8	4.8	19.0	0.0	0.0	9.5
50歳代		13	53.8	38.5	38.5	15.4	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0
60歳代		25	28.0	36.0	16.0	28.0	32.0	20.0	8.0	8.0	4.0	0.0
70歳代		19	10.5	31.6	31.6	26.3	36.8	15.8	15.8	0.0	0.0	5.3
80歳以上		13	23.1	0.0	15.4	23.1	0.0	30.8	0.0	7.7	0.0	23.1



### 参考／前回調査との比較

「家事・育児・介護等で忙しい」と「参加したい活動がない」のほかは、いずれの項目についても前回調査よりわずかながら高くなっています。

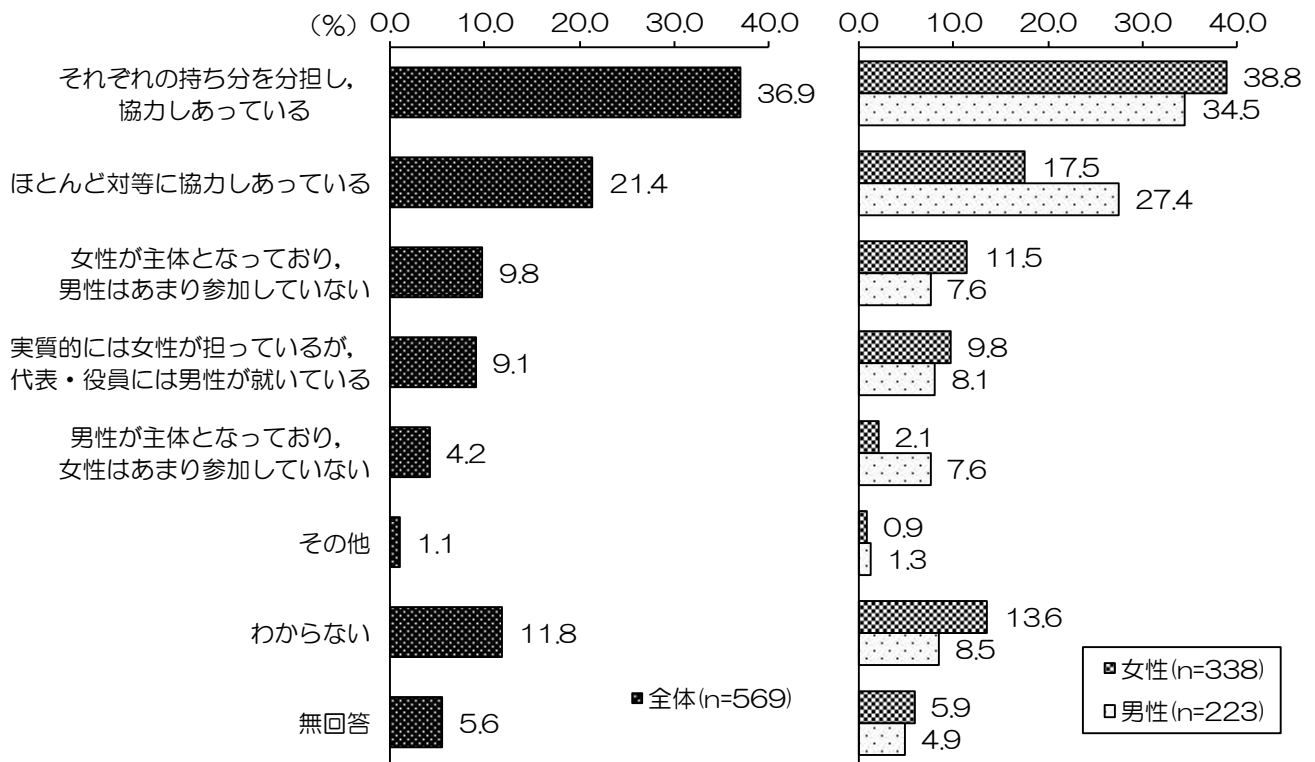


(3) 市民活動における男女協力の状況

問 22-2. あなたがお住まいの地域での様々な市民活動において、男性と女性の協力は実際にどのようにされていますか。(〇は1つ)

市民活動における男女協力の状況については、「それぞれの持ち分を分担し、協力しあっている」が36.9%と最も高く、次いで「ほとんど対等に協力しあっている」(21.4%)の順となっています。

性別では、女性に比べて男性で「ほとんど対等に協力しあっている」が高く、性別による差が大きくなっています。



性・年齢別で高くなっているのは、女性 29 歳以下と男性 40 歳代で「それぞれの持ち分を分担し、協力しあっている」、男性の 60 歳代以上で「ほとんど対等に協力しあっている」となっています。また、女性 40 歳代で「女性が主体となっており、男性はあまり参加していない」、男性 60 歳代で「男性が主体となっており、女性はあまり参加していない」が高く、対照的な結果となっています。

単位 (%)	サンプル数 (件数)	それ、その協力の持ち分をい分	あほとんどの対等に協力し	しり、性が主体となり参加	女性、男性が主体となり参加	に、男性が主体となり参加	実質的に女性が主体となり参加	しり、男性が主体となり参加	その他	わからない
全体	569	36.9	21.4	9.8	9.1	4.2	1.1	11.8		
【性・年齢別】										
女性	29歳以下	34	47.1	11.8	2.9	5.9	0.0	0.0	32.4	
	30歳代	26	34.6	11.5	11.5	11.5	0.0	0.0	30.8	
	40歳代	48	37.5	14.6	20.8	10.4	4.2	0.0	10.4	
	50歳代	47	40.4	14.9	12.8	17.0	2.1	2.1	6.4	
	60歳代	83	39.8	22.9	9.6	7.2	3.6	1.2	8.4	
	70歳代	80	37.5	18.8	11.3	10.0	1.3	0.0	13.8	
	80歳以上	19	26.3	21.1	10.5	5.3	0.0	5.3	5.3	
男性	29歳以下	17	35.3	23.5	17.6	11.8	0.0	0.0	11.8	
	30歳代	17	29.4	17.6	17.6	5.9	5.9	0.0	23.5	
	40歳代	31	51.6	16.1	12.9	6.5	0.0	6.5	3.2	
	50歳代	27	29.6	22.2	11.1	11.1	11.1	3.7	7.4	
	60歳代	40	30.0	37.5	2.5	0.0	17.5	0.0	5.0	
	70歳代	52	32.7	26.9	5.8	11.5	3.8	0.0	13.5	
	80歳以上	39	33.3	35.9	0.0	10.3	10.3	0.0	2.6	

## 2 地域活動や政策決定の場への女性の参画状況について

問 23. 芦屋市における自治会や様々な市民活動、市政における企画づくりや方針決定の場への女性の参画状況について、あなたはどのように思いますか。

(○は1つ。参考 平成 28 年 4 月 1 日現在：市内の女性自治会長の割合 7.4%，市職員の女性管理職〈課長級以上〉の割合 29.3%)

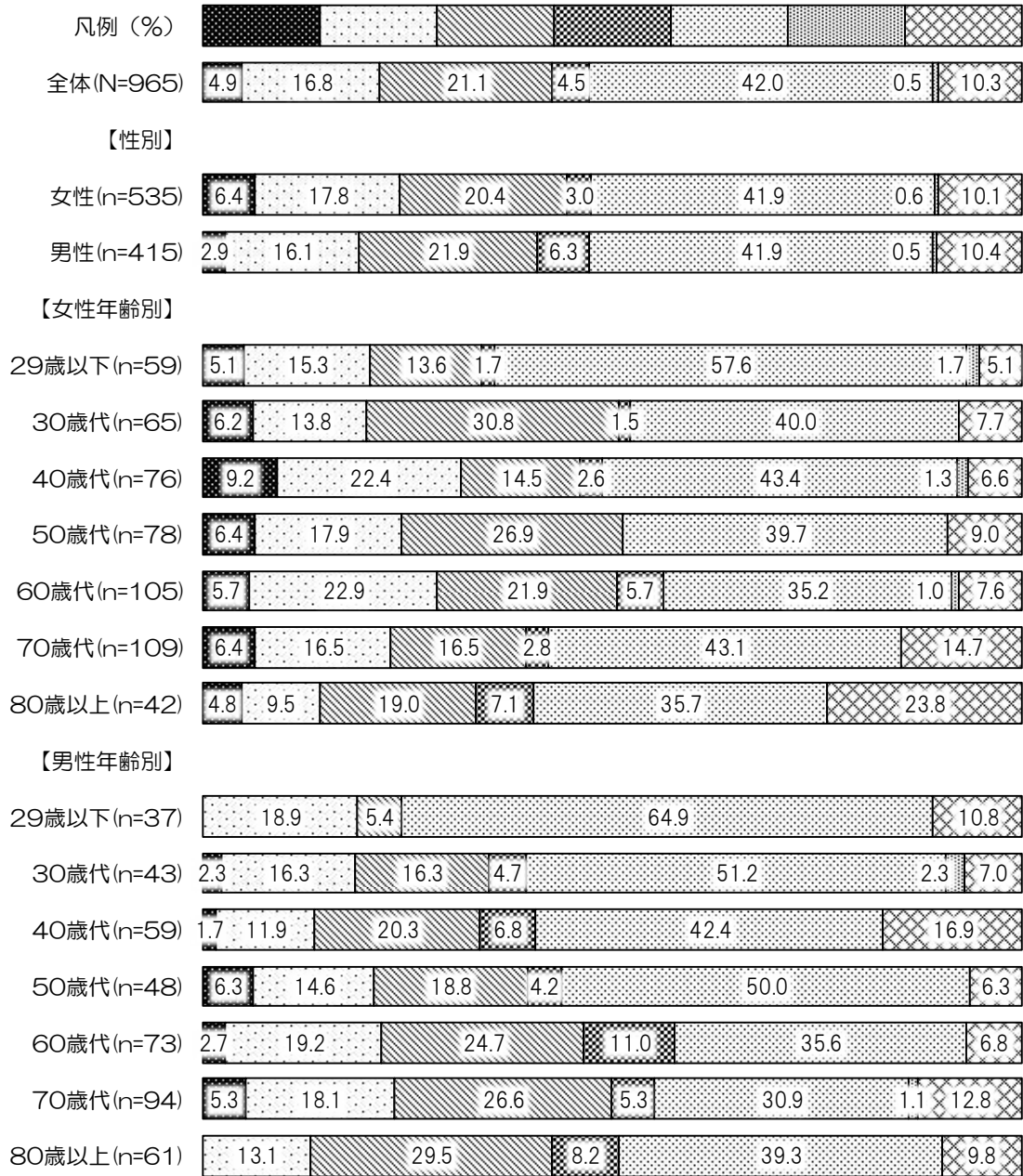
地域活動や政策決定の場への女性の参画状況については、「わからない」が4割以上と最も高いものの、「ある程度参画できている」(21.1%)と「十分に参画できている」(4.5%)を合わせると、4人に1人(25.6%)は『参画できている』と回答しています。一方で、「まったく参画できていない」(4.9%)と「あまり参画できていない」(16.8%)を合計した『参画できていない』の割合は、約2割(21.7%)を占めます。

性別では、男性に比べて女性で『参画できていない』がやや高くなっています。

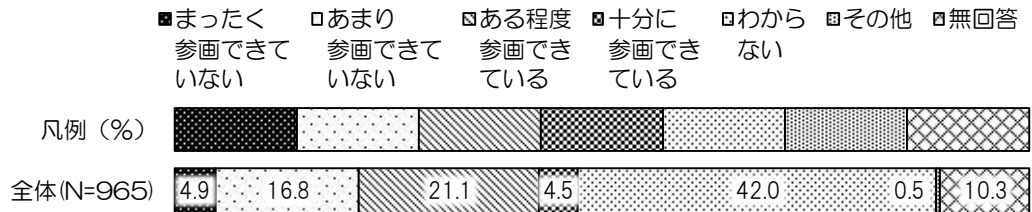
性・年齢別では、女性の40歳代と60歳代で『参画できていない』が高く、男性の60歳代と80歳以上で『参画できている』が高くなっています。また、男女とも29歳以下で「わからない」が高くなっています。



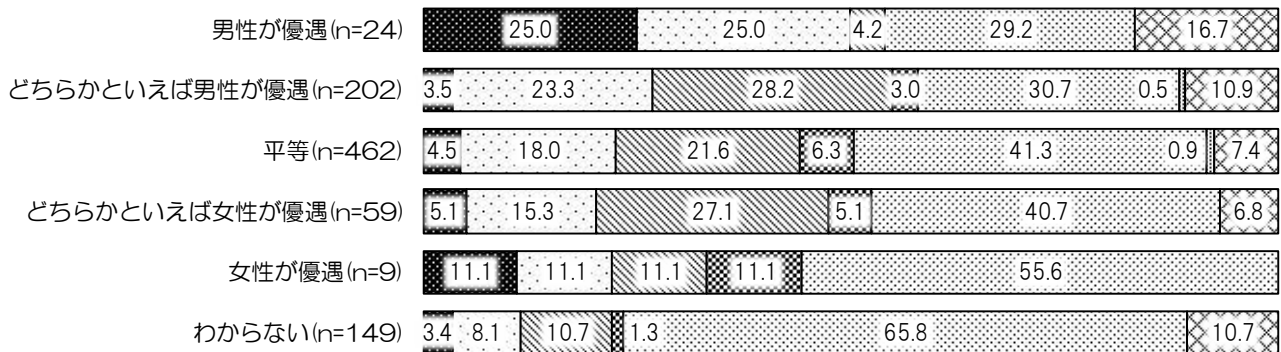
■ まったく参画できていない    □ あまり参画できていない    □ ある程度参画できている    □ 十分に参画できている    □ わからない    □ その他    □ 無回答



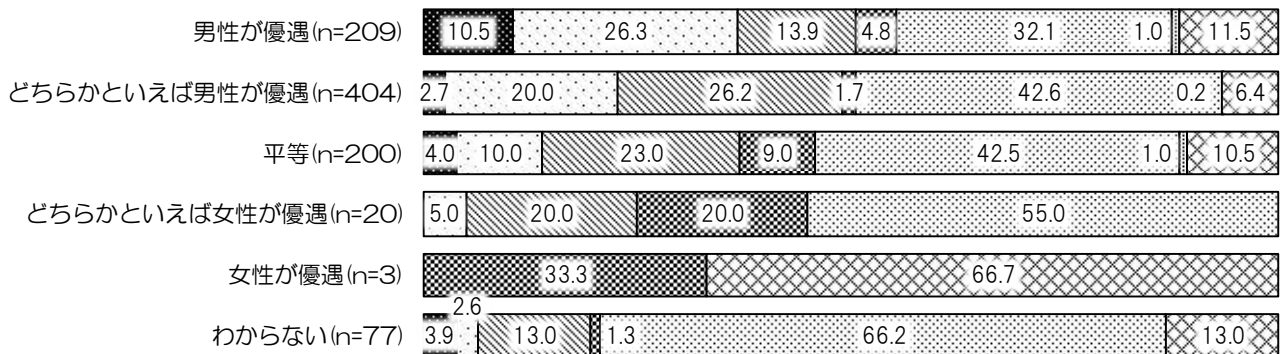
男女の平等意識「④地域活動の場」及び「⑥政治の場」での評価別のいずれも、男性が優遇と評価する層で『参画できていない』が他の層に比べて高くなっています。



【男女の平等意識「④地域活動の場」での評価別】



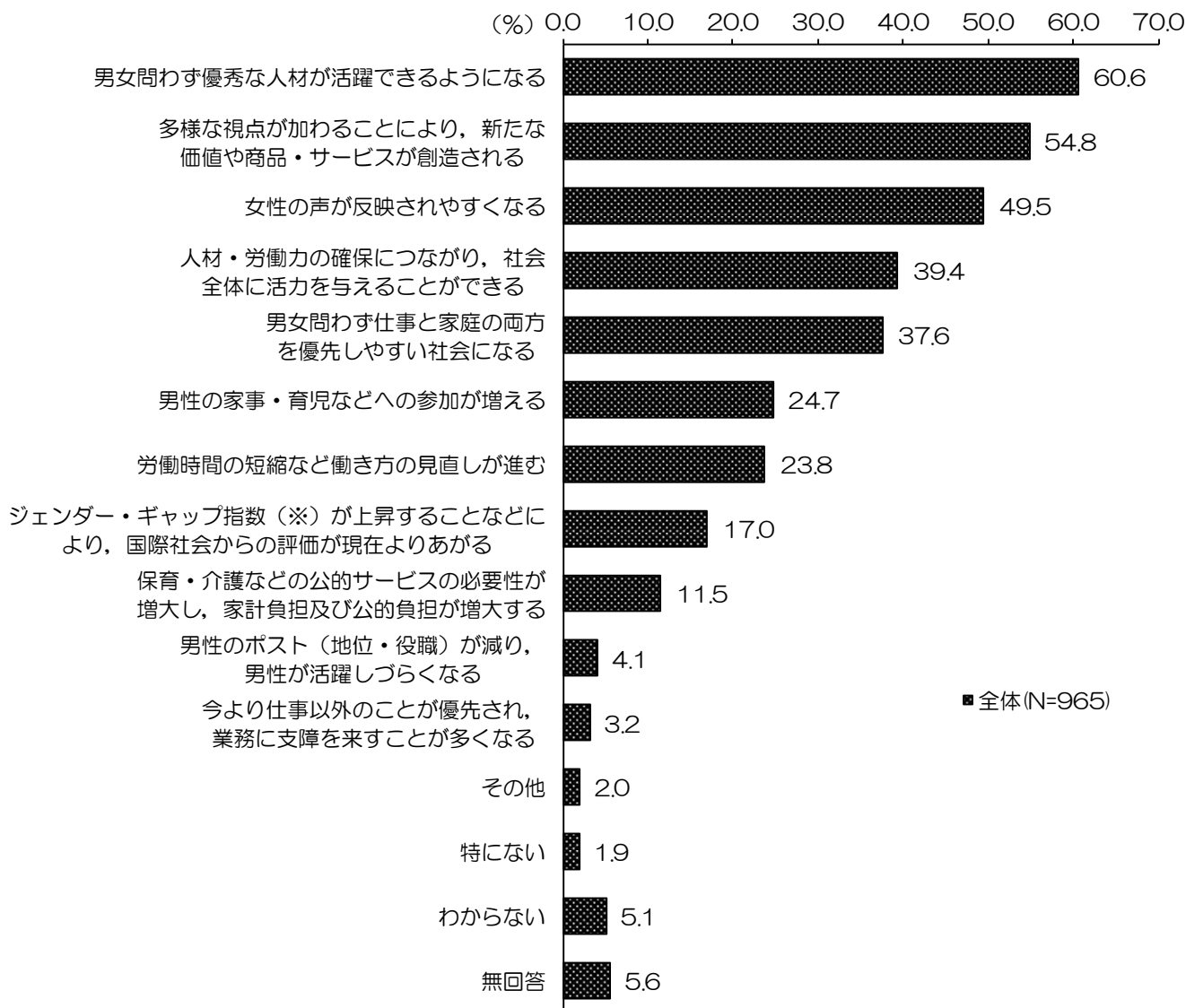
【男女の平等意識「⑥政治の場」での評価別】



### 3 各分野への女性参画の影響について

問 24. 今後、政治・経済・地域などあらゆる分野で、女性の参画が進み、女性のリーダーが増えるとどのような効果や影響があると思いますか。（〇はいくつでも）

各分野への女性参画の影響については、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が60.6%と最も高く、次いで「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」(54.8%)、「女性の声が反映されやすくなる」(49.5%)、「人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる」(39.4%)、「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」(37.6%)の順となっています。



(※)国ごとの男女格差を計る指数, 2015年日本は145か国 中101位



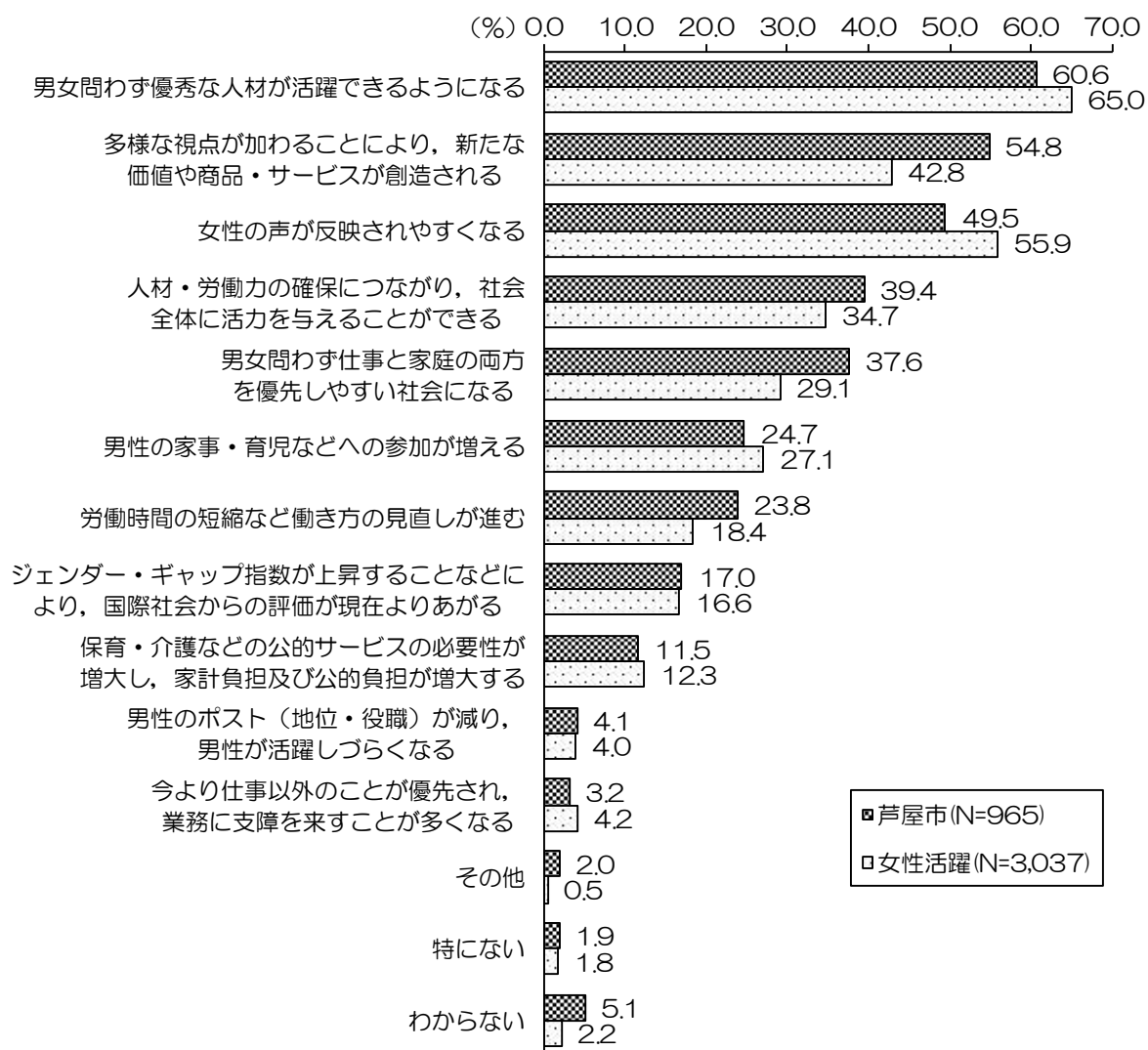
性別では、男性に比べて女性で「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」が高くなっています。

性・年齢別では、女性60歳代と男性30歳代で「女性の声が反映されやすくなる」が共通して高くなっています。また、女性30歳代で「労働時間の短縮など働き方の見直しが進む」、女性の40歳代と60歳代で「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」、男性29歳以下で「男性のポスト(地位・役職)が減り、男性が活躍しづらくなる」、男性30歳代で「男性の家事・育児などへの参加が増える」が、他の層に比べてそれぞれ高くなっています。

単位(%)	サンプル数(件数)	男女問わず優秀な人材が活躍できようになる	多様な視点や価値が加わる	女性の声が反映されやすくなる	とりかた、社・会全体に与えることができる	人財・労働力の確保につながる	男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる	男性の家事・育児などへの参加が増える	労働時間の短縮など働き方の見直しが進む	昇進・昇格などにより、国際社会から評価が上がる	シニア・ギアアップ指数が上がる	公的負担が増大する	必要・介護などの社会的責任が増大する	減り、男性が活躍しづらくなる	男性のポスト(地位・役職)がなくなる	今より仕事以外のことが優先される	その他	特になし	わからない
全体	965	60.6	54.8	49.5	39.4	37.6	24.7	23.8	17.0	11.5	4.1	3.2	2.0	1.9	5.1				
【性別】																			
女性	535	60.7	55.5	51.8	37.6	40.9	25.4	25.2	16.3	12.5	3.6	1.9	1.1	1.5	6.2				
男性	415	60.5	54.7	47.5	41.7	33.5	23.9	21.4	18.3	9.9	5.1	5.1	3.1	2.4	3.4				
【性・年齢別】																			
女性	29歳以下	59	59.3	57.6	44.1	25.4	40.7	16.9	25.4	20.3	6.8	3.4	0.0	0.0	1.7	8.5			
	30歳代	65	66.2	60.0	50.8	33.8	44.6	27.7	38.5	12.3	9.2	6.2	4.6	0.0	1.5	4.6			
	40歳代	76	63.2	63.2	51.3	35.5	55.3	23.7	23.7	18.4	14.5	3.9	1.3	1.3	0.0	3.9			
	50歳代	78	59.0	57.7	50.0	41.0	35.9	17.9	16.7	14.1	9.0	1.3	3.8	1.3	0.0	5.1			
	60歳代	105	61.9	54.3	59.0	44.8	51.4	34.3	29.5	13.3	16.2	5.7	1.0	1.0	3.8	5.7			
	70歳代	109	62.4	52.3	55.0	40.4	29.4	28.4	23.9	20.2	16.5	1.8	0.0	1.8	1.8	4.6			
	80歳以上	42	45.2	38.1	42.9	33.3	23.8	19.0	16.7	14.3	9.5	2.4	4.8	2.4	0.0	16.7			
	男性	29歳以下	37	51.4	48.6	43.2	24.3	43.2	24.3	29.7	16.2	10.8	18.9	5.4	0.0	0.0	2.7		
30歳代		43	62.8	58.1	58.1	37.2	41.9	34.9	30.2	20.9	9.3	9.3	11.6	7.0	2.3	0.0			
40歳代		59	67.8	59.3	54.2	33.9	37.3	18.6	18.6	15.3	6.8	5.1	6.8	8.5	0.0	0.0			
50歳代		48	60.4	64.6	47.9	45.8	31.3	20.8	20.8	25.0	8.3	4.2	4.2	2.1	2.1	4.2			
60歳代		73	64.4	63.0	45.2	47.9	42.5	27.4	26.0	26.0	5.5	4.1	2.7	0.0	0.0	2.7			
70歳代		94	59.6	48.9	48.9	46.8	20.2	23.4	18.1	11.7	9.6	1.1	4.3	2.1	6.4	5.3			
80歳以上		61	54.1	42.6	36.1	44.3	29.5	19.7	13.1	16.4	19.7	1.6	3.3	3.3	3.3	6.6			

## 参考／女性活躍との比較

「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」については、女性活躍よりも 12.0 ポイント高くなっている一方で、「女性の声が反映されやすくなる」については、6.4 ポイント低くなっています。その他の項目については大きな違いはみられません。



## 【6】配偶者や交際相手からの暴力等について

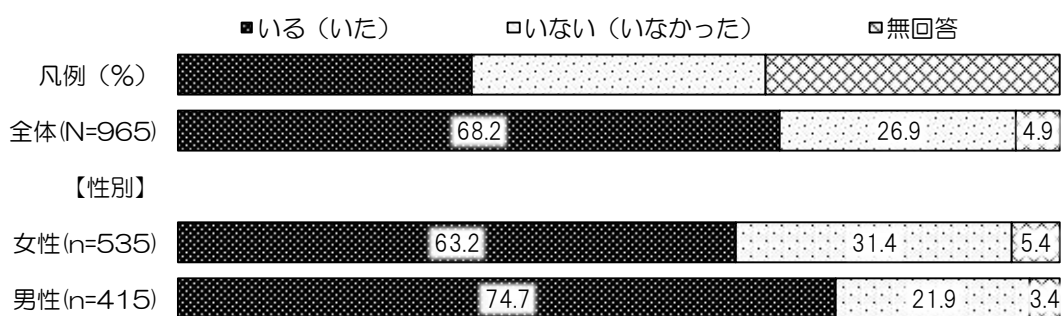
## 1 配偶者からのドメスティック・バイオレンス

## (1) 過去5年間における配偶者の有無

問 25. あなたは過去5年間に、配偶者がいましたか。(〇は1つ)

配偶者には婚姻届を出していない事実婚や同性婚，別居中の夫婦，元配偶者（離婚・死別した相手，事実婚・同性婚を解消した相手）も含まれます。

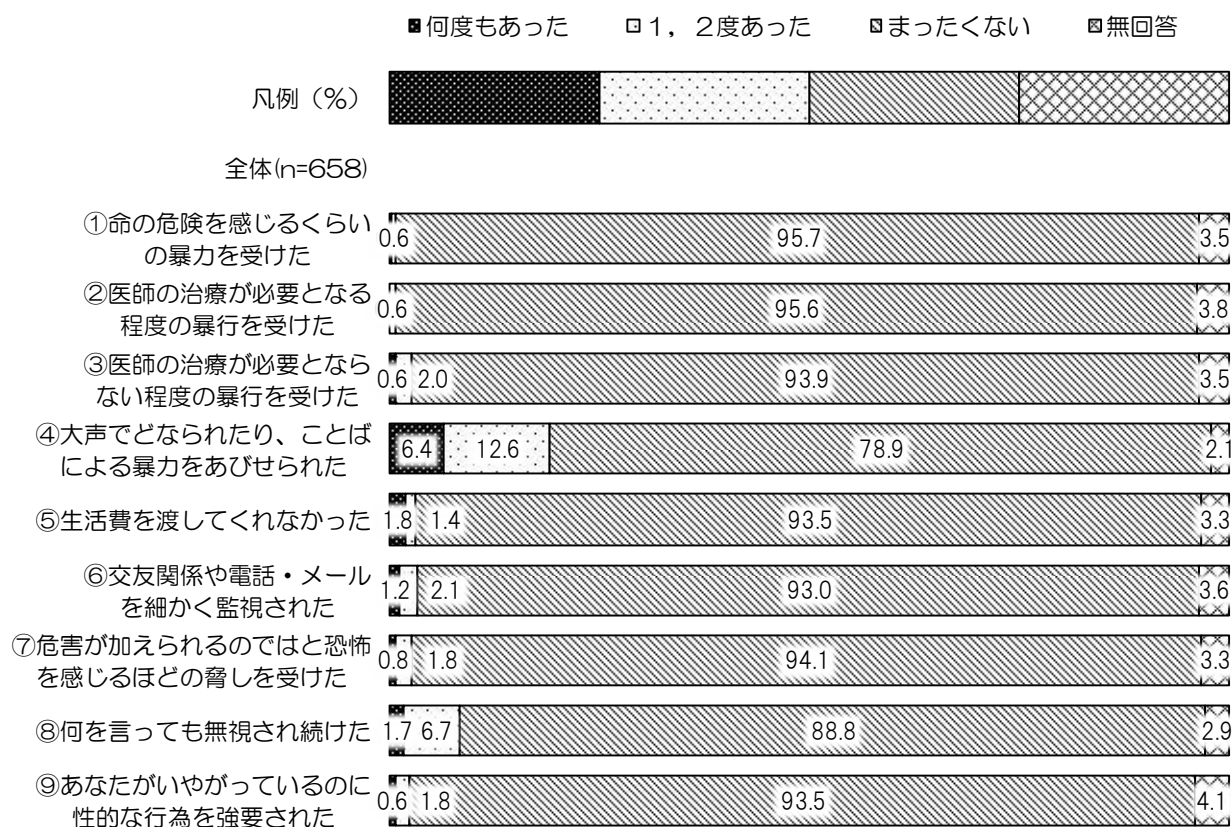
過去5年間における配偶者の有無については、「いる（いた）」が68.2%、「いない（いなかった）」が26.9%となっており，性別では，女性に比べて男性で「いる（いた）」割合が高くなっています。



## (2) 配偶者からのDV経験について

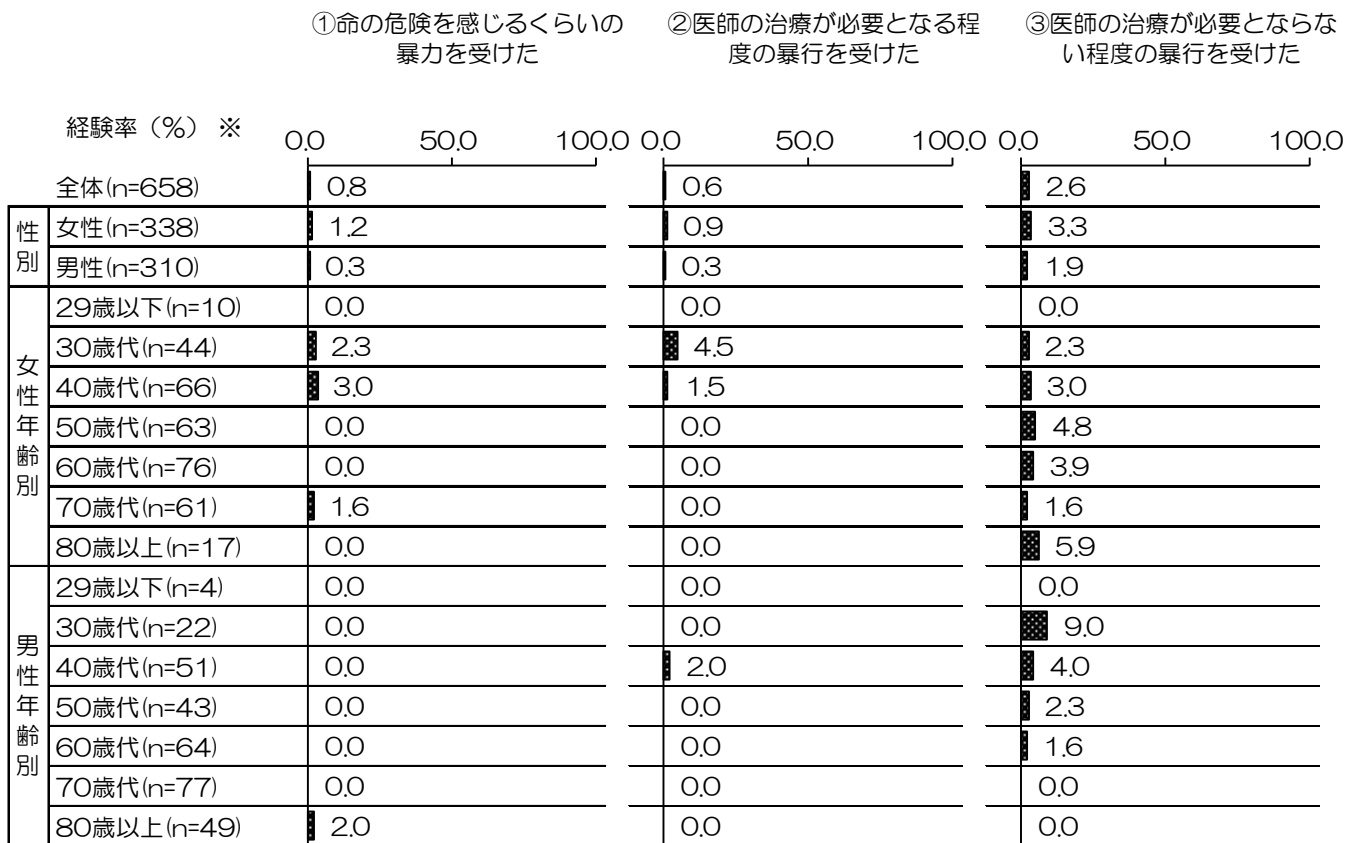
問 25-1. (「1.いる(いた)」と答えた方におたずねします) あなたは過去5年間に、あなたの配偶者から次のようなことをされたことはありますか。  
(○はそれぞれ1つずつ)

配偶者からのDV経験については、「④大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた」で「1, 2度あった」が12.6%と高く、「何度もあった」(6.4%)を合わせるとほぼ5人に1人(19.0%)が経験したことがあると回答しています。



配偶者からのDV経験について属性別で見ると、性別では、男性に比べて女性で「④大声でどなられたり、ことばによる暴力をあげせられた」の経験率\*が高くなっています。

性・年齢別では、女性80歳以上で「④大声でどなられたり、ことばによる暴力をあげせられた」「⑤生活費を渡してくれなかった」「⑧何を言っても無視され続けた」の経験率が他の層に比べて高くなっています。また、女性29歳以下で「⑥交友関係や電話・メールを細かく監視された」の経験率がやや高くなっています。

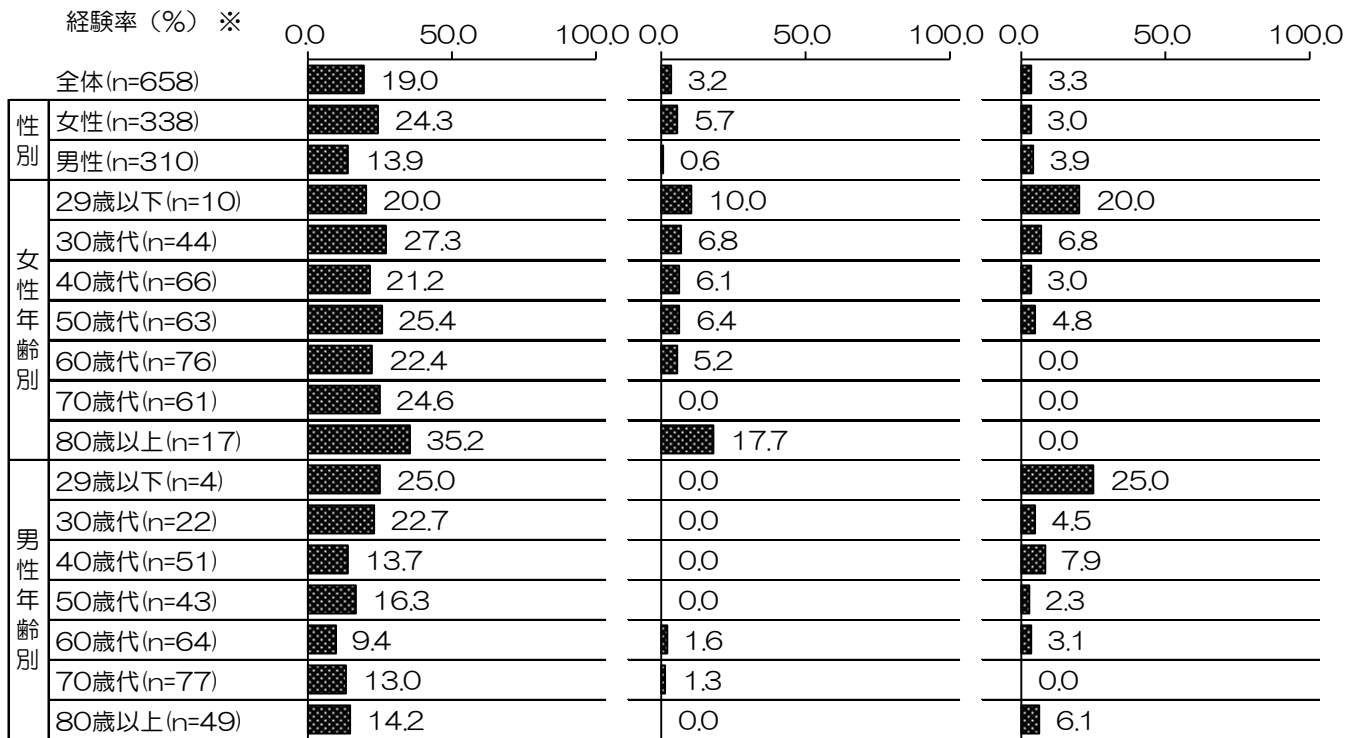


※ 『経験率』は「何度もあった」と「1, 2度あった」の合計値。以下同様。

④大声でどなられたり、  
ことばによる暴力を  
あびせられた

⑤生活費を渡して  
くれなかった

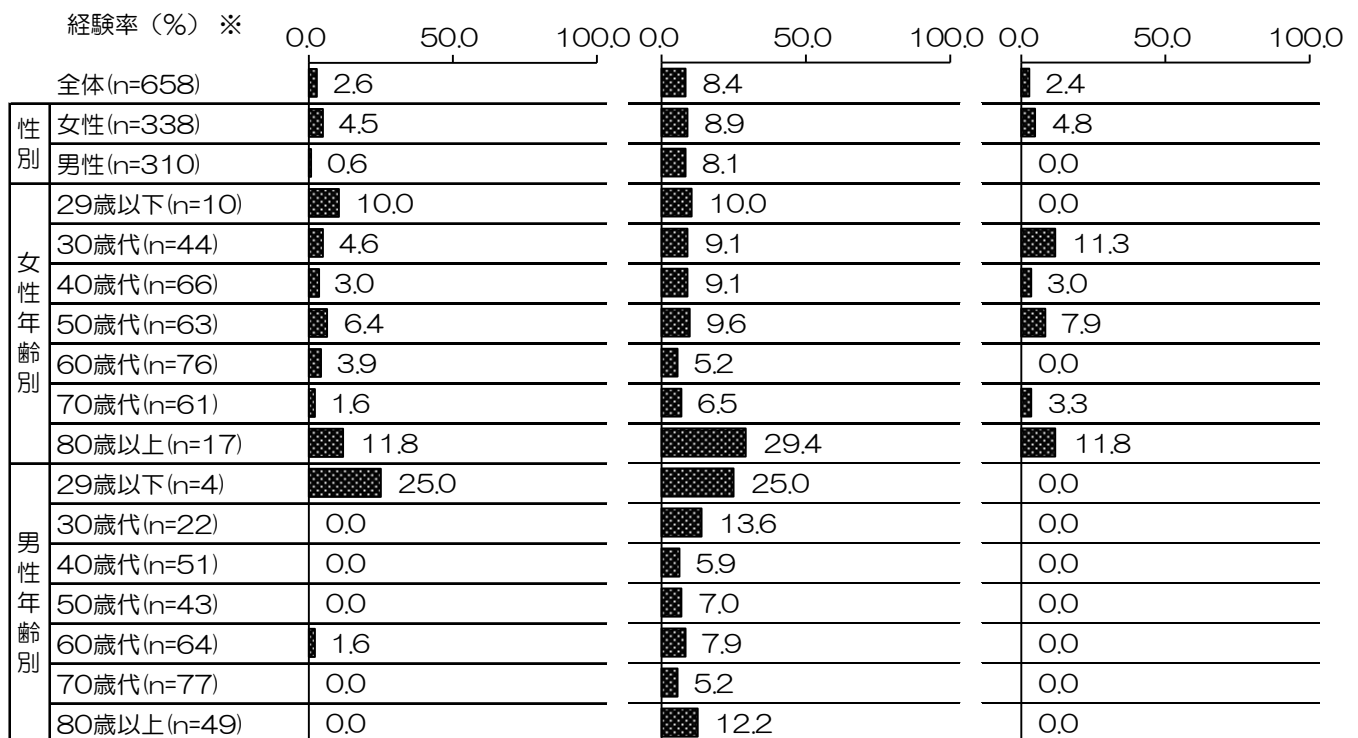
⑥交友関係や電話・メールを  
細かく監視された



⑦危害が加えられるのでは  
と恐怖を感じるほど  
の脅しを受けた

⑧何を言っても無視  
され続けた

⑨あなたがいやがって  
いるのに性的な行為  
を強要された

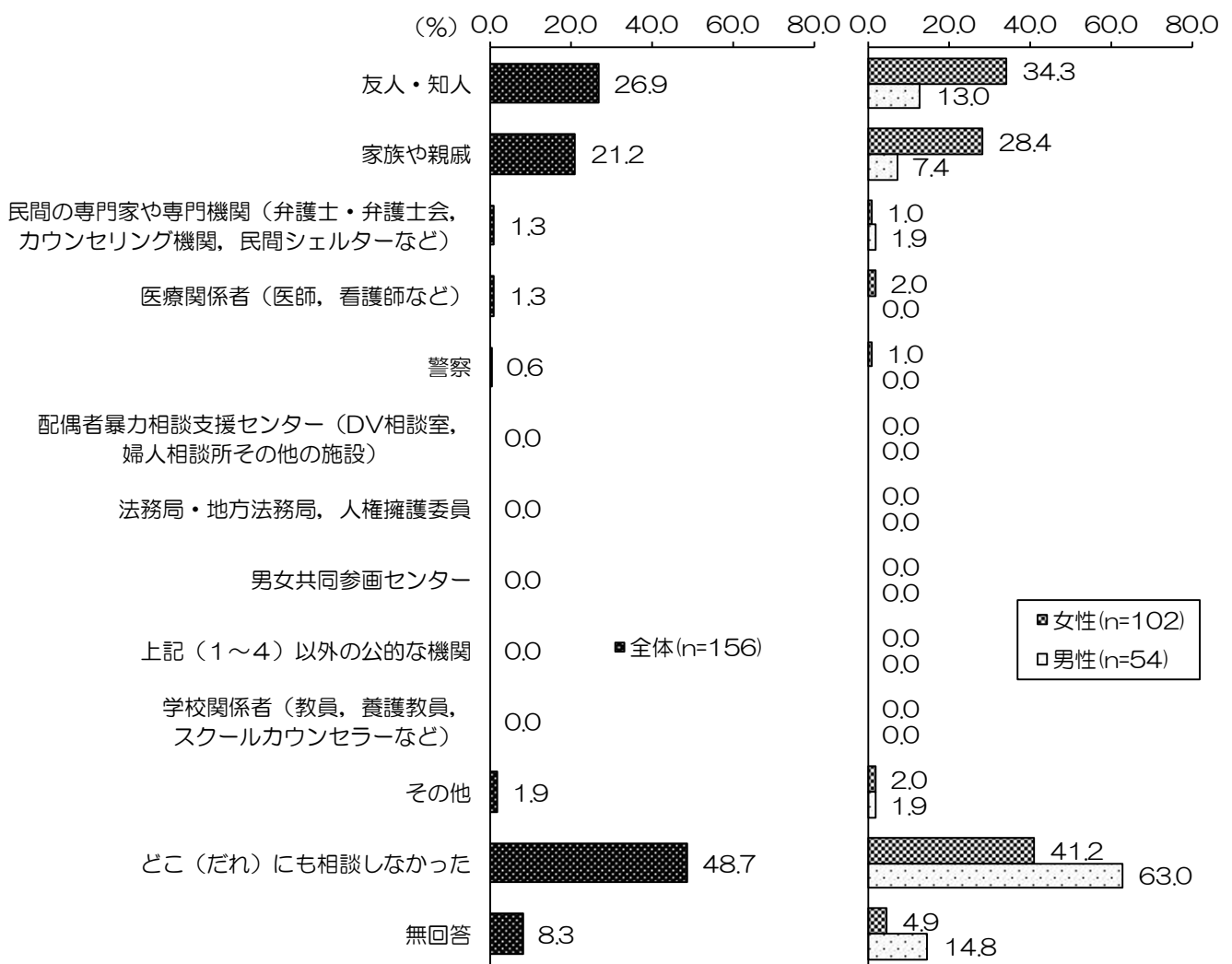


(3) 配偶者からのDVの相談相手

問 25-2. (問 25-1.で、ひとつでも「何度もあった」又は「1, 2度あった」と答えた方におたずねします) あなたはこれまでに、問 25-1.であげたような行為について、だれかにうち明けたり、相談したりしましたか。(〇はいくつでも)

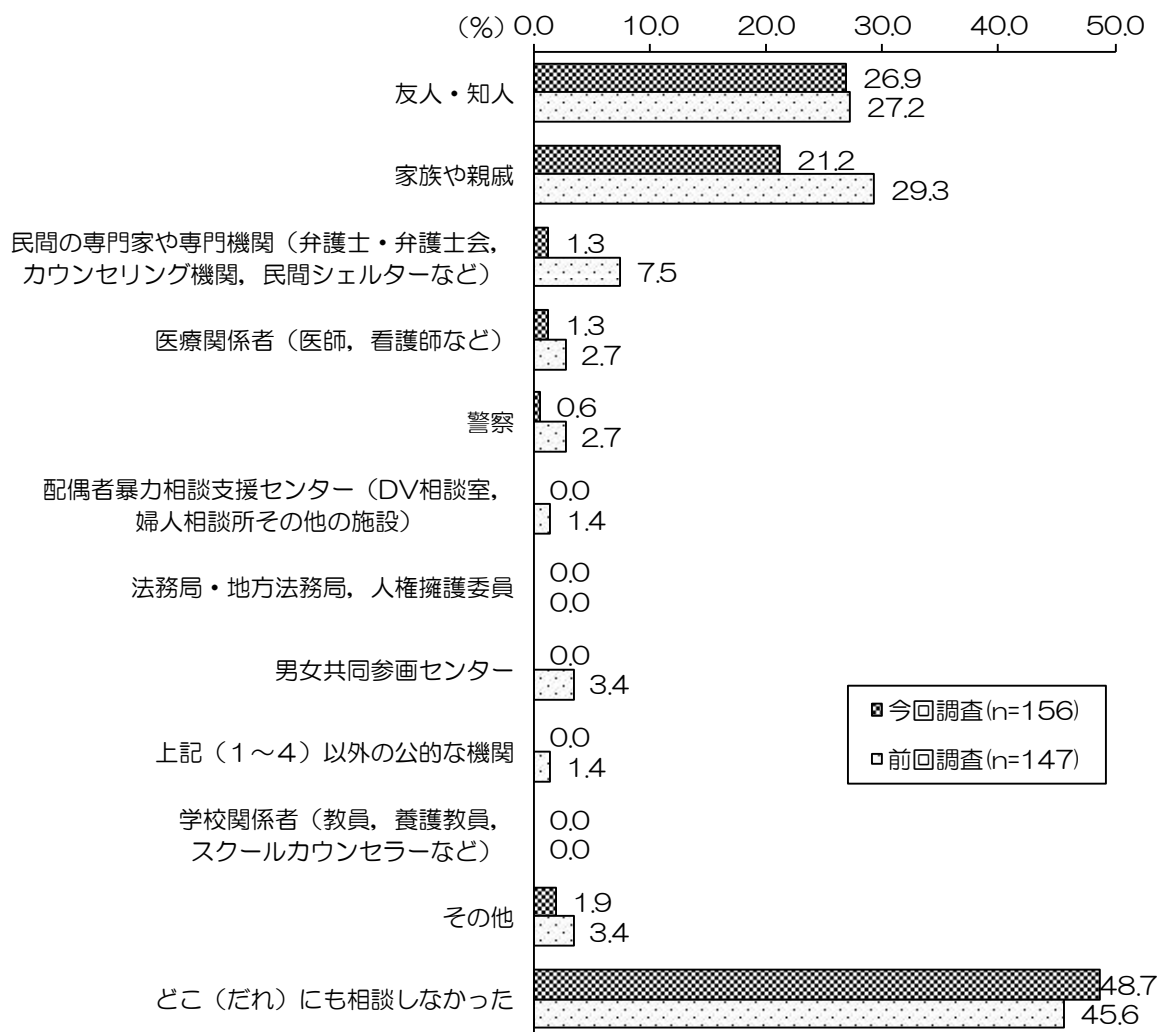
配偶者からのDVについては、ほぼ半数(48.7%)が「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答しています。相談相手としては、「友人・知人」(26.9%),「家族や親戚」(21.2%)が高くなっています。

性別では、女性で「友人・知人」「家族や親戚」が高く、一方で男性の6割以上が「どこ(だれ)にも相談しなかった」としています。



### 参考／前回調査との比較

「家族や親戚」については 8.1 ポイント、「民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセリング機関、民間シェルターなど）」については 6.2 ポイント前回調査よりも低くなっていますが、その他の項目については大きな変化はみられません。



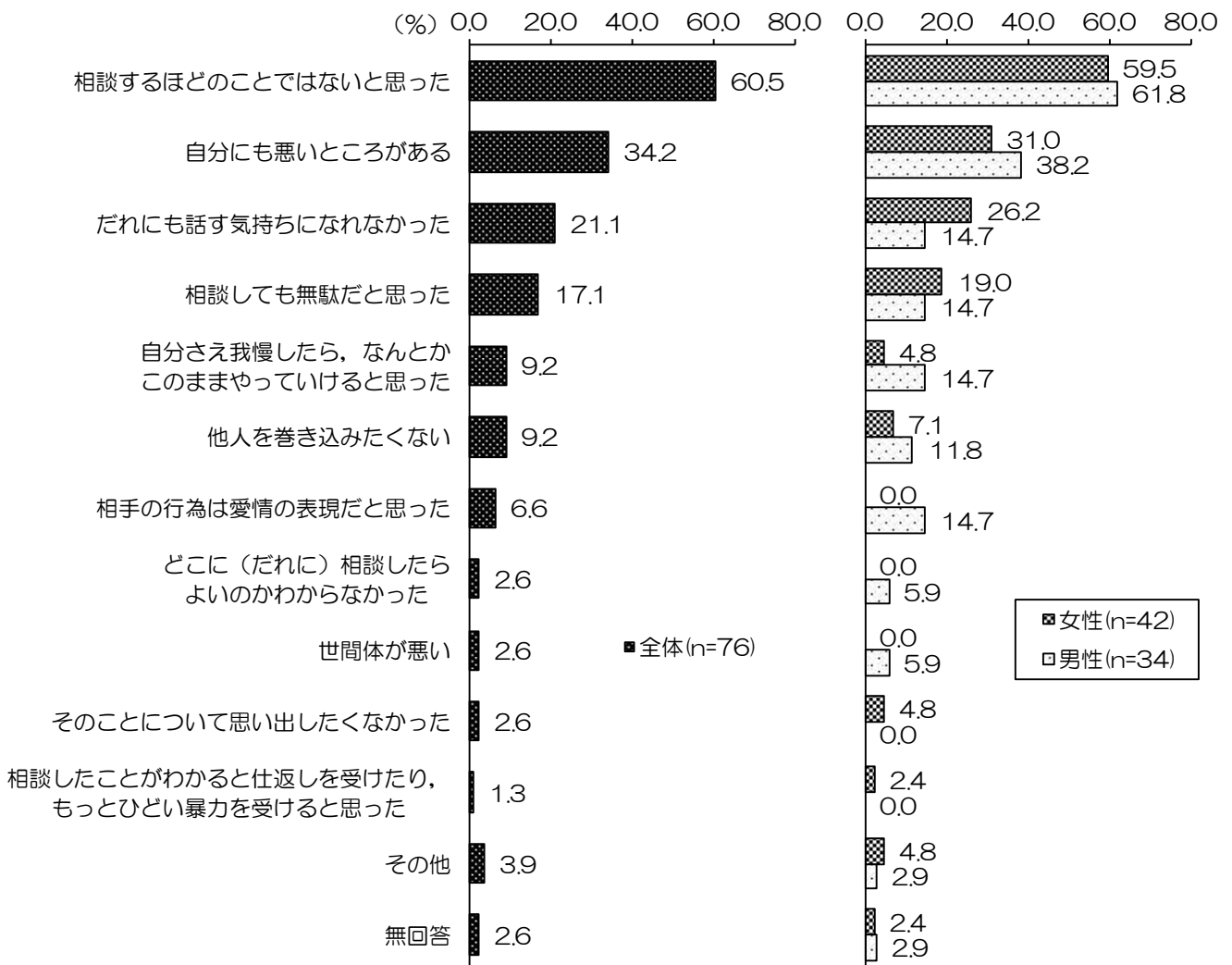


(4) 配偶者からのDVについて相談しなかった理由

問 25-3. (「12.どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた方におたずねします)  
 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(〇はいくつでも)

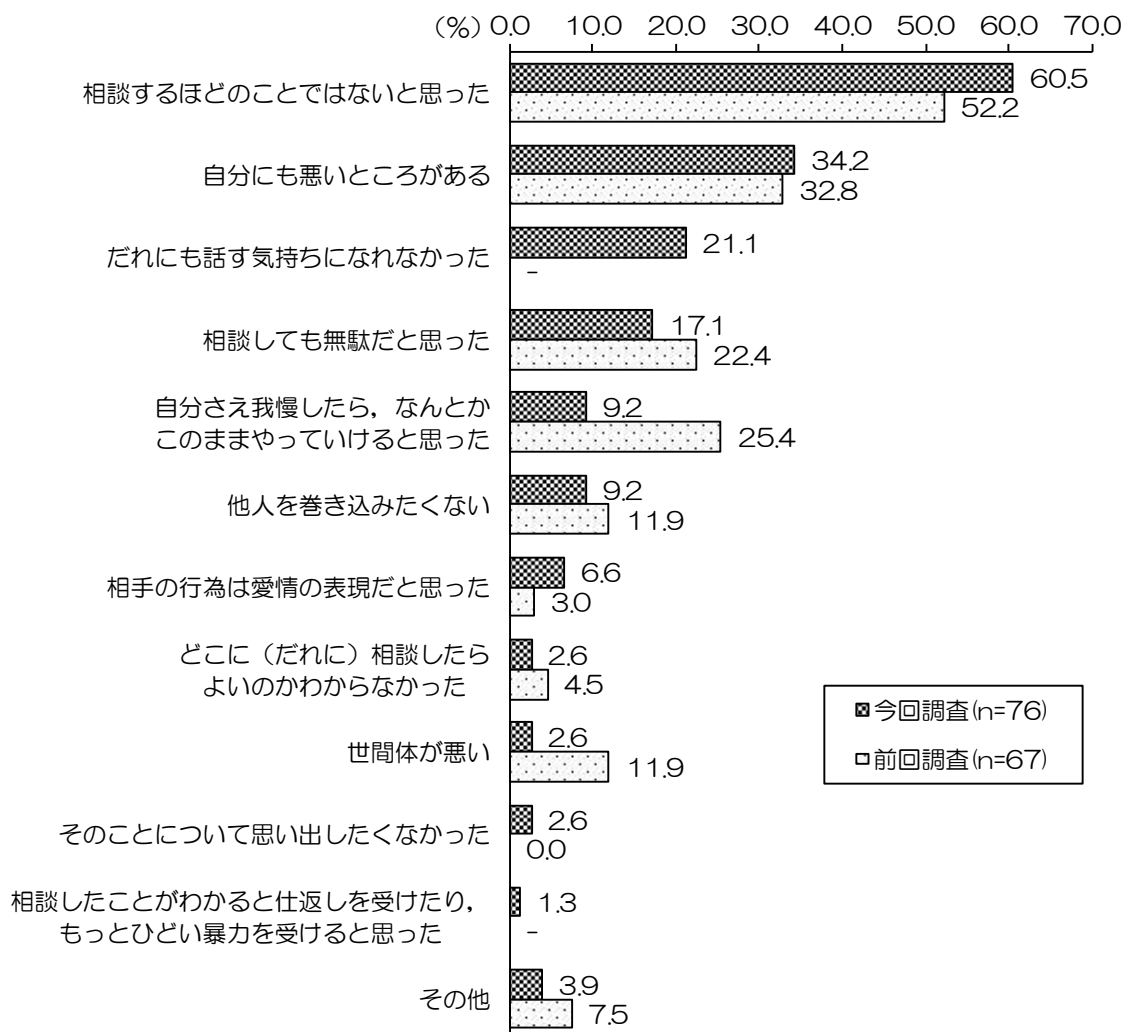
配偶者からのDVについて相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思った」が60.5%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがある」(34.2%)、「だれにも話す気持ちになれなかった」(21.1%)の順となっています。

性別では、女性で「だれにも話す気持ちになれなかった」が高く、男性で「自分にも悪いところがある」「自分さえ我慢したら、なんとかこのままやっていけると思った」「相手の行為は愛情の表現だと思った」がやや高くなっています。



### 参考／前回調査との比較

「相談するほどのことではないと思った」については、前回調査よりも 8.3 ポイント高い一方で、「自分さえ我慢したら、なんとかこのままやっていけると思った」については 16.2 ポイント低くなっています。

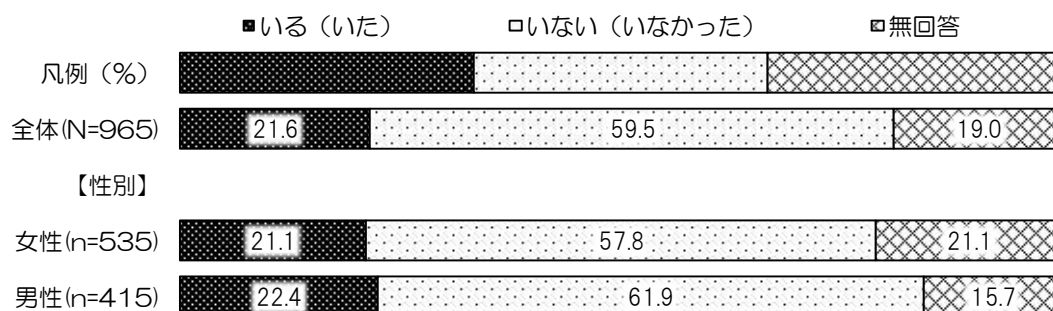


## 2 交際相手からのドメスティック・バイオレンス

### (1) 過去5年間における交際相手の有無

問 26. あなたは過去5年間に、交際相手がい了吗か。(〇は1つ)

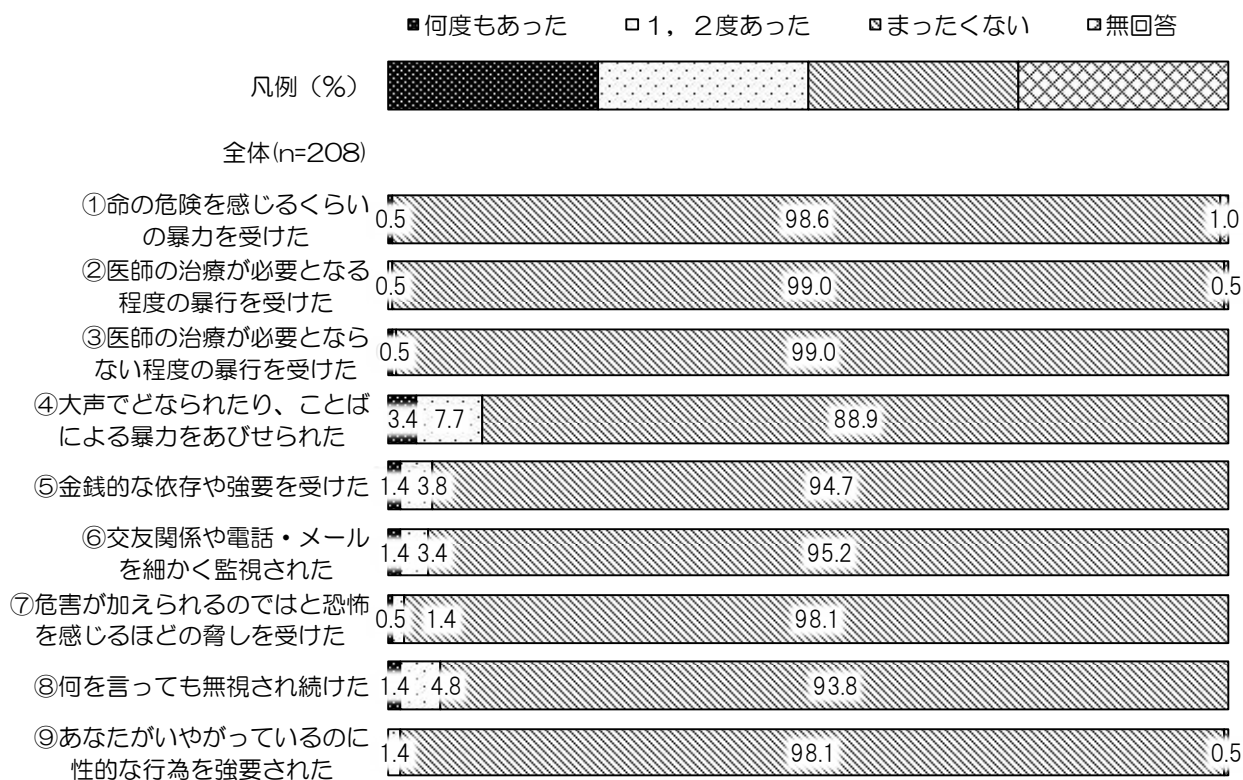
過去5年間における交際相手の有無については、「いる(いた)」が21.6%、「いない(いなかった)」が59.5%となっており、性別による差は目立ちません。



### (2) 交際相手からのDV経験について

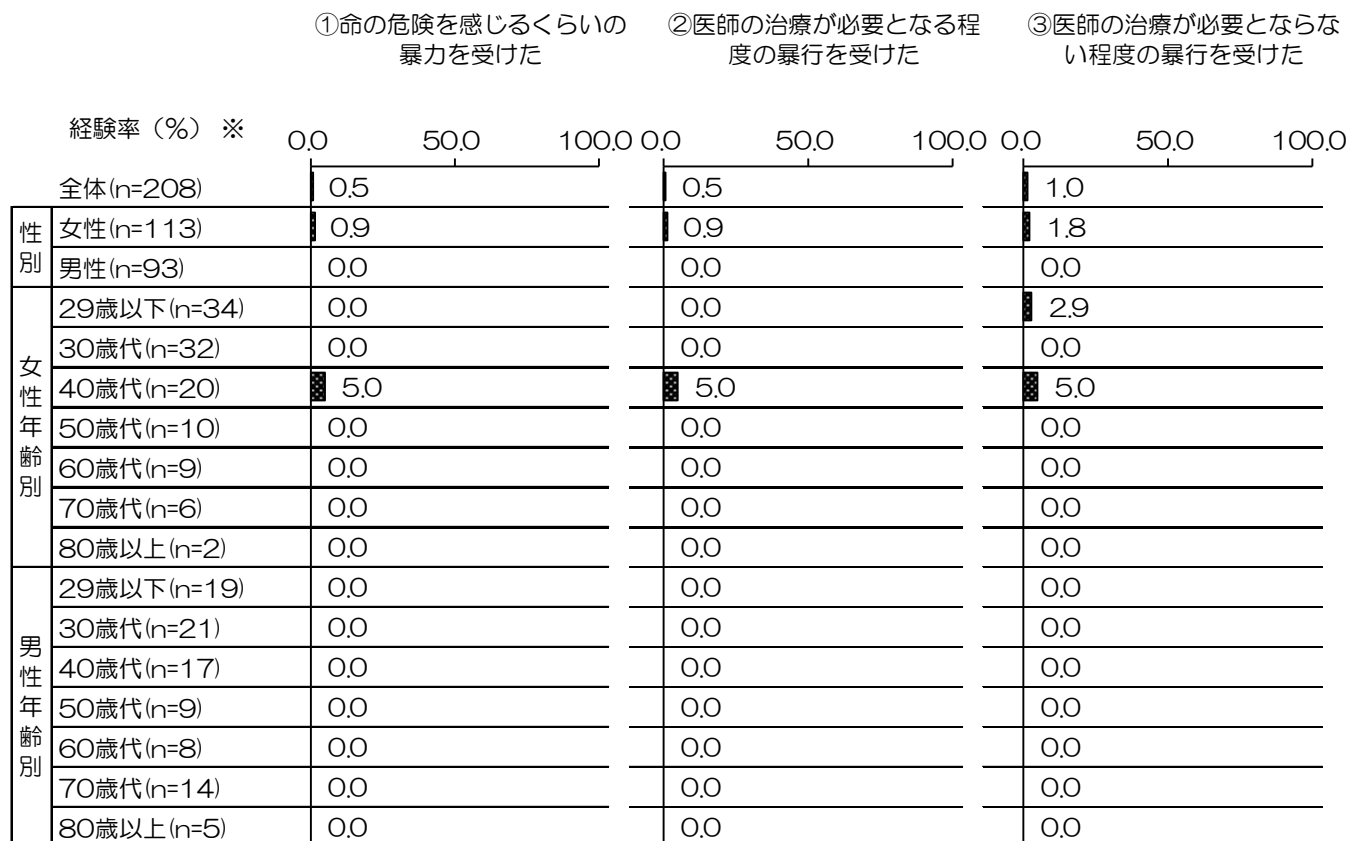
問 26-1. (「1.いる(いた)」と答えた方におたずねします) あなたは過去5年間に、交際相手から次のようなことをされたことはありますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

交際相手からのDV経験については、「④大声でどなられたり、ことばによる暴力をあげせられた」がやや高く、「1, 2度あった」(7.7%), 「何度もあった」(3.4%) を合わせると約1割(11.1%)が経験したことがあると回答しています。

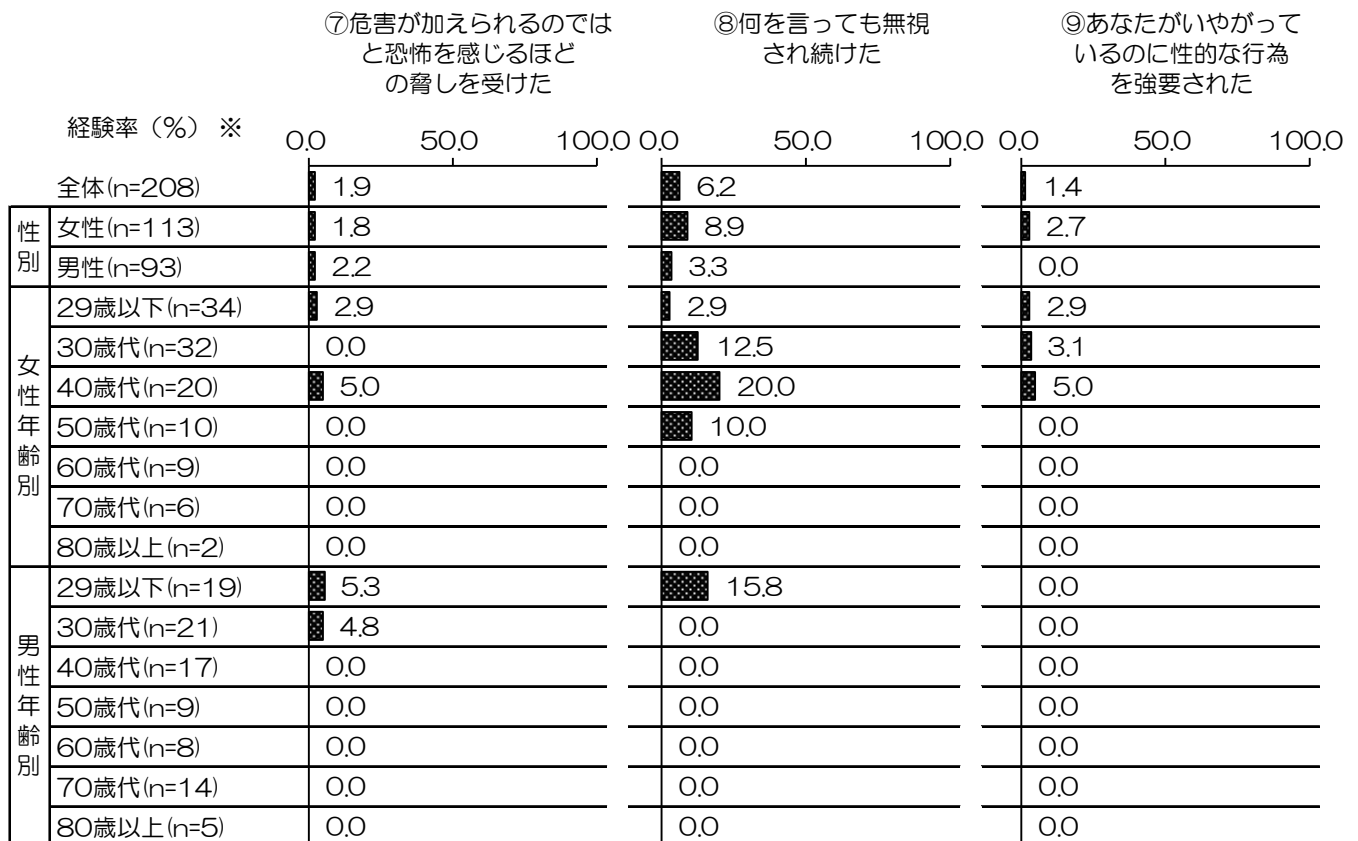
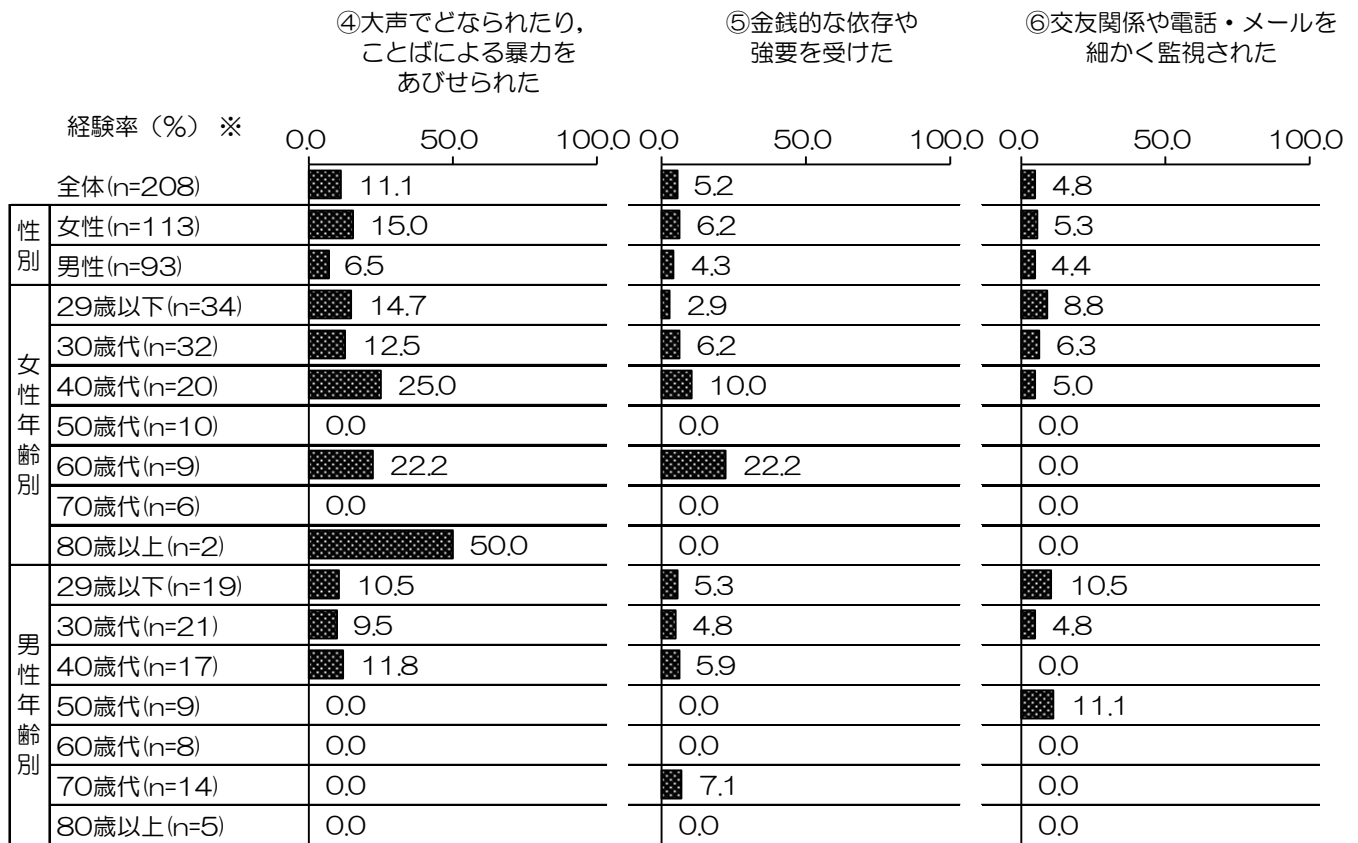


交際相手からのDV経験について属性別でみると、性別では、男性に比べて女性で「④大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた」の経験率※がやや高くなっています。

性・年齢別では、女性40歳代で「④大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた」「⑧何を言っても無視され続けた」の経験率が他の層に比べて高くなっています。



※ 『経験率』は「何度もあった」と「1, 2度あった」の合計値。以下同様。



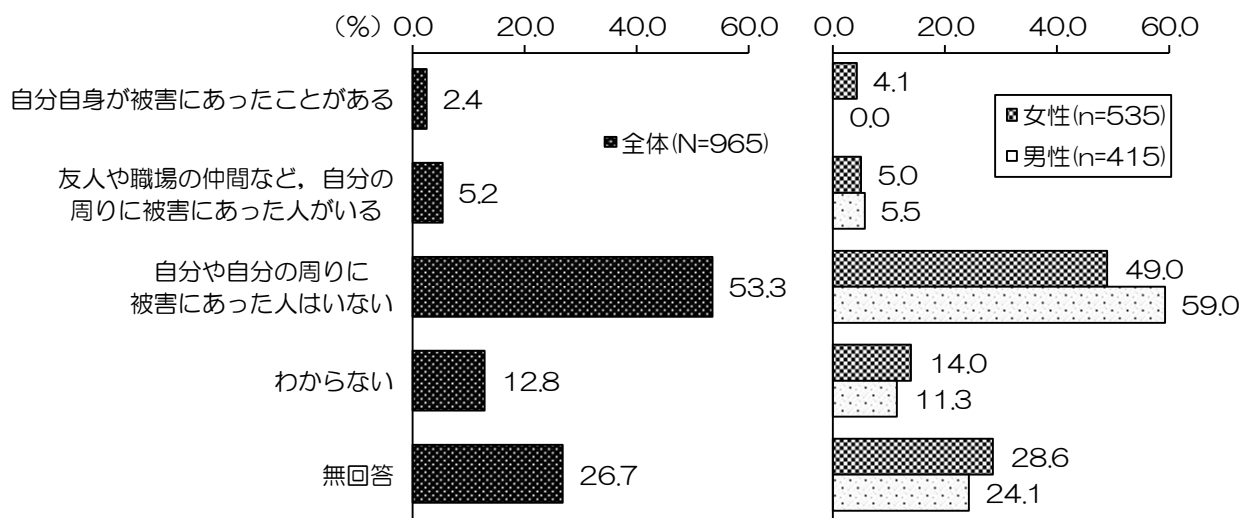
### 3 セクシュアル・ハラスメントについて

#### (1) 過去5年間におけるセクシュアル・ハラスメントの有無

問 27. あなたは過去5年間に、セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）をされたことはありますか。（〇はいくつでも）

過去5年間におけるセクシュアル・ハラスメントの有無については、「自分や自分の周りに被害にあった人はいない」が過半数（53.3%）を占めており、「自分自身が被害にあったことがある」が2.4%、「友人や職場の仲間など、自分の周りに被害にあった人がいる」が5.2%となっています。

性別では、女性の4.1%が「自分自身が被害にあったことがある」と回答しています。



性・年齢別でみると、女性30歳代の約1割が「自分自身が被害にあったことがある」と回答しています。また、女性29歳以下と男性30～50歳代で「友人や職場の仲間など、自分の周りに被害にあった人がいる」が比較的高くなっています。

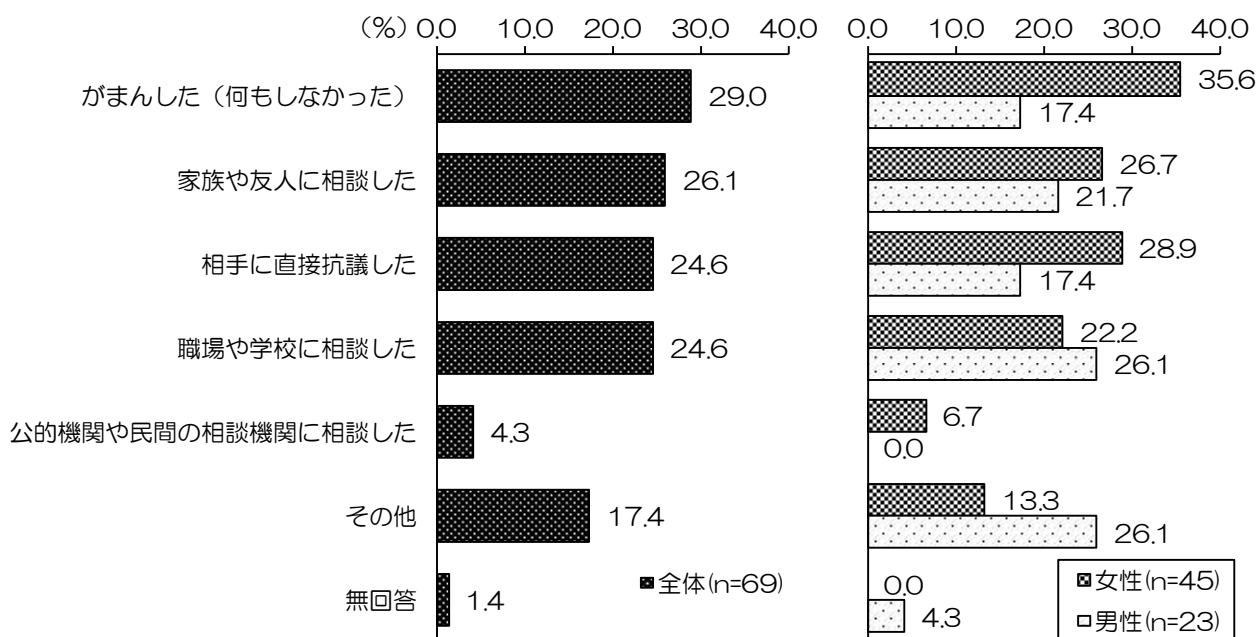
単位 (%)	サンプル数 (件数)	自分自身が被害にあったことがある	友人や職場の仲間など、自分自身が被害にあった人がいる	自分自身が被害にあつた人の周りに被害	わからない	
全体	965	2.4	5.2	53.3	12.8	
【性・年齢別】						
女性	29歳以下	59	8.5	16.9	66.1	11.9
	30歳代	65	10.8	9.2	50.8	15.4
	40歳代	76	0.0	6.6	56.6	18.4
	50歳代	78	3.8	2.6	61.5	7.7
	60歳代	105	4.8	2.9	49.5	13.3
	70歳代	109	1.8	0.9	31.2	17.4
	80歳以上	42	0.0	0.0	31.0	11.9
男性	29歳以下	37	0.0	5.4	67.6	21.6
	30歳代	43	0.0	11.6	72.1	11.6
	40歳代	59	0.0	10.2	66.1	10.2
	50歳代	48	0.0	10.4	62.5	14.6
	60歳代	73	0.0	5.5	65.8	12.3
	70歳代	94	0.0	1.1	46.8	10.6
	80歳以上	61	0.0	0.0	45.9	3.3

## (2) セクシュアル・ハラスメントへの対処方法

問 27-1. あなたは、その時やその後どうしましたか。(〇はいくつでも)

セクシュアル・ハラスメントへの対処方法については、「がまんした(何もしなかった)」が 29.0%と最も高く、次いで「家族や友人に相談した」(26.1%)、「相手に直接抗議した」「職場や学校に相談した」(各 24.6%) の順となっています。

性別では、男性に比べて女性で「がまんした(何もしなかった)」「相手に直接抗議した」が高くなっています。





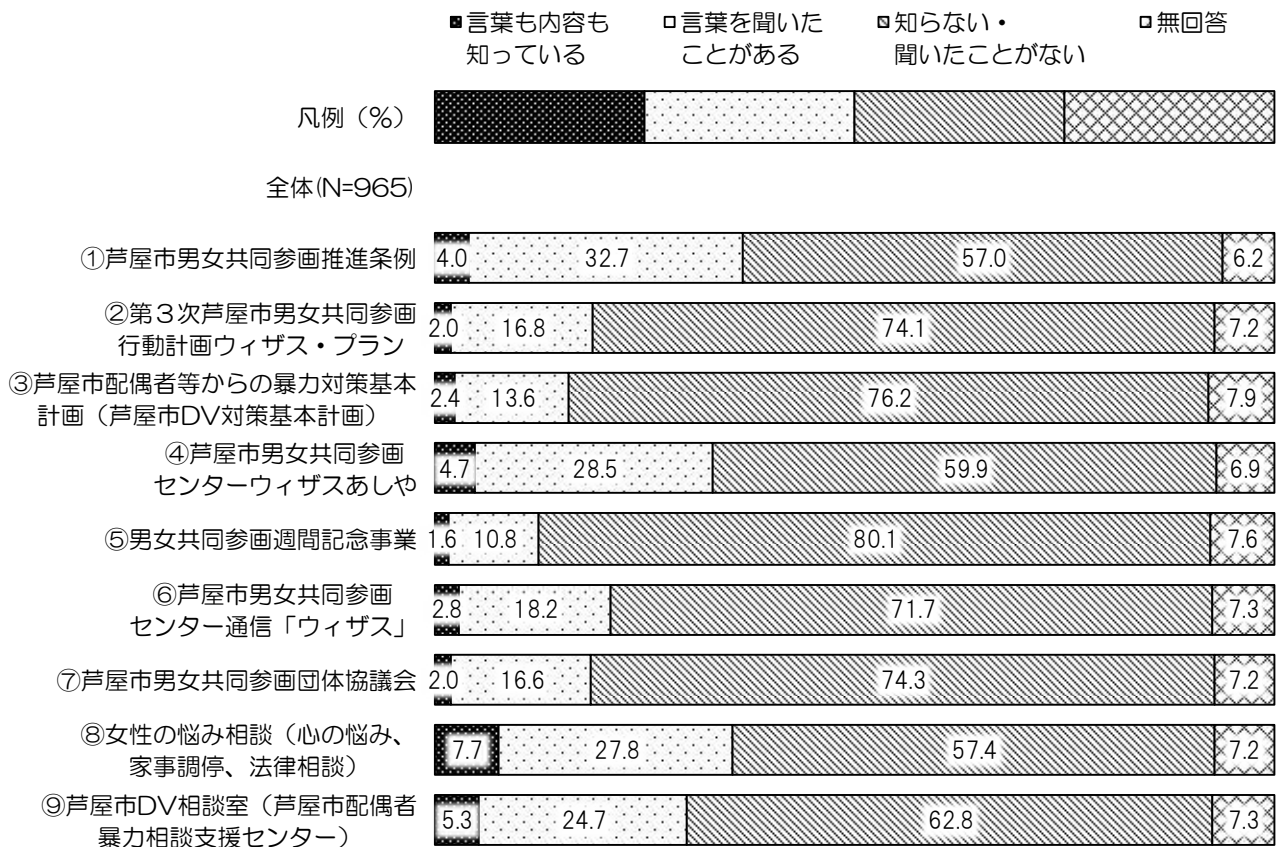
## 【7】男女共同参画の取組について

## 1 男女共同参画社会に向けた取組の認知状況

問 28. 芦屋市では男女共同参画社会の実現に向けての様々な取組をしています。あなたは、次の「言葉」や「内容」を知っていますか。（〇はそれぞれ1つずつ）

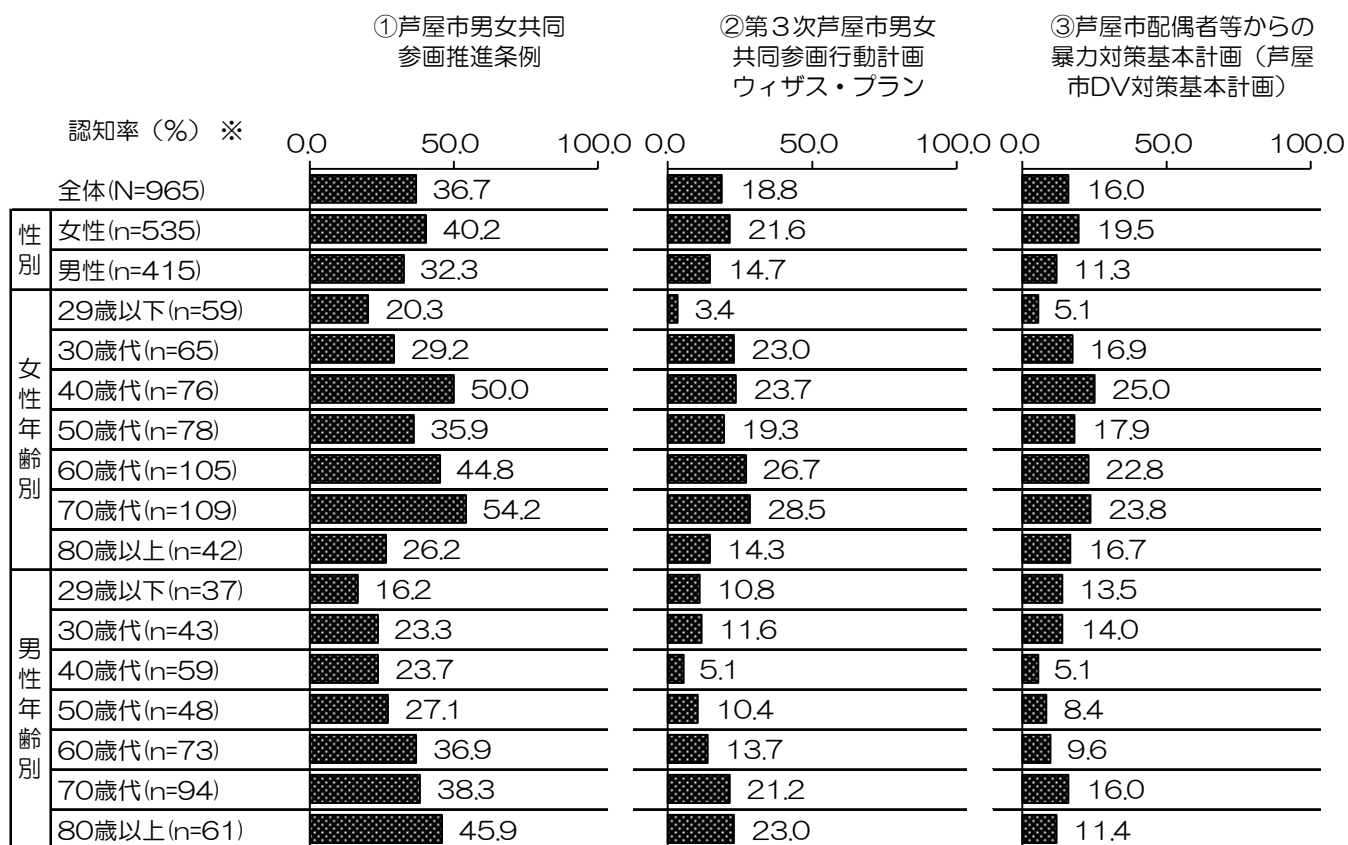
男女共同参画社会に向けた取組の認知状況は、「言葉も内容も知っている」と「言葉を聞いたことがある」を合わせると、「①芦屋市男女共同参画推進条例」が36.7%で最も高くなっています。次いで、「⑧女性の悩み相談（心の悩み、家事調停、法律相談）」が35.5%、「④芦屋市男女共同参画センターウィザスあしや」が33.2%、「⑨芦屋市DV相談室（芦屋市配偶者暴力相談支援センター）」が30.0%の順に高くなっています。

一方、すべてにおいて、半数以上の人「知らない・聞いたことがない」としています。



『認知率※』について性別でみると、男性に比べて女性で「④芦屋市男女共同参画センターウィザスあしや」「⑧女性の悩み相談（心の悩み，家事調停，法律相談）」「⑨芦屋市DV相談室（芦屋市配偶者暴力相談支援センター）」の『認知率』が高くなっています。

性・年齢別でみると、「①芦屋市男女共同参画推進条例」の『認知率』は、女性の40歳代と70歳代，及び男性は年齢が上がるほど高くなっています。また，女性40歳代で「④芦屋市男女共同参画センターウィザスあしや」「⑧女性の悩み相談（心の悩み，家事調停，法律相談）」「⑨芦屋市DV相談室（芦屋市配偶者暴力相談支援センター）」の『認知率』が他の層に比べて高くなっています。

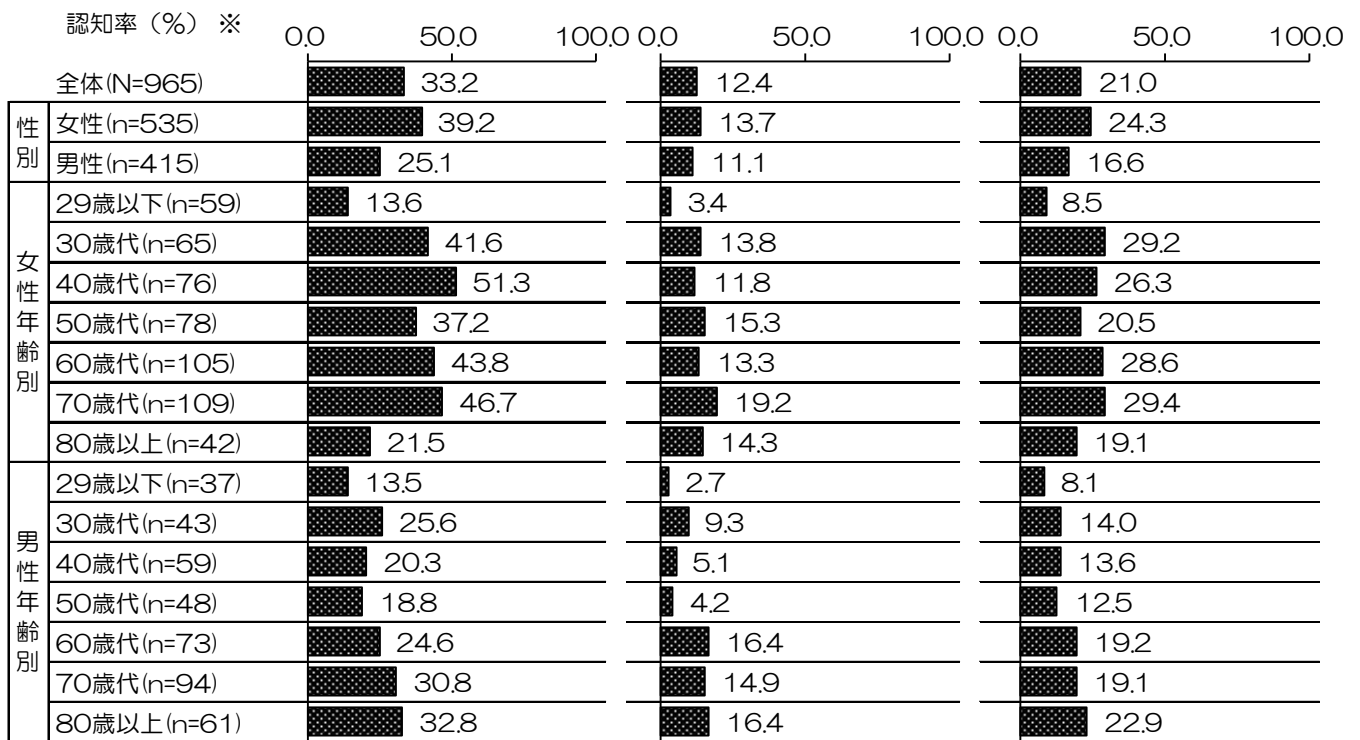


※ 『認知率』は「言葉も内容も知っている」と「言葉を聞いたことがある」の合計値。以下同様。

④芦屋市男女共同参画センターウィザスあしや

⑤男女共同参画週間記念事業

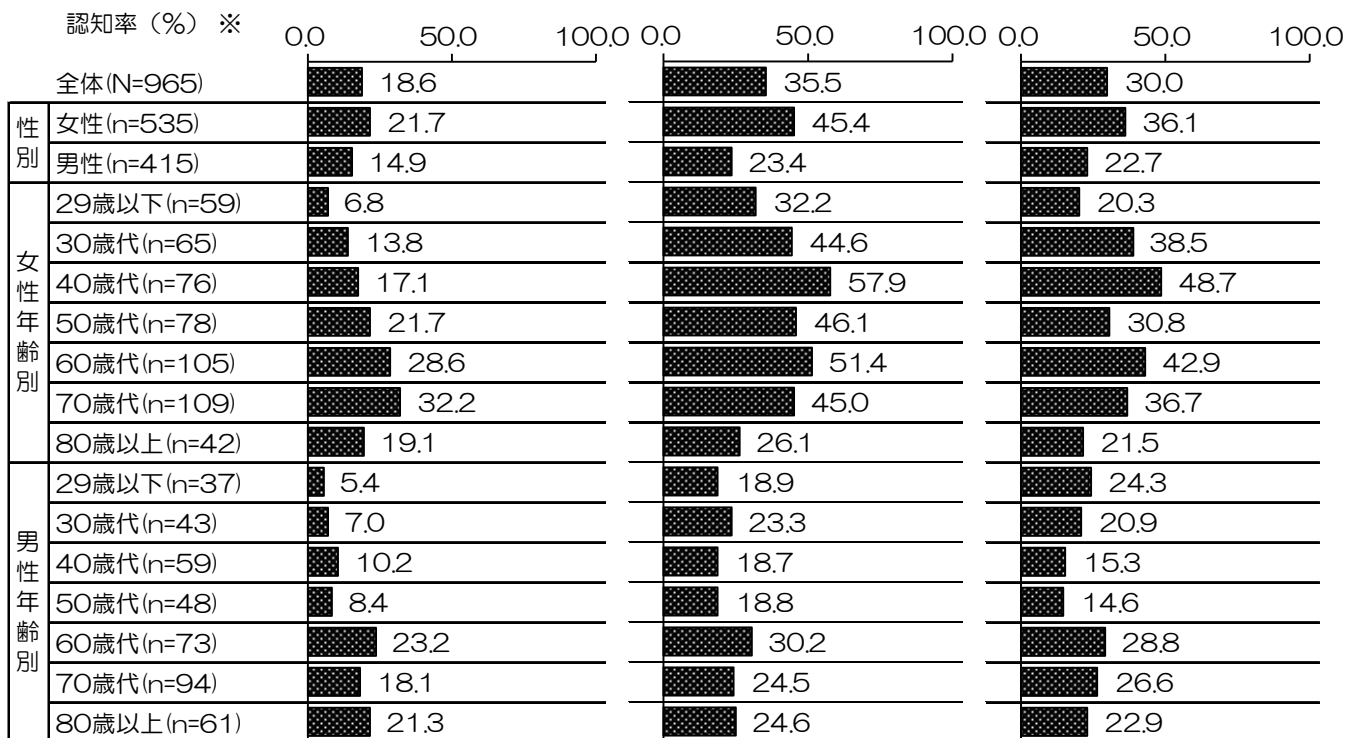
⑥芦屋市男女共同参画センター通信「ウィザス」



⑦芦屋市男女共同参画団体協議会

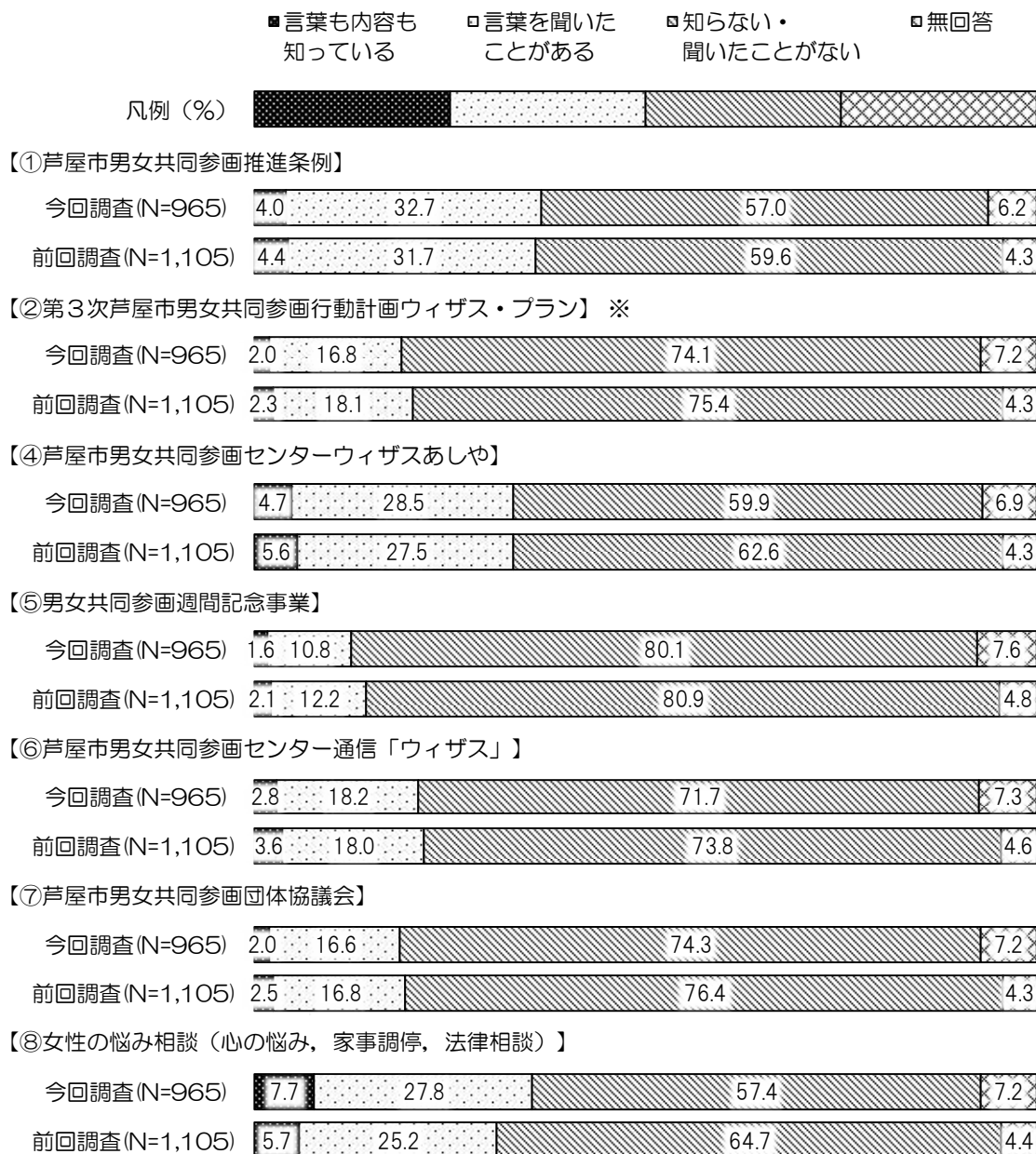
⑧女性の悩み相談 (心の悩み, 家事調停, 法律相談)

⑨芦屋市DV相談室 (芦屋市配偶者暴力相談支援センター)



## 参考／前回調査との比較

いずれの項目についても大きな変化はみられません。



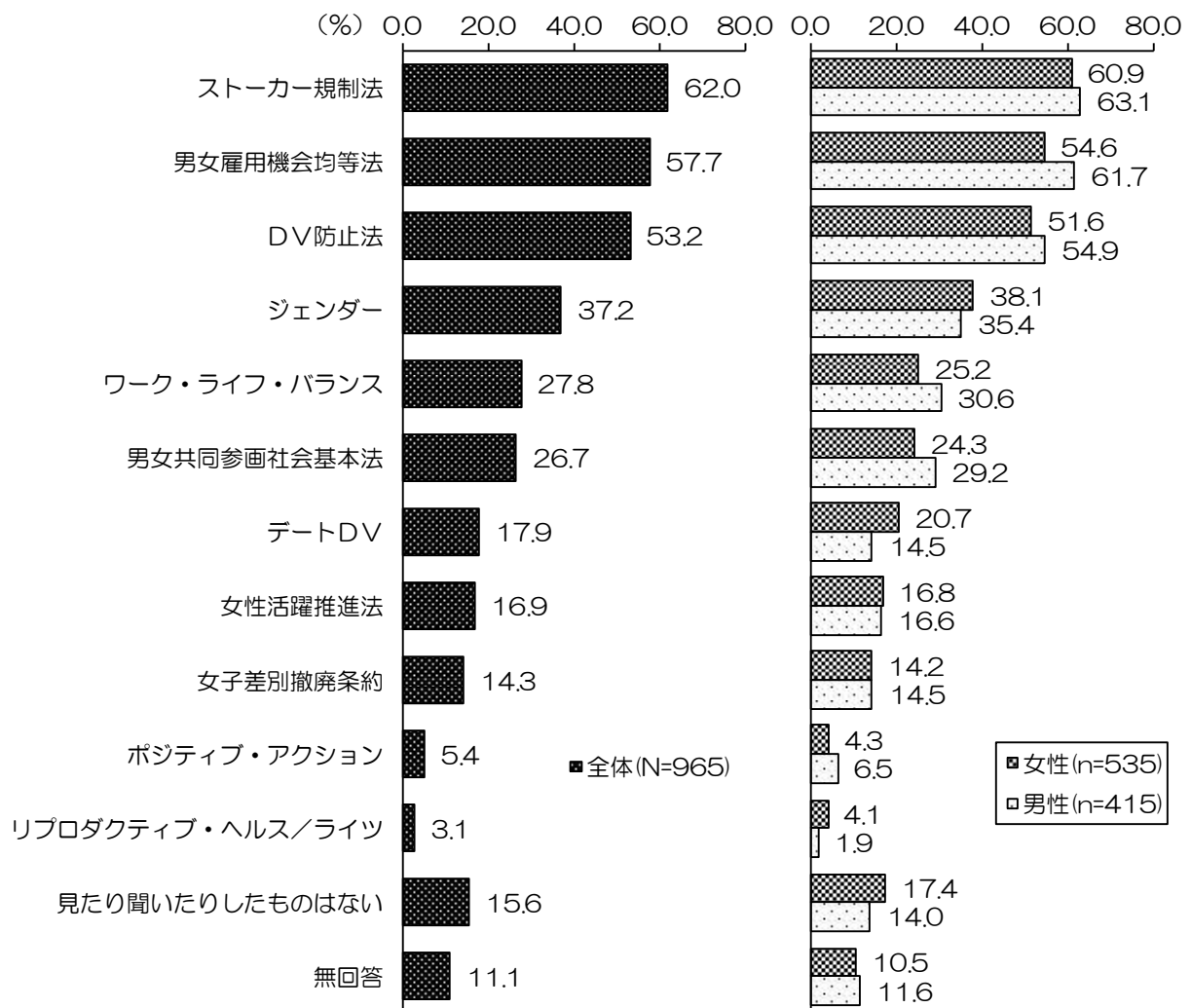
※前回調査では、「②第2次芦屋市男女共同参画行動計画(後期計画)ウィザス・プラン」の認知状況。

## 2 男女共同参画関連用語の認知状況

問 29. 男女共同参画に関する次の「ことがら」について、見たり聞いたりしたことはありますか。（〇はいくつでも）

男女共同参画関連用語の認知状況については、「ストーカー規制法」が62.0%と最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」（57.7%）、「DV防止法」（53.2%）、「ジェンダー」（37.2%）の順となっています。

性別では、男性で「男女雇用機会均等法」がやや高くなっています。



性・年齢別では、性別にかかわらず若い年齢層ほど「ジェンダー」「ワーク・ライフ・バランス」「デートDV」がおおむね高くなる傾向にあります。

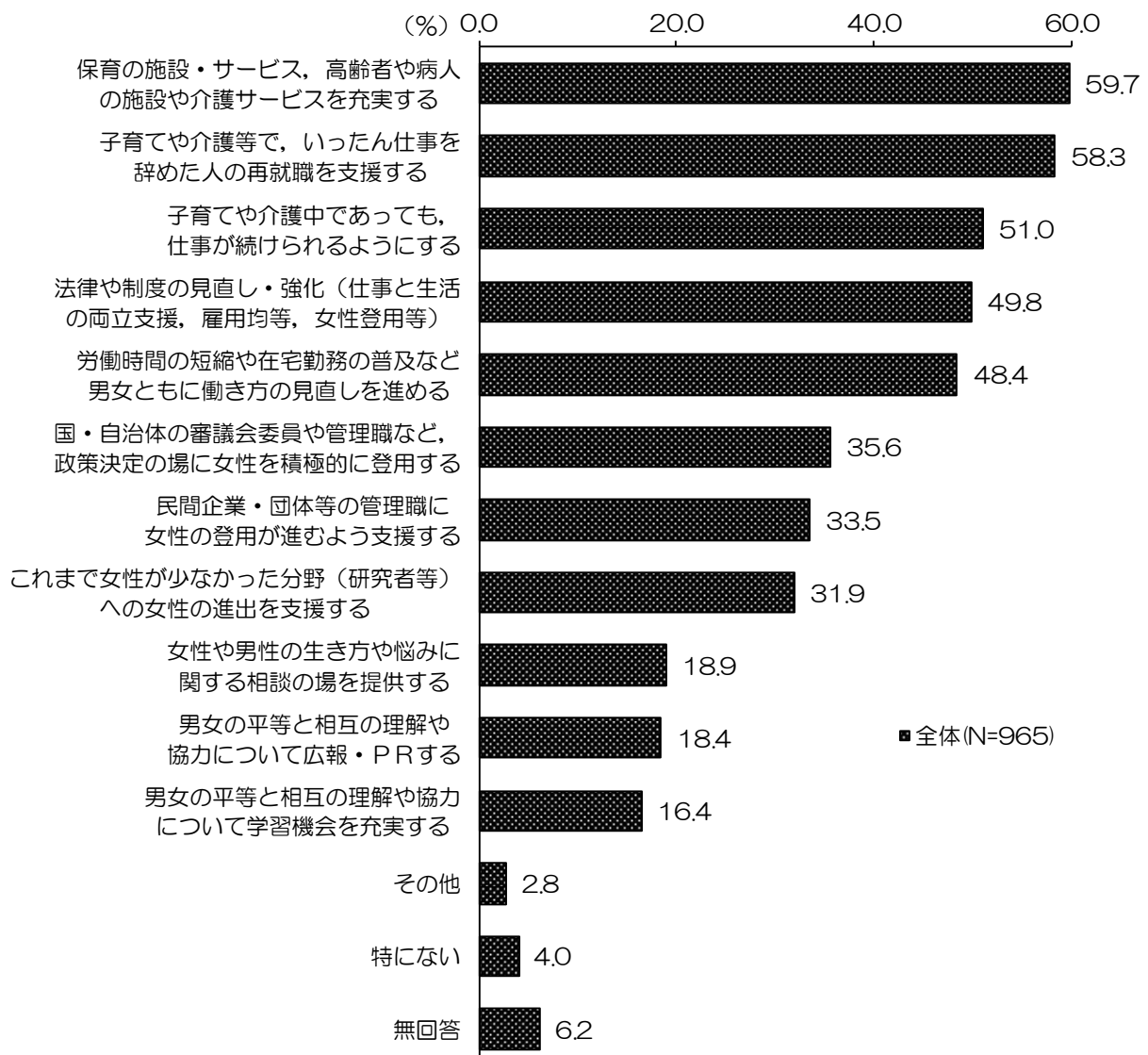
また、「ストーカー規制法」は女性30歳代と男性40歳代、「男女雇用機会均等法」は男性60歳代、「男女共同参画社会基本法」「女子差別撤廃条約」は男女29歳以下で、他の年齢層に比べてそれぞれ高くなっています。

単位 (%)	サンプル数 (件数)	ストーカー規制法	男女雇用機会均等法	DV防止法	ジェンダー	ワーク・ライフ・バ	男女共同参画社会基本法	デートDV	女性活躍推進法	女子差別撤廃条約	ポジティブ・アクション	ヘルプデスク/ライティブ・	見たり聞いたりした	
全体	965	62.0	57.7	53.2	37.2	27.8	26.7	17.9	16.9	14.3	5.4	3.1	15.6	
【性・年齢別】														
女性	29歳以下	59	52.5	66.1	47.5	57.6	40.7	49.2	35.6	22.0	25.4	6.8	10.2	20.3
	30歳代	65	73.8	60.0	55.4	52.3	36.9	16.9	33.8	12.3	16.9	3.1	4.6	13.8
	40歳代	76	68.4	61.8	61.8	44.7	35.5	28.9	31.6	21.1	9.2	2.6	2.6	15.8
	50歳代	78	67.9	55.1	62.8	44.9	28.2	19.2	20.5	17.9	14.1	3.8	6.4	17.9
	60歳代	105	61.9	51.4	55.2	30.5	19.0	23.8	11.4	18.1	15.2	4.8	2.9	19.0
	70歳代	109	56.9	50.5	43.1	24.8	13.8	21.1	11.0	16.5	13.8	5.5	2.8	15.6
	80歳以上	42	35.7	33.3	26.2	19.0	7.1	11.9	9.5	4.8	2.4	2.4	0.0	21.4
男性	29歳以下	37	54.1	54.1	54.1	54.1	24.3	45.9	40.5	18.9	32.4	5.4	2.7	24.3
	30歳代	43	60.5	62.8	53.5	51.2	48.8	23.3	20.9	16.3	14.0	14.0	2.3	18.6
	40歳代	59	74.6	66.1	64.4	42.4	52.5	30.5	22.0	16.9	10.2	10.2	1.7	6.8
	50歳代	48	66.7	60.4	58.3	47.9	37.5	31.3	20.8	20.8	10.4	8.3	2.1	16.7
	60歳代	73	71.2	71.2	57.5	35.6	38.4	28.8	9.6	24.7	11.0	9.6	5.5	12.3
	70歳代	94	62.8	61.7	54.3	20.2	11.7	23.4	2.1	10.6	14.9	0.0	0.0	13.8
	80歳以上	61	47.5	50.8	42.6	19.7	14.8	29.5	6.6	11.5	14.8	3.3	0.0	11.5

### 3 男女共同参画推進にとって重要なこと

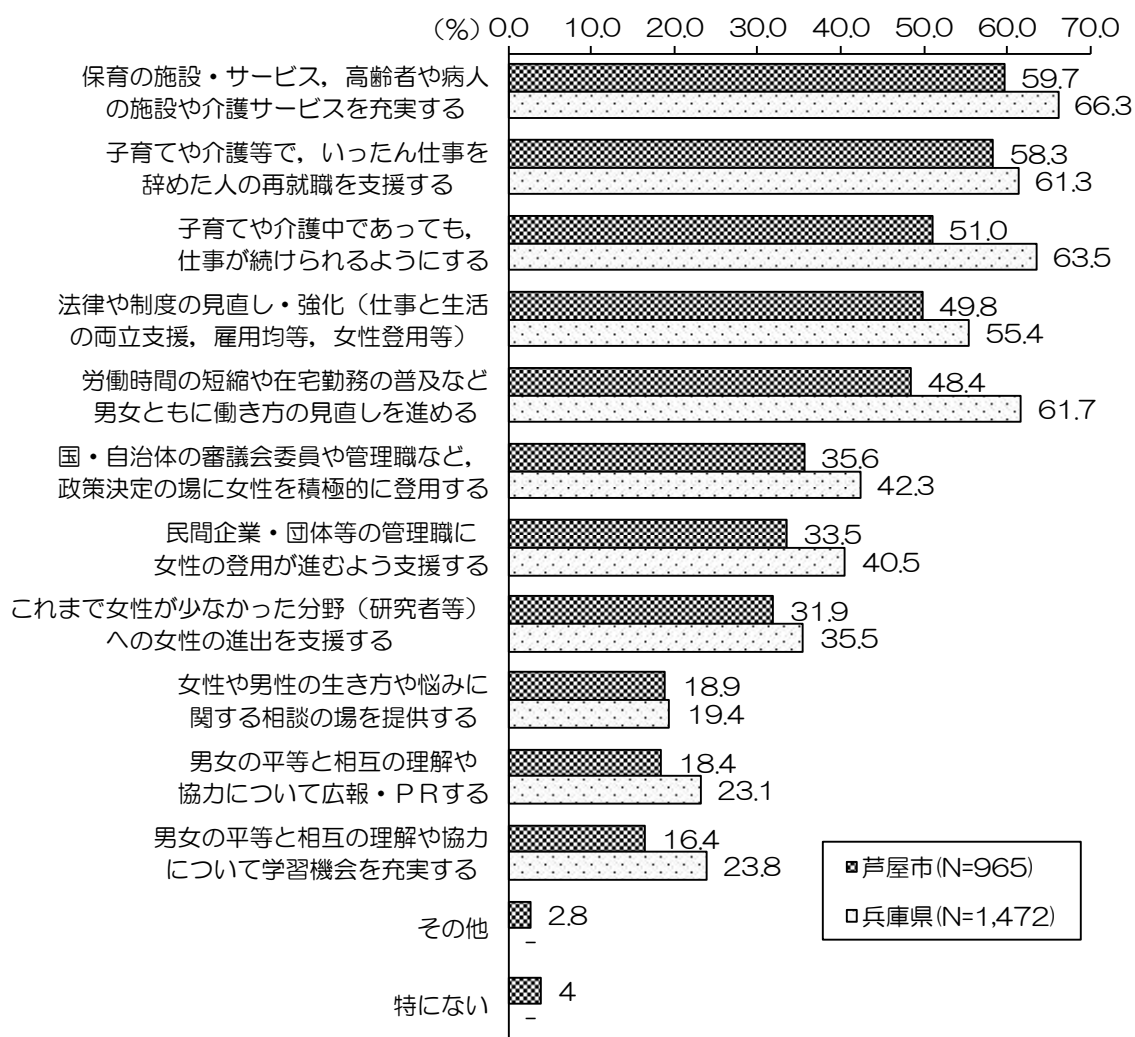
問 30. 今後、あらゆる分野で男女がさらに対等な社会となるために、重要なことはどのようなことだと思いますか。（〇はいくつでも）

男女共同参画推進にとって重要なことについては、「保育の施設・サービス，高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が 59.7%と最も高く，ほぼ並んで「子育てや介護等で，いったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(58.3%)が続きます。以下，「子育てや介護中であっても，仕事が続けられるようにする」(51.0%)，「法律や制度の見直し・強化（仕事と生活の両立支援，雇用均等，女性登用等）」(49.8%)，「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」(48.4%)の順となっています。



## 参考／兵庫県との比較

いずれの項目も兵庫県よりも割合としては低くなっており、そのうち「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」については 13.3 ポイント、「子育てや介護中であっても、仕事が続けられるようにする」については 12.5 ポイント低くなっています。





## 資料/調査票

## 芦屋市 男女共同参画に関する市民意識調査

## 調査へのご協力をお願い

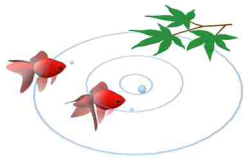
市民の皆さまには、日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本市では、平成 21 年 3 月に「芦屋市男女共同参画推進条例」を制定するとともに、平成 25 年 3 月には「第 3 次芦屋市男女共同参画行動計画ウィザス・プラン」を策定し、女性も男性もすべての個人が、喜びも責任も分かち合い、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現を目指して、具体的な施策の取組を進めています。

このたび、「ウィザス・プラン」の見直しと今後の男女共同参画の施策を進める上での基礎資料とさせていただきますため、「男女共同参画に関する市民意識調査」を行うことにいたしました。

この調査は、芦屋市に住む 18 歳以上の方から男女各 1,000 人、合わせて 2,000 人を無作為に選ばせていただきました。調査は無記名です。すべて統計的に処理を行い、個人が特定されるなどご迷惑をおかけすることはありませんので、ぜひご協力をお願いいたします。

平成 28 年（2016 年）8 月



芦屋市長 山中 健

## ご記入にあたってのお願い

1. 回答はあなた（封筒の宛名ご本人）自身のお考えでお答えください。
2. 記入は黒のボールペン、又は濃い鉛筆でお願いします。
3. 回答は、質問ごとにあてはまる選択肢の番号に○をつけてください。
4. 質問によって回答される方が限られる場合がありますので、設問をお読みいただき、記入してください。
5. ご記入いただきました調査票は、返信用封筒に入れ、**8 月 31 日（水）**までにご返送ください。（切手は不要です。）

## ◆この調査についてのお問い合わせ先

芦屋市 市民生活部 男女共同参画推進課 TEL 0797-38-2023（直通）

これは、男女共同参画に関する市民アンケートです。  
英語版のアンケート調査票、又はふりがな付きのアンケート調査票が必要な場合は、ご連絡ください。芦屋市 市民生活部 男女共同参画推進課 e-mail jousei-ce@city.ashiya.lg.jp

Survey about the Gender Equality of Ashiya Citizens

If you need either an English version or a Japanese with *furigana* version of the questionnaire, please contact the below :

Ashiya City Gender Equality Promotion Section

## あなたご自身のことについておたずねします。

問1. あなたの性別は。(○は1つ。身体的な性別, 又はご自身で思われる性別をお答えください。)

- |       |       |        |
|-------|-------|--------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. ( ) |
|-------|-------|--------|

問2. あなたの年齢(平成28年8月1日現在)は。(○は1つ)

- |              |         |          |
|--------------|---------|----------|
| 1. 10歳代・20歳代 | 4. 50歳代 | 7. 80歳以上 |
| 2. 30歳代      | 5. 60歳代 |          |
| 3. 40歳代      | 6. 70歳代 |          |

問3. あなたの主な職業等は何ですか。(○は1つ)

- |                |              |                |
|----------------|--------------|----------------|
| 1. 自営業・会社経営    | 4. パート・アルバイト | 7. 無職(5及び6を除く) |
| 2. 正社員・正職員(常勤) | 5. 主婦・主夫     | 8. その他(具体的に )  |
| 3. 派遣社員・契約社員   | 6. 学生        |                |

問4. あなたは結婚していますか。(○は1つ) ※事実婚や同性婚を含みます。

- |              |                |
|--------------|----------------|
| 1. 結婚していない   | 3. 結婚後, 離別又は死別 |
| 2. 既婚, 配偶者あり | 4. その他(具体的に )  |

2. 以外を答えた方は問5.へ

「2. 既婚, 配偶者あり」と答えた方におたずねします。

◆問4-1. あなたの配偶者・パートナーの職業等は何ですか。(○は1つ)

- |                |              |                |
|----------------|--------------|----------------|
| 1. 自営業・会社経営    | 4. パート・アルバイト | 7. 無職(5及び6を除く) |
| 2. 正社員・正職員(常勤) | 5. 主婦・主夫     | 8. その他(具体的に )  |
| 3. 派遣社員・契約社員   | 6. 学生        |                |

→ 問5. あなたにはお子さんがおられますか。(○は1つ) ※事実婚や同性婚のパートナーのお子さんを含みます。別居も含みます。

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

次は問6.へ

「1. いる」と答えた方におたずねします。

◆問5-1. 一番下のお子さんは次のどれにあたりますか。(○は1つ)

- |        |                           |           |
|--------|---------------------------|-----------|
| 1. 就学前 | 3. 中学生・高校生                | 5. 学校を終えた |
| 2. 小学生 | 4. 短大, 大学, 大学院, 専修学校などの学生 |           |

問6. あなたの同居の家族構成は。(○は1つ) ※夫婦は事実婚や同性婚を含みます。

- |                          |                   |
|--------------------------|-------------------|
| 1. 単身世帯(ひとり暮らし)          | 4. 三世帯世帯(親と子と孫など) |
| 2. 一世帯世帯(夫婦, 兄弟, 姉妹だけなど) | 5. その他の世帯(具体的に )  |
| 3. 二世帯世帯(親と子など)          |                   |

## 男女の平等意識についておたずねします。

問7. 次の各分野において、男女はどの程度平等だと思いますか。次の各項目についてあなたのお考えに最も近いものをお答えください。（○はそれぞれ1つずつ）

①～⑨までの項目について、それぞれ選んだ番号に○をつけてください。

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない
① 家庭生活の場で	1	2	3	4	5	6
② 就職・雇用で	1	2	3	4	5	6
③ 職場の中で（賃金・昇進等）	1	2	3	4	5	6
④ 地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
⑤ 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
⑥ 政治の場で	1	2	3	4	5	6
⑦ 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会通念や慣習、しきたり等で	1	2	3	4	5	6
⑨ 社会全体として	1	2	3	4	5	6

## 結婚・家庭生活についておたずねします。

問8. 結婚・家庭生活について、あなたのお考えをお聞かせください。（○はそれぞれ1つずつ）

①～⑤までの項目について、それぞれ選んだ番号に○をつけてください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
① 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
② 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
③ 女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活したほうがよい	1	2	3	4	5
④ 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	1	2	3	4	5
⑤ 結婚してもやり直したいときは離婚してもよい	1	2	3	4	5

問9. 次にあげる家庭でのことがらに関する夫婦の分担について、おたずねします。

(A, Bとも○はそれぞれ1つずつ)

	A 理想 全員がお答えください。				B 現実 配偶者のいる方(事実婚や同性婚も含む。)がお答えください。 ⑩～⑫は、該当する方のみお答えください。			
	主として妻	夫婦同程度	主として夫	わからない	主として妻	夫婦同程度	主として夫	わからない
① 生活費の確保	1	2	3	4	1	2	3	4
② 掃除・洗濯	1	2	3	4	1	2	3	4
③ 日常のごみ出し	1	2	3	4	1	2	3	4
④ 食事のしたく	1	2	3	4	1	2	3	4
⑤ 食事の後片付け・食器洗い	1	2	3	4	1	2	3	4
⑥ 日常の家計管理	1	2	3	4	1	2	3	4
⑦ 自治会・町内会活動	1	2	3	4	1	2	3	4
⑧ 近所や親せきとのつきあい	1	2	3	4	1	2	3	4
⑨ 家庭における重要な決定	1	2	3	4	1	2	3	4
⑩ 育児・子育て	1	2	3	4	1	2	3	4
⑪ 子どものしつけ・教育	1	2	3	4	1	2	3	4
⑫ 介護	1	2	3	4	1	2	3	4

①～⑫までの項目について、それぞれ選んだ番号に○をつけてください。

問10. あなたは、介護が必要になった場合(現在、介護が必要な場合)、だれに介護をしてもらいたいですか。(○は1つ)

1. 配偶者	6. その他の親族
2. 娘	7. ホームヘルパー
3. 息子	8. 介護施設, 老人ホーム
4. 娘の夫	9. その他(具体的に )
5. 息子の妻	

問11. あなたは、家族の介護について、どのように考えますか。(○は1つ)

1. 女性の役割だと思う
2. 女性の役割となりがちである現状に問題はあるが、実際にはやむを得ない
3. 男性も女性とともに介護するべき
4. 性別にかかわらず子どもが介護するべき
5. 介護は社会で担い行うべき
6. その他(具体的に )

問 12. あなたは、男性が家事、子育て、介護を行うことについて、どのようなイメージをおもちですか。（〇はいくつでも）

1. 男性も家事、子育て、介護を行うことは当然である
2. 家事、子育て、介護を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる
3. 男性自身も充実感が得られる
4. 子どもにいい影響を与える
5. 仕事と両立させることは、現実として難しい
6. 家事、子育て、介護は女性のほうが向いている
7. 妻が家事、子育て、介護をしていないと誤解される
8. 周りから冷たい目で見られる
9. 男性は、家事、子育て、介護を行うべきではない
10. その他（具体的に \_\_\_\_\_ ）
11. 特にない

問 13. 今後、男性が家事、子育て、介護、地域の活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる
4. 当事者（夫婦間）の考えを尊重し、周りの人が固定的な観念等を押しつけない
5. 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域の活動についても、その評価を高める
6. 労働時間の短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間を多くもてるようにする
7. 男性が家事などに関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
8. 男性の家事や子育て、介護等の技能を高める
9. 男性が子育てや介護、地域の活動を行うための、仲間（ネットワーク）づくりを進める
10. 仕事との両立がバランスよくできるよう、男性向けの参加しやすい講座を開催する
11. 学校の家庭科が必修でなかった（おおむね 40 歳以上の）男性が講座等で家事などの知識を得る
12. その他（具体的に \_\_\_\_\_ ）



## 子どもの教育についておたずねします。(全員がお答えください。)

問 14. もしあなたに子どもがいたら、子育てについての次のような考え方をどう思いますか。

(①, ②ともに○は1つ)

①男女区別せず、個人の能力や性格に応じて、その子らしく育てるのがよい。

1. そう思う	3. あまりそう思わない
2. ややそう思う	4. そう思わない

②男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい。

1. そう思う	3. あまりそう思わない
2. ややそう思う	4. そう思わない

問 15. もしあなたに子どもがいたら、子どもの教育はどこまでを期待しますか。女の子と男の子のそれぞれの場合について、お答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

	中学校まで	高等学校まで	専修学校・各種学校 まで	短期大学・高等専門 学校まで	大学まで	大学院まで	その他( ) ( )
女の子	1	2	3	4	5	6	7
男の子	1	2	3	4	5	6	7

問 16. もしあなたに子どもがいたら、あなたは、子どもにはどのような生き方をしてほしいと思いますか。A女の子とB男の子それぞれの場合についてお答えください。(A, Bとも○はそれぞれ1つずつ)

①～⑤までの項目について、それぞれ選んだ番号に○をつけてください。

	A 女の子				B 男の子			
	重要	やや重要	あまり重要 ではない	重要では ない	重要	やや重要	あまり重要 ではない	重要では ない
① 社会的な地位を得るように	1	2	3	4	1	2	3	4
② 経済的に自立できるように	1	2	3	4	1	2	3	4
③ 家事など身の回りのことが自分でできるように	1	2	3	4	1	2	3	4
④ 自分の意見をはっきりと言える人に	1	2	3	4	1	2	3	4
⑤ 本人の個性や才能を活かせるように	1	2	3	4	1	2	3	4

## 職業生活についておたずねします。(全員がお答えください。)

問 17. あなたは現在、職業をもって仕事をしていますか。(〇は1つ)

1. 仕事をしている

2. 仕事をしていない

「2. 仕事をしていない」と答えた方におたずねします。

◆問 17-1. あなたが職業をもって働いていない主な理由は何ですか。(〇は1つ)

1. 家事・育児・介護に専念したいから

8. 定年、高齢だから

2. 家事・育児・介護を担わざるを得ないから

9. 学生だから

3. 家族が働くことを望まないから

10. 仕事以外の活動(ボランティアなど)をしているから

4. 経済的に働くことを必要としないから

5. やりがいのある仕事がないから

11. その他(具体的に )

6. 就職先を探しているが、見つからないから

7. リストラにあったから

◆問 17-2. 今後、職業をもち、仕事をしたいと思えますか。(〇は1つ)

1. すぐにでもしたい

3. するつもりはない

2. 将来したい

4. わからない

次は問18.へ

「1. すぐにでもしたい」「2. 将来したい」と答えた方におたずねします。

◆問 17-3. あなたが職業をもって働くとしたら、どのように働きたいですか。(〇は1つ)

1. 正社員・正職員(常勤)

5. 家業の手伝い

2. 派遣社員・契約社員

6. 起業する・経営する

3. パート・アルバイト

7. その他(具体的に )

4. 内職・在宅就業

次は問 18.へ

問 17. で、「1. 仕事をしている」と答えた方におたずねします。

◆問 17-4. 家庭で育児や介護が必要なとき、共働きの夫婦が育児休業や介護休業を取るとしたら、どうするのがよいと思えますか。それぞれについてお答えください。

(1) 育児休業について(〇は1つ)

1. 夫が取るのがよい

3. 夫も妻も同じように取るのがよい

2. 妻が取るのがよい

4. その他(具体的に )

(2) 介護休業について(〇は1つ)

1. 夫が取るのがよい

3. 夫も妻も同じように取るのがよい

2. 妻が取るのがよい

4. その他(具体的に )

次は問 17-5.へ

問 17. で、「1. 仕事をしている」と答えた方におたずねします。

◆問 17-5. 充実感を感じて働き、仕事上の責任を果たしながら、家庭や地域活動などでも、人生の各段階に応じて多様な生き方を各個人が選択できる『ワーク・ライフ・バランス』という考え方がありますが、日々の暮らしの中での時間の使い方について、「希望」と「現実」をお答えください。

(1) 希望 (○は1つ)

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 仕事を優先              | 3. 仕事と生活をバランスよく |
| 2. 生活(趣味や家庭での時間など)を優先 | 4. わからない        |

(2) 現実 (○は1つ)

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 仕事を優先              | 3. 仕事と生活をバランスよく |
| 2. 生活(趣味や家庭での時間など)を優先 | 4. わからない        |

問 18. 女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

- |   |
|---|
| 1. 女性は職業をもたないほうがよい                              |
| 2. 結婚するまで職業をもち、結婚とともに辞めるほうがよい                   |
| 3. 結婚しても職業をもち続け、子どもができたなら辞めるほうがよい               |
| 4. 結婚しても職業をもち続け、子どもができたなら辞めて、大きくなったら再び職業をもつのがよい |
| 5. 結婚や出産、子育てにかかわらず、職業をもち続けるのがよい                 |
| 6. その他(具体的に )                                   |
| 7. わからない  |

問 19. 女性が活躍できる仕事・職場環境にするために、必要なことは何だと思えますか。

(○はいくつでも)

- |                                |
|--------------------------------|
| 1. 職場のトップが女性の活躍の促進に積極的であること    |
| 2. 上司や同僚が、女性が働くことに理解があること      |
| 3. 育児・介護との両立に職場の支援制度が整っていること   |
| 4. 長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること |
| 5. 身近に活躍している女性(ロールモデル)がいること    |
| 6. 仕事が適正に評価されること               |
| 7. 仕事の内容にやりがいがあること             |
| 8. その他(具体的に )                  |





問 20. あなたは、女性が出産や介護による離職をしないで同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。（〇はいくつでも）

1. 保育所や学童保育など、子どもを預けられる環境の整備
2. 介護支援サービスの充実
3. 家事・育児支援サービスの充実
4. 男性の家事参加への理解，意識改革
5. 女性が働き続けることへの周囲の理解，意識改革
6. 働き続けることへの女性自身の意識改革
7. 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革
8. 職場における育児・介護との両立支援制度の充実
9. 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入
10. 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止
11. その他（具体的に )
12. 特にない

問 21. 出産などでいったん離職した女性が、再び社会で活動する仕方として、あなたが望ましいと思うものは何ですか。（〇はいくつでも）

1. これまでの知識・経験・資格等を生かして働けることを重視し、正社員として再就職する
2. 仕事と家事・育児・介護の両立しやすさなどを重視し、正社員として再就職する
3. これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する
4. 家事・育児・介護の経験を生かした仕事により、地域に貢献する（ヘルパー、保育補助、家事代行など）
5. これまでの経験を生かして、ボランティアやNPO活動で地域に貢献する（育児・介護ボランティア、PTA、防災・治安パトロール、環境を守る活動など）
6. これまでの経験を生かして、起業又はNPOの立ち上げを行う（小売店経営、IT企業設立、ボランティア、NPO団体設立など）
7. 家事以外で活動する必要はない
8. その他（具体的に )
9. 特にない

## 市民活動（地域活動）についておたずねします。

問 22. あなたは、次のような市民活動に参加したことがありますか。また、今後参加したい市民活動はありますか。（○はそれぞれ1つずつ）

①～⑫までの活動について、それぞれ選んだ番号に○をつけてください。

	参加している (参加している)	今後参加したい	参加したことが ない	今後参加した くない
① まつりなどの交流事業	1	2	3	4
② 公園や道路の清掃活動	1	2	3	4
③ スポーツ・レクリエーション活動	1	2	3	4
④ 防災活動	1	2	3	4
⑤ リサイクル、緑化、園芸などの環境に関わる活動	1	2	3	4
⑥ 子育て支援活動	1	2	3	4
⑦ 障がい者や高齢者の支援活動	1	2	3	4
⑧ 防犯活動	1	2	3	4
⑨ 町内会・自治会などのコミュニティ活動	1	2	3	4
⑩ 子ども会やPTAなどの青少年育成活動	1	2	3	4
⑪ 文化・芸術活動	1	2	3	4
⑫ その他（具体的に )	1	2	—	—

次の(ア)(イ)に該当しない方は問 23. へ

(ア)ひとつでも「1」と答えた方は問 22-2. へ

(イ)すべて「3」又は「4」と答えた方は問 22-1. へ

◆問 22-1. あなたが、いずれの市民活動にも参加したことがない、参加したくない理由は何ですか。（○はいくつでも）

- |                  |                      |
|------------------|----------------------|
| 1. 仕事が忙しい        | 6. 参加したいが家族の理解が得られない |
| 2. 家事・育児・介護等で忙しい | 7. どんな活動があるかわからない    |
| 3. 自分の健康上の理由     | 8. 参加方法がわからない        |
| 4. 活動に興味がない      | 9. 参加したい活動がない        |
| 5. 人間関係がわずらわしい   | 10. その他（具体的に )       |

次は問 23. へ

問 22. で、いずれかの活動に「1 参加している（参加していた）」と答えた方におたずねします。

◆問 22-2. あなたがお住まいの地域での様々な市民活動において、男性と女性の協力は実際にどのようにされていますか。（〇は1つ）

1. ほとんど対等に協力しあっている
2. それぞれの持ち分を分担し、協力しあっている
3. 男性が主体となっており、女性はあまり参加していない
4. 女性が主体となっており、男性はあまり参加していない
5. 実質的には女性が担っているが、代表・役員には男性が就いている
6. その他（具体的に
7. わからない

次は問 23. へ

問 23. 芦屋市における自治会や様々な市民活動、市政における企画づくりや方針決定の場への女性の参画状況について、あなたはどのように思いますか。（〇は1つ。参考 平成 28 年 4 月 1 日現在：市内の女性自治会長の割合 7.4%，市職員の女性管理職〈課長級以上〉の割合 29.3%）

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| 1. まったく参画できていない | 4. 十分に参画できている |
| 2. あまり参画できていない  | 5. わからない      |
| 3. ある程度参画できている  | 6. その他（具体的に   |

問 24. 今後、政治・経済・地域などあらゆる分野で、女性の参画が進み、女性のリーダーが増えとどのような効果や影響があると思いますか。（〇はいくつでも）

1. 多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される
2. 人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる
3. 女性の声が反映されやすくなる
4. ジェンダー・ギャップ指数（国ごとの男女格差を計る指数、2015 年日本は 145 か国中 101 位）が上昇することなどにより、国際社会からの評価が現在よりあがる
5. 男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる
6. 男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる
7. 労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
8. 男性の家事・育児などへの参加が増える
9. 今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる
10. 男性のポスト（地位・役職）が減り、男性が活躍しづらくなる
11. 保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する
12. その他（具体的に
13. 特にない
14. わからない



## 夫婦\*間や交際相手からの暴力（DV=ドメスティック・バイオレンス）等についておたずねします。

ドメスティック・バイオレンスとは、多くの場合、女性が、夫や恋人などのパートナーから、身体的暴力や性的暴力、精神的暴力、経済的暴力を受けることをいいますが、被害者が男性の場合もあります。

※夫婦には、婚姻届を出していない事実婚や同性婚、元夫婦も含まれます。

問25. あなたは過去5年間に、配偶者がいましたか。（○は1つ）

配偶者には婚姻届を出していない事実婚や同性婚、別居中の夫婦、元配偶者（離婚・死別した相手、事実婚・同性婚を解消した相手）も含まれます。

1. いる（いた）

2. いない（いなかった）

次は問 26. へ

「1. いる（いた）」と答えられた方におたずねします。

◆問25-1. あなたは過去5年間に、あなたの配偶者から次のようなことをされたことはありますか。（○はそれぞれ1つずつ）

①～⑨までの項目について、それぞれ選んだ番号に○をつけてください。

	あ 何 つ 度 た も	あ <sup>1</sup> 、 あ <sup>2</sup> つ た 度	ま っ た い た く
① 命の危険を感じるくらいの暴力を受けた	1	2	3
② 医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた	1	2	3
③ 医師の治療が必要とならない程度の暴行を受けた	1	2	3
④ 大声でどなられたり、ことばによる暴力をあげられた	1	2	3
⑤ 生活費を渡してくれなかった	1	2	3
⑥ 交友関係や電話・メールを細かく監視された	1	2	3
⑦ 危害が加えられるのではと恐怖を感じるほどの脅しを受けた	1	2	3
⑧ 何を言っても無視され続けた	1	2	3
⑨ あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された	1	2	3

ひとつでも「1」又は「2」と  
答えた方は問 25-2. へ

すべて「3」と  
答えた方は問 26. へ

問 25-1. で、ひとつでも「何度もあった」又は「1, 2度あった」と答えた方におたずねします。

◆問 25-2. あなたはこれまでに、問 25-1. であげたような行為について、だれかにうち明けたり、相談したりしましたか。(〇はいくつでも)

1. 配偶者暴力相談支援センター (DV 相談室, 婦人相談所その他の施設)
2. 警察
3. 法務局・地方法務局, 人権擁護委員
4. 男女共同参画センター
5. 上記 (1~4) 以外の公的な機関
6. 民間の専門家や専門機関 (弁護士・弁護士会, カウンセリング機関, 民間シェルターなど)
7. 医療関係者 (医師, 看護師など)
8. 学校関係者 (教員, 養護教員, スクールカウンセラーなど)
9. 家族や親戚
10. 友人・知人
11. その他 (具体的に )
12. どこ (だれ) にも相談しなかった

「12. どこ (だれ) にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。

◆問 25-3. どこ (だれ) にも相談しなかったのは、なぜですか。(〇はいくつでも)

1. どこに (だれに) 相談したらよいのかわからなかった
2. 相談しても無駄だと思った
3. 相談したことがわかると仕返しを受けたり, もっとひどい暴力を受けると思った
4. 自分さえ我慢したら, なんとかこのままやっていけると思った
5. 世間体が悪い
6. 他人を巻き込みたくない
7. そのことについて思い出したくなかった
8. 自分にも悪いところがある
9. 相手の行為は愛情の表現だと思った
10. 相談するほどのことではないと思った
11. だれにも話す気持ちになれなかった
12. その他 (具体的に )

次は問 26. へ

問26. あなたは過去5年間に、交際相手がいきましたか。(○は1つ)

1. いる (いた)	2. いない (いなかった)	→ 次は問 27. へ
------------	----------------	-------------

「1. いる (いた)」と答えた方におたずねします。

◆問26-1. あなたは過去5年間に、交際相手から次のようなことをされたことはありますか。  
(○はそれぞれ1つつ)

①～⑨までの項目について、それぞれ  
選んだ番号に○をつけてください。

	あ 何 つ た も	あ つ た 1, 2 度	ま っ た く な い
① 命の危険を感じるくらいの暴力を受けた	1	2	3
② 医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた	1	2	3
③ 医師の治療が必要とされない程度の暴行を受けた	1	2	3
④ 大声でどなられたり、ことばによる暴力をあげられた	1	2	3
⑤ 金銭的な依存や強要を受けた	1	2	3
⑥ 交友関係や電話・メールを細かく監視された	1	2	3
⑦ 危害が加えられるのではと恐怖を感じるほどの脅しを受けた	1	2	3
⑧ 何を言っても無視され続けた	1	2	3
⑨ あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された	1	2	3

次は問 27. へ

問 27. あなたは過去5年間に、セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）をされたことはありますか。(○はいくつでも) ※セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）とは、職場などにおいて、他の者を不快にさせる性的な言動のことをいいます。

1. 自分自身が被害にあったことがある 2. 友人や職場の仲間など、自分の周りに被害にあった人がいる 3. 自分や自分の周りに被害にあった人はいない 4. わからない	→ 次は問 28. へ
--	-------------

「1. 自分自身が被害にあったことがある」又は「2. 友人や職場の仲間など、自分の周りに被害にあった人がいる」と答えた方におたずねします。

◆問 27-1. あなたは、その時やその後はどうしましたか。(○はいくつでも)

1. 相手に直接抗議した 2. 家族や友人に相談した 3. 職場や学校に相談した	4. 公的機関や民間の相談機関に相談した 5. がまんした(何もしなかった) 6. その他(具体的に )
--	--

次は問 28. へ

## 男女共同参画の取組についておたずねします。

問28. 芦屋市では男女共同参画社会の実現に向けての様々な取組をしています。あなたは、次の「言葉」や「内容」を知っていますか。（○はそれぞれ1つずつ）

①～⑨までの項目について、それぞれ選んだ番号に○をつけてください。

	言葉も内容も知っている	言葉を聞いたことがある	知らない・聞いたことがない
① 芦屋市男女共同参画推進条例	1	2	3
② 第3次芦屋市男女共同参画行動計画ウィザス・プラン	1	2	3
③ 芦屋市配偶者等からの暴力対策基本計画（芦屋市DV対策基本計画）	1	2	3
④ 芦屋市男女共同参画センター ウィザスあしや	1	2	3
⑤ 男女共同参画週間記念事業（今年度は6月に映画「アリスのままで」上映）	1	2	3
⑥ 芦屋市男女共同参画センター通信「ウィザス」	1	2	3
⑦ 芦屋市男女共同参画団体協議会	1	2	3
⑧ 女性の悩み相談（心の悩み、家事調停、法律相談）	1	2	3
⑨ 芦屋市DV相談室（芦屋市配偶者暴力相談支援センター）	1	2	3

問 29. 男女共同参画に関する次の「ことがら」について、見たり聞いたりしたことはありますか。（○はいくつでも）

1. 男女共同参画社会基本法
2. 男女雇用機会均等法（雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律）
3. DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）
4. ストーカー規制法（ストーカー行為等の規制等に関する法律）
5. 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）
6. 女子差別撤廃条約
7. ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）
8. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
9. ポジティブ・アクション（積極的格差是正措置）
10. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）
11. デートDV（交際相手からの暴力）
12. 見たり聞いたりしたものはない

問 30. 今後、あらゆる分野で男女がさらに対等な社会となるために、重要なことはどのようなこと  
だと思いますか。（〇はいくつでも）

1. 法律や制度の見直し・強化（仕事と生活の両立支援、雇用均等、女性登用等）
2. 国・自治体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
3. 民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する
4. これまで女性が少なかった分野（研究者等）への女性の進出を支援する
5. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める
6. 保育の施設・サービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する
7. 子育てや介護中であっても、仕事が続けられるようにする
8. 子育てや介護等で、いったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
9. 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する
10. 男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する
11. 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする
12. その他（具体的に
13. 特にな

●男女共同参画社会の実現に向けた取組について、ご意見・ご要望があればどんなことでも  
結構です。ご自由にお書きください。

---

---

---

---

---

---

---

---

質問は以上です。お忙しい中、ご協力いただき、ありがとうございました。

記入もれがないか、もう一度ご確認の上、同封の返信用封筒で、**8月31日（水）**  
までにご返送くださいますようお願いいたします。

なお、この調査結果は、「第2次芦屋市配偶者等からの暴力対策基本計画」と（通称）  
女性活躍推進法に基づく「女性活躍推進計画」を盛り込んだ「第4次芦屋市男女共同参  
画行動計画ウィザス・プラン」策定の基礎資料とさせていただきます。







# 芦屋市 男女共同参画に関する市民意識調査 調査結果報告書

平成 29 (2017) 年 3 月

発行・編集：芦屋市 市民生活部 男女共同参画推進課

〒659-0065 芦屋市公光町 5 番 8 号

TEL 0797(38)2023 FAX 0797(38)2175

H P [http:// www.city.ashiya.lg.jp/danjo/withus/shisaku.html](http://www.city.ashiya.lg.jp/danjo/withus/shisaku.html)